

PCT/JP2004/016122

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

02.11.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application: 2003年10月31日

出願番号  
Application Number: 特願2003-373213

[ST. 10/C]: [JP2003-373213]

出願人  
Applicant(s): シャープ株式会社

REC'D 23 DEC 2004

WIPO

PCT

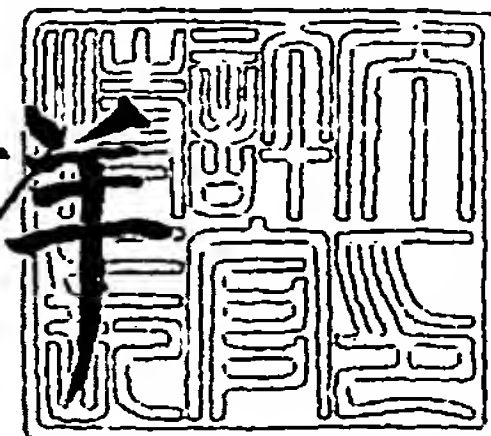
PRIORITY  
DOCUMENT

SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2004年12月 9日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小川



BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願  
【整理番号】 1031829  
【提出日】 平成15年10月31日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 G06F 17/60  
【発明者】  
    【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内  
    【氏名】 上田 宏高  
【発明者】  
    【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内  
    【氏名】 松原 敬信  
【発明者】  
    【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内  
    【氏名】 千葉 雅裕  
【特許出願人】  
    【識別番号】 000005049  
    【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号  
    【氏名又は名称】 シャープ株式会社  
【代理人】  
    【識別番号】 100064746  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 深見 久郎  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100085132  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 森田 俊雄  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100083703  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 仲村 義平  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100096781  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 堀井 豊  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100098316  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 野田 久登  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100109162  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 酒井 將行  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 008693  
    【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 図面 1  
    【物件名】 要約書 1

特願 2 0 0 3 - 3 7 3 2 1 3

ページ : 2/E

【包括委任状番号】 0208500

出証特 2 0 0 4 - 3 1 1 2 4 6 7

## 【書類名】 特許請求の範囲

## 【請求項 1】

メッセージデータを作成するためのメッセージデータ作成補助領域と、前記メッセージデータを表示するためのメッセージ表示用領域とを含んで構成されるテンプレートデータを読み込むための第 1 のデータ読み込み手段と、

前記テンプレートデータに含まれる前記メッセージデータ作成補助領域を判断するメッセージデータ作成補助領域判断手段と、

前記メッセージ作成補助領域内のデータを利用して、前記メッセージデータを編集するメッセージデータ編集手段とを備え、

前記メッセージデータ編集手段は、前記読み込まれたテンプレートデータに含まれたメッセージデータ作成補助領域を含んだ前記メッセージデータを作成する、データ処理装置。

## 【請求項 2】

前記メッセージデータ作成補助領域には、前記メッセージデータにおいて再生されるメディアデータと、前記メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、前記メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、前記メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、前記メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、前記メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとの少なくとも 1 つが含まれる、請求項 1 に記載のデータ処理装置。

## 【請求項 3】

前記メディアデータの編集のために起動する機能は、他の装置にアクセスして利用可能な、前記他の装置から提供される機能である、請求項 2 に記載のデータ処理装置。

## 【請求項 4】

前記テンプレートデータは、タグを利用して記述されたデータであって、前記メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、前記メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、前記メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、前記メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、前記メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとは、前記タグまたは前記タグの属性により判別可能に記述され、

前記メッセージデータ作成補助領域判断手段は、前記タグまたは前記タグの属性を判別して、前記メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、前記メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、前記メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、前記メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、前記メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとの少なくとも 1 つを判別することで、前記テンプレートデータに含まれる前記メッセージデータ作成補助領域を判断する、請求項 2 または 3 に記載のデータ処理装置。

## 【請求項 5】

前記テンプレートデータは、タグを利用して記述されたデータであって、前記タグは、前記メッセージ作成補助領域であることを示すタグを含み、前記メッセージデータ作成補助領域判断手段は、前記メッセージ作成補助領域であることを示すタグを利用して、前記テンプレートデータに含まれる前記メッセージ作成補助領域を判断する、請求項 2 または 3 に記載のデータ処理装置。

## 【請求項 6】

前記テンプレートデータは、タグを利用して記述されたデータであって、前記タグは、前記メッセージ作成補助領域以外の領域であることを示すタグを含み、前記メッセージデータ作成補助領域判断手段は、前記メッセージ作成補助領域以外の領域であることを示すタグを利用して、前記テンプレートデータに含まれる前記メッセージ作成補助領域を判断する、請求項 2 または 3 に記載のデータ処理装置。

## 【請求項 7】

前記テンプレートデータは、当該テンプレートデータの提供元を特定する情報が記述されたテンプレートデータ入手先情報領域をさらに含む、請求項 1 に記載のデータ処理装置

## 【請求項 8】

前記テンプレートデータは、前記メッセージデータ作成補助領域と前記メッセージデータ表示用領域と前記テンプレートデータ入手先情報領域とのうちの少なくとも 1 つの領域の箇所を示すテンプレートデータ構成要素情報を含む、請求項 1～7 のいずれかに記載のデータ処理装置。

## 【請求項 9】

前記テンプレートデータ構成要素情報は前記テンプレートデータのヘッダ領域に含まれ

、前記メッセージ作成補助領域判断手段は、前記テンプレートデータのヘッダ領域に含まれる情報に基づいて、前記テンプレートデータに含まれる前記メッセージ作成補助領域を判断する、請求項 8 に記載のデータ処理装置。

## 【請求項 10】

前記テンプレートデータは複数のファイル単位のデータを含んで構成され、前記テンプレートデータ構成要素情報は、前記テンプレートデータ内の前記ファイル単位のデータのうちの 1 つのデータである、請求項 8 に記載のデータ処理装置。

## 【請求項 11】

前記メッセージ表示用領域には、前記メッセージデータにおいて再生されるメディアデータと、前記メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、前記メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、前記メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、前記メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、前記メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとの少なくとも 1 つが含まれる、請求項 1～10 のいずれかに記載のデータ処理装置。

## 【請求項 12】

前記テンプレートデータに含まれる前記メッセージ表示用領域を判断する第 1 のメッセージ表示用領域判断手段をさらに備え、

前記メッセージデータ編集手段は、前記メッセージデータを編集する際に、前記メッセージ表示用領域も同時に編集する、請求項 11 に記載のデータ処理装置。

## 【請求項 13】

前記メッセージデータ編集手段は、前記メッセージデータ作成補助領域判断手段で判断されたメッセージ作成補助領域内の情報に従って前記メッセージデータの編集を行ない、前記編集されたデータと、前記メッセージ表示用領域の情報とを用いてメッセージデータを作成する、請求項 11 または 12 に記載のデータ処理装置。

## 【請求項 14】

前記メッセージデータ編集手段は、前記編集されたメッセージ表示用領域に、前記読込んだテンプレートデータに含まれたメッセージデータ作成補助領域を加えてメッセージデータを作成する、請求項 11～13 のいずれかに記載のデータ処理装置。

## 【請求項 15】

前記メッセージデータ編集手段は、前記メッセージデータを作成する際に、前記メッセージ表示用領域から、編集可能なメディアデータを指定する情報と、前記メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとの少なくとも 1 つを消去する、請求項 14 に記載のデータ処理装置。

## 【請求項 16】

前記メッセージデータ編集手段は、前記メッセージデータを作成する際に、前記読込んだテンプレートデータの入手先を、前記編集されたメッセージデータ内に記述する、請求項 13 に記載のデータ処理装置。

## 【請求項 17】

前記メッセージデータ編集手段は、ヘッダ領域に前記メッセージ作成補助領域の箇所を示す情報を含む前記メッセージデータを作成する、請求項 13～16 のいずれかに記載の

データ処理装置。

【請求項 1 8】

作成されたメッセージデータを送信するための通信手段をさらに備える、請求項 1 ～ 1 7 のいずれかに記載のデータ処理装置。

【請求項 1 9】

受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する通信手段と、  
前記受信したメッセージデータを記憶する記憶手段と、  
前記記憶された前記メッセージデータを読み込む第 2 のデータ読み込み手段と、  
前記読み込まれたメッセージデータに含まれる前記メッセージ表示用領域を判断する第 2 のメッセージ表示用領域判断手段と、

前記メッセージ表示用領域内のデータを利用して前記メッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生手段とをさらに備え、

前記メッセージデータ編集手段は、前記読み込んだメッセージデータをテンプレートデータとみなしてメッセージデータを作成する、請求項 1 ～ 1 8 のいずれかに記載のデータ処理装置。

【請求項 2 0】

受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する通信手段と、  
前記受信したメッセージデータを記憶する記憶手段と、  
前記記憶された前記メッセージデータを読み込むデータ読み込み手段と、  
前記読み込まれたメッセージデータに含まれる前記メッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断手段と、

前記メッセージ表示用領域内のデータを利用して前記メッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生手段と、

前記メッセージデータをテンプレートデータとして書出すテンプレートデータ書出手段とを備える、データ処理装置。

【請求項 2 1】

受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する通信手段と、  
前記受信したメッセージデータを記憶する記憶手段と、  
前記記憶された前記メッセージデータを読み込むデータ読み込み手段と、  
前記読み込まれたメッセージデータに含まれる前記メッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断手段と、

前記メッセージ表示用領域内のデータを利用して前記メッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生手段と、

前記メッセージデータに含まれる前記メッセージデータ作成補助領域を判断するメッセージデータ作成補助領域判断手段と、

前記判断されたメッセージデータ作成補助領域のデータを利用して、前記メッセージデータをテンプレートデータとして書出すテンプレートデータ書出手段とを備える、データ処理装置。

【請求項 2 2】

前記メッセージデータ作成補助領域には、前記メッセージデータにおいて再生されるメディアデータと、前記メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、前記メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、前記メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、前記メディアデータの編集のために起動する機能を特定する 1 つが含まれる、請求項 2 0 または 2 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 2 3】

前記メディアデータの編集のために起動する機能は、他の装置にアクセスして利用可能

な、前記他の装置から提供される機能である、請求項 22 に記載のデータ処理装置。

【請求項 24】

前記メッセージデータは、タグを利用して記述されたデータであって、

前記メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、前記メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、前記メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、前記メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、前記メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとは、前記タグまたは前記タグの属性により判別可能に記述され、

前記メッセージデータ作成補助領域判断手段は、前記タグまたは前記タグの属性を判別して、前記メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、前記メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、前記メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、前記メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、前記メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとの少なくとも 1 つを判別することで、前記メッセージデータに含まれる前記メッセージデータ作成補助領域を判断する、請求項 22 または 23 に記載のデータ処理装置。

【請求項 25】

前記メッセージデータは、タグを利用して記述されたデータであって、

前記タグは、前記メッセージ作成補助領域であることを示すタグを含み、

前記メッセージデータ作成補助領域判断手段は、前記メッセージ作成補助領域であることを示すタグを利用して、前記メッセージデータに含まれる前記メッセージ作成補助領域を判断する、請求項 22 または 23 に記載のデータ処理装置。

【請求項 26】

受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたテンプレートデータの入手先を特定する情報が記述されたテンプレートデータ入手先情報領域とを含むメッセージデータを受信する通信手段と、

前記受信したメッセージデータを記憶する記憶手段と、

前記記憶された前記メッセージデータを読み込むデータ読み手段と、

前記読み込まれたメッセージデータに含まれる前記メッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断手段と、

前記メッセージ表示用領域内のデータを利用して前記メッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生手段と、

前記テンプレートデータ入手先情報領域内のデータを利用して前記メッセージデータの作成時に利用されたテンプレートデータの入手先を判断するテンプレートデータ入手先判断手段と、

前記入手先から前記テンプレートデータを取得するテンプレートデータ取得手段と、

前記取得したテンプレートデータを利用して、メッセージデータを作成するメッセージデータ作成手段とを備える、データ処理装置。

【請求項 27】

前記メッセージデータは、タグを利用して記述されたデータであって、

前記タグは、前記メッセージ作成補助領域以外の領域であることを示すタグを含み、

前記メッセージデータ作成補助領域判断手段は、前記メッセージ作成補助領域以外の領域であることを示すタグを利用して、前記メッセージデータに含まれる前記メッセージ作成補助領域を判断する、請求項 22 または 23 に記載のデータ処理装置。

【請求項 28】

前記メッセージデータは、前記メッセージデータ作成補助領域と前記メッセージデータ表示用領域と前記テンプレートデータ入手先情報領域とのうちの少なくとも 1 つの領域の箇所を示すメッセージデータ構成要素情報を含む、請求項 20 ～ 27 のいずれかに記載のデータ処理装置。

【請求項 29】

前記メッセージデータ構成要素情報は前記メッセージデータのヘッダ領域に含まれ、

前記メッセージ作成補助領域判断手段は、前記メッセージデータのヘッダ領域に含まれる情報に基づいて、前記メッセージデータに含まれる前記メッセージ作成補助領域を判断する、請求項 28 に記載のデータ処理装置。

【請求項 30】

前記メッセージデータは複数のファイル単位のデータを含んで構成され、前記メッセージデータ構成要素情報は、前記メッセージデータ内の前記ファイル単位のデータのうちの 1 つのデータである、請求項 28 に記載のデータ処理装置。

【請求項 31】

メッセージデータを作成するためのメッセージデータ作成補助領域と、前記メッセージデータを表示するためのメッセージ表示用領域とを含んで構成されるテンプレートデータを読み込むためのデータ読み込みステップと、

前記テンプレートデータに含まれる前記メッセージデータ作成補助領域を判断するメッセージデータ作成補助領域判断ステップと、

前記メッセージ作成補助領域内のデータを利用して、前記メッセージデータを編集するメッセージデータ編集ステップとを備え、

前記メッセージデータ編集ステップは、前記読み込まれたテンプレートデータに含まれたメッセージデータ作成補助領域を含んだ前記メッセージデータを作成する、データ処理方法。

【請求項 32】

受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する受信ステップと、

前記受信したメッセージデータを記憶装置に格納する格納ステップと、

前記記憶装置から格納された前記メッセージデータを読み込むデータ読み込みステップと、

前記読み込まれたメッセージデータに含まれる前記メッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断ステップと、

前記メッセージ表示用領域内のデータを利用して前記メッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生ステップと、

前記メッセージデータをテンプレートデータとして書出すテンプレートデータ書出ステップとを備える、データ処理方法。

【請求項 33】

受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する受信ステップと、

前記受信したメッセージデータを記憶装置に格納する格納ステップと、

前記記憶装置から格納された前記メッセージデータを読み込むデータ読み込みステップと、

前記読み込まれたメッセージデータに含まれる前記メッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断ステップと、

前記メッセージ表示用領域内のデータを利用して前記メッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生ステップと、

前記メッセージデータに含まれる前記メッセージデータ作成補助領域を判断するメッセージデータ作成補助領域判断ステップと、

前記判断されたメッセージデータ作成補助領域のデータを利用して、前記メッセージデータをテンプレートデータとして書出すテンプレートデータ書出ステップとを備える、データ処理方法。

【請求項 34】

受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたテンプレートデータの入手先を特定する情報が記述されたテンプレートデータ入手先情報領域とを含むメッセージデータを受信する受信ステップと、

前記受信したメッセージデータを記憶装置に格納する格納ステップと、

前記記憶装置から格納された前記メッセージデータを読み込むデータ読み込みステップと、

前記読み込まれたメッセージデータに含まれる前記メッセージ表示用領域を判断するメッ

セージ表示用領域判断ステップと、

前記メッセージ表示用領域内のデータを利用して前記メッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生ステップと、

前記テンプレートデータ入手先情報領域内のデータを利用して前記メッセージデータの作成時に利用されたテンプレートデータの入手先を判断するテンプレートデータ入手先判断ステップと、

前記入手先から前記テンプレートデータを取得するテンプレートデータ取得ステップと、

前記取得したテンプレートデータを利用して、メッセージデータを作成するメッセージデータ作成ステップとを備える、データ処理方法。

【請求項 3 5】

データ処理をコンピュータに実行させるプログラムであって、

メッセージデータを作成するためのメッセージデータ作成補助領域と、前記メッセージデータを表示するためのメッセージ表示用領域とを含んで構成されるテンプレートデータを読み込むためのデータ読み込みステップと、

前記テンプレートデータに含まれる前記メッセージデータ作成補助領域を判断するメッセージデータ作成補助領域判断ステップと、

前記メッセージ作成補助領域内のデータを利用して、前記メッセージデータを編集するメッセージデータ編集ステップとを実行させ、

前記メッセージデータ編集ステップは、前記読み込まれたテンプレートデータに含まれたメッセージデータ作成補助領域を含んだ前記メッセージデータを作成する、データ処理プログラム。

【請求項 3 6】

データ処理をコンピュータに実行させるプログラムであって、

受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する受信ステップと、

前記受信したメッセージデータを記憶装置に格納する格納ステップと、

前記記憶装置から格納された前記メッセージデータを読み込むデータ読み込みステップと、

前記読み込まれたメッセージデータに含まれる前記メッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断ステップと、

前記メッセージ表示用領域内のデータを利用して前記メッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生ステップと、

前記メッセージデータをテンプレートデータとして書出すテンプレートデータ書出ステップとを実行させる、データ処理プログラム。

【請求項 3 7】

データ処理をコンピュータに実行させるプログラムであって、

受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する受信ステップと、

前記受信したメッセージデータを記憶装置に格納する格納ステップと、

前記記憶装置から格納された前記メッセージデータを読み込むデータ読み込みステップと、

前記読み込まれたメッセージデータに含まれる前記メッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断ステップと、

前記メッセージ表示用領域内のデータを利用して前記メッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生ステップと、

前記メッセージデータに含まれる前記メッセージデータ作成補助領域を判断するメッセージデータ作成補助領域判断ステップと、

前記判断されたメッセージデータ作成補助領域のデータを利用して、前記メッセージデータをテンプレートデータとして書出すテンプレートデータ書出ステップとを実行させる、データ処理プログラム。

【請求項 3 8】

データ処理をコンピュータに実行させるプログラムであって、  
受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたテンプレートデータの入手先を特定する情報が記述されたテンプレートデータ入手先情報領域とを含むメッセージデータを受信する受信ステップと、  
前記受信したメッセージデータを記憶装置に格納する格納ステップと、  
前記記憶装置から格納された前記メッセージデータを読み込むデータ読み込みステップと、  
前記読み込まれたメッセージデータに含まれる前記メッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断ステップと、  
前記メッセージ表示用領域内のデータを利用して前記メッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生ステップと、  
前記テンプレートデータ入手先情報領域内のデータを利用して前記メッセージデータの作成時に利用されたテンプレートデータの入手先を判断するテンプレートデータ入手先判断ステップと、  
前記入手先から前記テンプレートデータを取得するテンプレートデータ取得ステップと、  
前記取得したテンプレートデータを利用して、メッセージデータを作成するメッセージデータ作成ステップとを実行させる、データ処理プログラム。

【書類名】明細書

【発明の名称】データ処理装置、データ処理方法、およびデータ処理プログラム

【技術分野】

【0001】

この発明は、データ処理装置、データ処理方法、およびデータ処理プログラムに関し、特に、メッセージデータを作成、送信、および受信することのできるデータ処理装置、データ処理方法、およびデータ処理プログラムに関する。

【背景技術】

【0002】

携帯電話等の通信機器の普及に伴い、作成したメッセージデータを他のユーザに送受信するようなコミュニケーションが広がっている。特に、昨今の携帯電話等の機能向上に伴い、テキストや画像・音・動画など複数のメディアデータが含まれた、あるいはこれら複数メディアデータのレイアウトや再生・表示タイミングが含まれた、メッセージの作成・送信・受信を行なうコミュニケーションも可能となっている。

【0003】

一般に、このようなメッセージは複雑なために作成することは困難であるが、この解決方法として、メッセージ作成のためのテンプレート（雛型）を用いて、必要なテキストや画像・音・動画などのメディアデータを指定するだけで、メッセージ作成を容易にする方法が一般的である。

【0004】

たとえば、マルチメディア情報が付加された電子メールを容易に作成する方法として、特許文献1は電子メール作成方法を開示している。すなわち、特許文献1には、複数のコンテンツデータと各コンテンツデータのレイアウト情報とを記述したメールテンプレートを用意し、この複数のコンテンツデータの中から所望のコンテンツデータを選択しながら、選択したコンテンツデータからメールテンプレートのレイアウト情報にしたがってマルチメディアメールを作成する電子メール作成方法が記載されている。

【0005】

ただし、このようなマルチメディアメールをメッセージとして受取ったメッセージ受信者がこのメッセージを気に入り、同様のメッセージを作成したい、あるいは、このメッセージを作成する元となったテンプレートを用いて容易に別のメッセージを作成したい、と考えても、受取ったメッセージの中にテンプレートの情報は失われているために、メッセージの作成者から別途テンプレートを譲り受けるか、テンプレートの入手先あるいは入手方法を教えてもらう必要がある、という問題がある。

【0006】

この問題に類似した問題を解決する方法として、特許文献2はデータ提供方法およびデータ取得方法を開示している。すなわち、特許文献2には、嵌入画像（実施例では、広告などの画像）が含まれたテンプレート画像というものがあり、作成ユーザが指定した画像をテンプレート画像内の嵌入画像の上に嵌入するようにメッセージを作成し、送信するデータ提供方法が記載されている。このとき、受信側は、このテンプレートを再利用したいときには、作成ユーザが指定した画像をはずして（このときに嵌入画像、すなわち広告などの画像が現れる）、再び、受信側が指定した画像を嵌入画像上に嵌込んだメッセージを作成し、第三者に送信可能とするデータ提供方法およびデータ取得方法が記載されている。

【特許文献1】特開2002-324036号公報

【特許文献2】特開2002-189666号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

このように、容易なメッセージ作成を可能とするためにテンプレートを利用する方法は一般的であるが、該メッセージを受信した受信側が、受信メッセージに基づいて、該メッセージが作成されたときと同様の手順または構成で、容易にメッセージ作成することは難

しという問題があった。この問題を解決するためには、メッセージの作成者から、別途テンプレートを譲受けるか、テンプレートの入手先あるいは入手方法を教えてもらう必要があるという手間がかかる。

【0008】

また、特許文献2に開示されている方法では、上述の如く、嵌込画像を含んだテンプレート画像を再利用して流通させることが可能だが、該テンプレート画像には、メディアデータを再生するための時間情報やレイアウト情報、あるいはメディアデータ編集のために起動する機能の指示といった、メッセージをより容易に作成可能とするための作成補助情報は含まれておらず、このために、受信したメッセージに基づいて、該メッセージが作成されたときと同様の手順または構成で、容易にメッセージを作成する方法自体を流通させることはできないという問題がある。

【0009】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであって、受信したメッセージに基づいて、該メッセージが作成されたときと同様の手順または構成で、容易にメッセージを作成することのできるデータ処理装置、データ処理方法、およびデータ処理プログラムを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0010】

上記目的を達成するために、本発明のある局面に従うと、データ処理装置は、メッセージデータを作成するためのメッセージデータ作成補助領域と、メッセージデータを表示するためのメッセージ表示用領域とを含んで構成されるテンプレートデータを読込むための第1のデータ読込手段と、テンプレートデータに含まれるメッセージデータ作成補助領域を判断するメッセージデータ作成補助領域判断手段と、メッセージ作成補助領域内のデータを利用して、メッセージデータを編集するメッセージデータ編集手段とを備え、メッセージデータ編集手段は、読込まれたテンプレートデータに含まれたメッセージデータ作成補助領域を含んだメッセージデータを作成する。

【0011】

また、メッセージデータ作成補助領域には、メッセージデータにおいて再生されるメディアデータと、メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとの少なくとも1つが含まれることが好ましい。

【0012】

さらに、上記メディアデータの編集のために起動する機能は、他の装置にアクセスして利用可能な、他の装置から提供される機能であることがより好ましい。

【0013】

また、テンプレートデータは、タグを利用して記述されたデータであって、メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとは、タグまたはタグの属性により判別可能に記述され、メッセージデータ作成補助領域判断手段は、タグまたはタグの属性を判別して、メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとの少なくとも1つを判別することで、テンプレートデータに含まれるメッセージデータ作成補助領域を判断することが好ましい。

【0014】

または、テンプレートデータは、タグを利用して記述されたデータであって、タグは、

メッセージ作成補助領域であることを示すタグを含み、メッセージデータ作成補助領域判断手段は、メッセージ作成補助領域であることを示すタグを利用して、テンプレートデータに含まれるメッセージ作成補助領域を判断することが好ましい。

【0015】

または、テンプレートデータは、タグを利用して記述されたデータであって、タグは、メッセージ作成補助領域以外の領域であることを示すタグを含み、メッセージデータ作成補助領域判断手段は、メッセージ作成補助領域以外の領域であることを示すタグを利用して、テンプレートデータに含まれるメッセージ作成補助領域を判断することが好ましい。

【0016】

また、テンプレートデータは、当該テンプレートデータの提供元を特定する情報が記述されたテンプレートデータ入手先情報領域をさらに含むことが好ましい。

【0017】

また、テンプレートデータは、メッセージデータ作成補助領域とメッセージデータ表示用領域とテンプレートデータ入手先情報領域とのうちの少なくとも1つの領域の箇所を示すテンプレートデータ構成要素情報を含むことが好ましい。

【0018】

さらに、上記テンプレートデータ構成要素情報はテンプレートデータのヘッダ領域に含まれ、メッセージ作成補助領域判断手段は、テンプレートデータのヘッダ領域に含まれる情報に基づいて、テンプレートデータに含まれるメッセージ作成補助領域を判断することがより好ましい。

【0019】

または、テンプレートデータは複数のファイル単位のデータを含んで構成され、上記テンプレートデータ構成要素情報は、テンプレートデータ内のファイル単位のデータのうちの1つのデータであることがより好ましい。

【0020】

また、メッセージ表示用領域には、メッセージデータにおいて再生されるメディアデータと、メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとの少なくとも1つが含まれることが好ましい。

【0021】

さらに、データ処理装置は、テンプレートデータに含まれるメッセージ表示用領域を判断する第1のメッセージ表示用領域判断手段をさらに備え、メッセージデータ編集手段は、メッセージデータを編集する際に、メッセージ表示用領域も同時に編集することが好ましい。

【0022】

また、メッセージデータ編集手段は、メッセージデータ作成補助領域判断手段で判断されたメッセージ作成補助領域内の情報に従ってメッセージデータの編集を行ない、編集されたデータと、メッセージ表示用領域の情報とを用いてメッセージデータを作成することが好ましい。

【0023】

また、メッセージデータ編集手段は、編集されたメッセージ表示用領域に、読込んだテンプレートデータに含まれたメッセージデータ作成補助領域を加えてメッセージデータを作成することが好ましい。

【0024】

さらに、メッセージデータ編集手段は、メッセージデータを作成する際に、メッセージ表示用領域から、編集可能なメディアデータを指定する情報と、メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとの少なくとも1つを消去することがより好ましい。

【0025】

また、メッセージデータ編集手段は、メッセージデータを作成する際に、読込んだテンプレートデータの入手先を、編集されたメッセージデータ内に記述することが好ましい。

【0026】

また、メッセージデータ編集手段は、ヘッダ領域にメッセージ作成補助領域の箇所を示す情報を含むメッセージデータを作成することがより好ましい。

【0027】

また、データ処理装置は、作成されたメッセージデータを送信するための通信手段をさらに備えることが好ましい。

【0028】

また、データ処理装置は、受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する通信手段と、受信したメッセージデータを記憶する記憶手段と、記憶されたメッセージデータを読み込む第2のデータ読み込み手段と、読み込まれたメッセージデータに含まれるメッセージ表示用領域を判断する第2のメッセージ表示用領域判断手段と、メッセージ表示用領域内のデータを利用してメッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生手段とをさらに備え、メッセージデータ編集手段は、読込んだメッセージデータをテンプレートデータとみなしてメッセージデータを作成することが好ましい。

【0029】

本発明の他の局面に従うと、データ処理装置は、受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する通信手段と、受信したメッセージデータを記憶する記憶手段と、記憶されたメッセージデータを読み込むデータ読み込み手段と、読み込まれたメッセージデータに含まれるメッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断手段と、メッセージ表示用領域内のデータを利用してメッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生手段と、メッセージデータをテンプレートデータとして書出すテンプレートデータ書出手段とを備える。

【0030】

本発明のさらに他の局面に従うと、データ処理装置は、受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する通信手段と、受信したメッセージデータを記憶する記憶手段と、記憶されたメッセージデータを読み込むデータ読み込み手段と、読み込まれたメッセージデータに含まれるメッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断手段と、メッセージ表示用領域内のデータを利用してメッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生手段と、メッセージデータに含まれるメッセージデータ作成補助領域を判断するメッセージデータ作成補助領域判断手段と、判断されたメッセージデータ作成補助領域のデータを利用して、メッセージデータをテンプレートデータとして書出すテンプレートデータ書出手段とを備える。

【0031】

また、メッセージデータ作成補助領域には、メッセージデータにおいて再生されるメディアデータと、メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとの少なくとも1つが含まれることが好ましい。

【0032】

さらに、上記メディアデータの編集のために起動する機能は、他の装置にアクセスして利用可能な、他の装置から提供される機能であることがより好ましい。

【0033】

また、メッセージデータは、タグを利用して記述されたデータであって、メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、メディアデータの再生のタイミングを指定する情報

と、メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとは、タグまたはタグの属性により判別可能に記述され、メッセージデータ作成補助領域判断手段は、タグまたはタグの属性を判別して、メディアデータを再生する際のレイアウト情報と、メディアデータの再生のタイミングを指定する情報と、メディアデータのうち編集可能なメディアデータを指定する情報と、メディアデータの編集のために起動する機能を特定する情報と、メッセージデータを作成する際に有効なガイダンスのデータとの少なくとも1つを判別することで、メッセージデータに含まれるメッセージデータ作成補助領域を判断することが好ましい。

**【0034】**

または、メッセージデータは、タグを利用して記述されたデータであって、タグは、メッセージ作成補助領域であることを示すタグを含み、メッセージデータ作成補助領域判断手段は、メッセージ作成補助領域であることを示すタグを利用して、メッセージデータに含まれるメッセージ作成補助領域を判断することが好ましい。

**【0035】**

本発明のさらに他の局面に従うと、データ処理装置は、受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたテンプレートデータの入手先を特定する情報が記述されたテンプレートデータ入手先情報領域とを含むメッセージデータを受信する通信手段と、受信したメッセージデータを記憶する記憶手段と、記憶されたメッセージデータを読み込むデータ読み込み手段と、読み込まれたメッセージデータに含まれるメッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断手段と、メッセージ表示用領域内のデータを利用してメッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生手段と、テンプレートデータ入手先情報領域内のデータを利用してメッセージデータの作成時に利用されたテンプレートデータの入手先を判断するテンプレートデータ入手先判断手段と、その入手先からテンプレートデータを取得するテンプレートデータ取得手段と、取得したテンプレートデータを利用して、メッセージデータを作成するメッセージデータ作成手段とを備える。

**【0036】**

また、メッセージデータは、タグを利用して記述されたデータであって、タグは、メッセージ作成補助領域以外の領域であることを示すタグを含み、メッセージデータ作成補助領域判断手段は、メッセージ作成補助領域以外の領域であることを示すタグを利用して、メッセージデータに含まれるメッセージ作成補助領域を判断することが好ましい。

**【0037】**

また、メッセージデータは、メッセージデータ作成補助領域とメッセージデータ表示用領域とテンプレートデータ入手先情報領域とのうちの少なくとも1つの領域の箇所を示すメッセージデータ構成要素情報を含むことが好ましい。

**【0038】**

さらに、上記メッセージデータ構成要素情報はメッセージデータのヘッダ領域に含まれ、メッセージ作成補助領域判断手段は、メッセージデータのヘッダ領域に含まれる情報に基づいて、メッセージデータに含まれるメッセージ作成補助領域を判断することがより好ましい。

**【0039】**

または、メッセージデータは複数のファイル単位のデータを含んで構成され、メッセージデータ構成要素情報は、メッセージデータ内のファイル単位のデータのうちの1つのデータであることがより好ましい。

**【0040】**

本発明のさらに他の局面に従うと、データ処理方法は、メッセージデータを作成するためのメッセージデータ作成補助領域と、メッセージデータを表示するためのメッセージ表示用領域とを含んで構成されるテンプレートデータを読み込むためのデータ読み込みステップと、テンプレートデータに含まれるメッセージデータ作成補助領域を判断するメッセージデータ作成補助領域判断ステップと、メッセージ作成補助領域内のデータを利用して、メッ

セージデータを編集するメッセージデータ編集ステップとを備え、メッセージデータ編集ステップは、読込まれたテンプレートデータに含まれたメッセージデータ作成補助領域を含んだメッセージデータを作成する。

【0041】

本発明のさらに他の局面に従うと、データ処理方法は、受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する受信ステップと、受信したメッセージデータを記憶装置に格納する格納ステップと、記憶装置から格納されたメッセージデータを読込むデータ読込ステップと、読込まれたメッセージデータに含まれるメッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断ステップと、メッセージ表示用領域内のデータを利用してメッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生ステップと、メッセージデータをテンプレートデータとして書出すテンプレートデータ書出ステップとを備える。

【0042】

本発明のさらに他の局面に従うと、データ処理方法は、受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する受信ステップと、受信したメッセージデータを記憶装置に格納する格納ステップと、記憶装置から格納されたメッセージデータを読込むデータ読込ステップと、読込まれたメッセージデータに含まれるメッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断ステップと、メッセージ表示用領域内のデータを利用してメッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生ステップと、メッセージデータに含まれるメッセージデータ作成補助領域を判断するメッセージデータ作成補助領域判断ステップと、判断されたメッセージデータ作成補助領域のデータを利用して、メッセージデータをテンプレートデータとして書出すテンプレートデータ書出ステップとを備える。

【0043】

本発明のさらに他の局面に従うと、データ処理方法は、受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたテンプレートデータの入手先を特定する情報が記述されたテンプレートデータ入手先情報領域とを含むメッセージデータを受信する受信ステップと、受信したメッセージデータを記憶装置に格納する格納ステップと、記憶装置から格納されたメッセージデータを読込むデータ読込ステップと、読込まれたメッセージデータに含まれる前記メッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断ステップと、メッセージ表示用領域内のデータを利用してメッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生ステップと、テンプレートデータ入手先情報領域内のデータを利用してメッセージデータの作成時に利用されたテンプレートデータの入手先を判断するテンプレートデータ入手先判断ステップと、入手先からテンプレートデータを取得するテンプレートデータ取得ステップと、取得したテンプレートデータを利用して、メッセージデータを作成するメッセージデータ作成ステップとを備える。

【0044】

本発明のさらに他の局面に従うと、データ処理プログラムは、データ処理をコンピュータに実行させるプログラムであって、メッセージデータを作成するためのメッセージデータ作成補助領域と、メッセージデータを表示するためのメッセージ表示用領域とを含んで構成されるテンプレートデータを読込むためのデータ読込ステップと、テンプレートデータに含まれるメッセージデータ作成補助領域を判断するメッセージデータ作成補助領域判断ステップと、メッセージ作成補助領域内のデータを利用して、メッセージデータを編集するメッセージデータ編集ステップとを実行させ、メッセージデータ編集ステップは、読込まれたテンプレートデータに含まれたメッセージデータ作成補助領域を含んだメッセージデータを作成する。

【0045】

本発明のさらに他の局面に従うと、データ処理プログラムは、データ処理をコンピュータに実行させるプログラムであって、受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する

受信ステップと、受信したメッセージデータを記憶装置に格納する格納ステップと、記憶装置から格納されたメッセージデータを読み込むデータ読み込みステップと、読み込まれたメッセージデータに含まれるメッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断ステップと、メッセージ表示用領域内のデータを利用してメッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生ステップと、メッセージデータをテンプレートデータとして書出すテンプレートデータ書出ステップとを実行させる。

**【0046】**

本発明のさらに他の局面に従うと、データ処理プログラムは、データ処理をコンピュータに実行させるプログラムであって、受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたメッセージデータ作成補助領域とを含むメッセージデータを受信する受信ステップと、受信したメッセージデータを記憶装置に格納する格納ステップと、記憶装置から格納されたメッセージデータを読み込むデータ読み込みステップと、読み込まれたメッセージデータに含まれるメッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断ステップと、メッセージ表示用領域内のデータを利用してメッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生ステップと、メッセージデータに含まれるメッセージデータ作成補助領域を判断するメッセージデータ作成補助領域判断ステップと、判断されたメッセージデータ作成補助領域のデータを利用して、メッセージデータをテンプレートデータとして書出すテンプレートデータ書出ステップとを実行させる。

**【0047】**

本発明のさらに他の局面に従うと、データ処理プログラムは、データ処理をコンピュータに実行させるプログラムであって、受信側で表示するためのメッセージ表示用領域と、作成時に利用されたテンプレートデータの入手先を特定する情報が記述されたテンプレートデータ入手先情報領域とを含むメッセージデータを受信する受信ステップと、受信したメッセージデータを記憶装置に格納する格納ステップと、記憶装置から格納されたメッセージデータを読み込むデータ読み込みステップと、読み込まれたメッセージデータに含まれるメッセージ表示用領域を判断するメッセージ表示用領域判断ステップと、メッセージ表示用領域内のデータを利用してメッセージデータの表示と再生とを行なうメッセージ再生ステップと、テンプレートデータ入手先情報領域内のデータを利用してメッセージデータの作成時に利用されたテンプレートデータの入手先を判断するテンプレートデータ入手先判断ステップと、その入手先からテンプレートデータを取得するテンプレートデータ取得ステップと、取得したテンプレートデータを利用して、メッセージデータを作成するメッセージデータ作成ステップとを実行させる。

**【発明を実施するための最良の形態】**

**【0048】**

以下に、図面を参照しつつ、本発明の実施の形態について説明する。以下の説明では、同一の部品および構成要素には同一の符号を付してある。それらの名称および機能も同じである。したがってそれらについての詳細な説明は繰返さない。

**【0049】****[第1の実施の形態]**

図1は、第1の実施の形態にかかるデータ通信システムの構成を示す図である。図1を参照して、本実施の形態にかかるデータ通信システムは、テンプレートデータを提供するテンプレート提供サーバ（以下、単にサーバと言う）2と、提供されたテンプレートの再生および編集を行なう再生・編集装置1とを含んで構成され、サーバ2と再生・編集装置1とは、インターネット、公衆回線網、あるいは放送網を介して通信を行なう。また、図1には示されていないものの、サーバ2と再生・編集装置1とはLAN（Local Area Network）等の専用回線を介して通信を行なってもよいし、無線通信を行なってもよい。また、図1に示されるように、再生・編集装置1は携帯電話やPDA（Personal Digital Assistants）、パーソナルコンピュータ、テレビジョン受像機、およびファクシミリ送受信機など、データを送受信する機能を備える装置が該当し、以下の説明においては、再生・編集装置1が携帯電話1であるものとして説明を行なう。

## 【0050】

ここで、テンプレートデータとは、一般には、XML (eXtensible Markup Language)、XHTML (eXtensible HyperText Markup Language)、SMIL (Synchronized Multimedia Integration Language)、SVG (Scalable Vector Graphics) などのデータ記述言語で記載されたデータを指す。また、テンプレートデータは、再生可能なデータ（以下、再生データと言う）を含んだ、上述のデータ記述言語で記載されたデータ、あるいはどのデータを再生するのかといった情報が記述されているデータ記述言語で記載された情報と、再生データとを備えるデータであってもよい。また、テンプレートデータは、再生データを含まず、どのデータを再生するのかといった情報の中に、再生データへのリンク情報を含むデータであってもよい。このようなデータ構造であることで、テンプレートデータは、再生・編集装置1において再生可能なデータであり、また編集可能なデータである。なお、本実施の形態において、テンプレートとは、再生あるいは編集可能なマルチメディアコンテンツデータであるスクリプトデータであって、ユーザの操作によって、任意のマルチメディアデータを当該スクリプト自身に加えることを実現できるスクリプト記述形式で表わされたデータの一形態を指す。

## 【0051】

次に、図2に、本データ通信システムに含まれる再生・編集装置である携帯電話1のハードウェア構成について具体例を示す。

## 【0052】

図2を参照して、本実施の形態のデータ通信システムに含まれる携帯電話1は、ユーザとのインタフェースである入出力部140と、CPU (Central Processing Unit) 等から構成されて、この携帯電話1の全体を制御する制御部120と、他の装置と通信するための通信部110と、ROM (Read Only Memory) やRAM (Random Access Memory) などから構成されて、制御部120において実行されるプログラムや、そのプログラムの中間データおよび他のコンピュータから受信したデータ等を記憶する記憶部130とを含んで構成される。

## 【0053】

さらに上述の入出力部140は、「1」、「2」などの数字ボタンおよび「R」、「L」などの方向ボタンなどを含むキーコード入力デバイス142と、ユーザに情報を表示するLCD (Liquid Crystal Display) などのディスプレイ144と、音声を入力するマイクロフォン146と、音声を出力するスピーカ148と、画像を撮影して入力するカメラ149とを含む。

## 【0054】

また、制御部120は、その内部にタイマを含む。

## 【0055】

このような携帯電話1において、ユーザがサーバ2から得たテンプレートの再生および編集を行なう処理は、携帯電話1のハードウェア、記憶部130に記憶され制御部120により実行されるソフトウェアおよびテンプレートデータにより実現される。なお、図2に示した携帯電話1自体の動作は周知であるので、ここではその詳細な説明は省略する。

## 【0056】

また、本データ通信システムに含まれるサーバ2は、一般的なパーソナルコンピュータ等で構築されるサーバであり、その構成についてここでの詳細な説明は行なわない。

## 【0057】

次に、図3に、携帯電話1の記憶部130に記憶される各プログラムの構成の具体例を示し、携帯電話1におけるデータ処理の流れを説明する。図3を用いて説明されるデータ処理は、制御部120が記憶部130に記憶される各プログラムを実行することによって、携帯電話1において実現される。すなわち、通信部110でサーバ2から受信したテンプレートデータは、制御部120が記憶部130に記憶されるプログラムを実行することによって再生および編集処理がなされる。

## 【0058】

具体的には、図 3 を参照して、始めに、制御部 1 2 0 は、再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 を実行させることで、通信部 1 1 0 において受信したテンプレートデータを処理する。なお、ここでの再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 の機能構成については後述する。

【0 0 5 9】

次に、制御部 1 2 0 は、再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 での処理結果に基づいて、U I (User Interface) 内容表示プログラム 1 3 2 を実行させる。U I 内容表示プログラム 1 3 2 を実行させてテンプレートデータを処理することで、テンプレートデータにおける U I の内容をディスプレイ 1 4 4 に表示させる。

【0 0 6 0】

また、制御部 1 2 0 は、再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 での処理結果に基づいて、画像撮影プログラム 1 3 3 を実行させ、カメラ 1 4 9 からの画像の入力とキーコード入力デバイス 1 4 2 からの各種指示とを受付ける。また、動画を撮影する際には、さらにマイクロフォン 1 4 6 からの音声の入力も受付ける。

【0 0 6 1】

また、制御部 1 2 0 は、再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 での処理結果に基づいて、画像データ表示再生プログラム 1 3 4 を実行させ、テンプレートデータに含まれる画像データをディスプレイ 1 4 4 上で再生させる。また、その画像データに音声も含まれる場合には、その音声をスピーカ 1 4 8 で再生させる。

【0 0 6 2】

また、制御部 1 2 0 は、再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 での処理結果に基づいて、音声データ再生プログラム 1 3 5 を実行させ、テンプレートデータに含まれる音声データをスピーカ 1 4 8 で再生させる。

【0 0 6 3】

また、制御部 1 2 0 は、再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 での処理結果に基づいて、音声データ録音プログラム 1 3 6 を実行させ、マイクロフォン 1 4 6 からの音声の入力とキーコード入力デバイス 1 4 2 からの各種指示とを受付ける。

【0 0 6 4】

また、制御部 1 2 0 は、再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 での処理結果に基づいて、動画・アニメデータ表示再生プログラム 1 3 7 を実行させ、テンプレートデータに含まれる動画またはアニメデータをディスプレイ 1 4 4 上で再生させる。

【0 0 6 5】

また、制御部 1 2 0 は、再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 での処理結果に基づいて、テキストデータ表示再生プログラム 1 3 8 を実行させ、テンプレートデータに含まれるテキストデータをディスプレイ 1 4 4 上で再生させる。

【0 0 6 6】

また、制御部 1 2 0 は、再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 での処理結果に基づいて、テキスト編集プログラム 1 3 9 を実行させ、キーコード入力デバイス 1 4 2 からのテキスト情報と各種指示とを受付ける。

【0 0 6 7】

また、制御部 1 2 0 は、再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 での処理結果に基づいて、WWW (World Wide Web) ブラウザプログラム 1 5 1 を実行させ、WWW コンテンツを再生する。

【0 0 6 8】

また、制御部 1 2 0 は、再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 での処理結果に基づいて、WWW ブラウザプログラム 1 5 1 を実行させ、通信部 1 1 0 を介してサーバ 2 からデータを取得する。

【0 0 6 9】

また、制御部 1 2 0 は、再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 での処理結果に基づいて、メールプログラム 1 5 2 を実行させ、キーコード入力デバイス 1 4 2 からのテキスト情

報と各種指示と受付け、メールを送信させる。

【0070】

また、制御部120は、再生・編集エンジンプログラム131での処理結果に基づいて、通話プログラム153を実行させ、通話を開始させる。

【0071】

また、制御部120は、再生・編集エンジンプログラム131での処理結果に基づいて、位置取得プログラム154を実行させ、GPS (Global Positioning System) 150から当該端末の現在位置を取得する。

【0072】

また、制御部120は、再生・編集エンジンプログラム131での処理結果に基づいて、アドレス帳プログラム155を実行させ、記憶部130に記憶されたメールアドレスや電話番号を取得する。

【0073】

また、制御部120は、再生・編集エンジンプログラム131での処理結果に基づいて、ファイル取得プログラム156を実行させ、記憶部130に記憶されたコンテンツデータを取得する。

【0074】

また、制御部120は、再生・編集エンジンプログラム131での処理結果に基づいて、データを保存する必要がある場合には、各種データ記憶部157にデータを記憶する。

【0075】

さらに、上述の再生・編集エンジンプログラム131の機能構成について図4に示す。制御部120が記憶部130に記憶される再生・編集エンジンプログラム131を実行することで、図4に示される各機能が携帯電話1において実現される。

【0076】

図4を参照して、始めに、データ読込部1311は、通信部110において受信したテンプレートデータを読込む。そして、データ読込部1311は、読込んだテンプレートデータを構文解析部1312に渡す。

【0077】

次に、構文解析部1312は、データ読込部1311から渡されたテンプレートデータの構文を解析し、再生・編集エンジンプログラム131が利用するデータを、データ書出部1316に渡して書出す。また、テンプレートデータに含まれるメッセージデータをメッセージデータ書出部1317とテンプレートデータ書出部1318とに渡す。さらに、構文解析部1312は、解析結果を実行制御部1313と時間管理部1314とに渡す。

【0078】

次に、時間管理部1314は、構文解析部1312から渡された解析結果に基づいて、タイムテーブルを作成する。そして、時間管理部1314は、作成したタイムテーブルを実行制御部1313に渡す。

【0079】

また、イベント管理部1315は、イベントの発生を検出する。そして、イベント管理部1315は、検出結果を実行制御部1313に渡す。

【0080】

次に、実行制御部1313は、時間管理部1314から渡されたタイムテーブルと、イベント管理部1315から渡されたイベント発生の検出結果と、構文解析部1312から渡された解析結果とに基づいて、再生データの表示・再生を実現するための処理を実行する。また、実行制御部1313は、イベント管理部1315から渡されたイベント発生の検出結果に基づいて、再生データ書出部1316に再生データの書換えを指示する。

【0081】

再生データ書出部1316は、実行制御部1313からの指示に基づいて再生データを書換え、書換えた再生データを実行制御部1313に渡す。そして、書換えられた再生データは、実行制御部1313で実行される。

## 【0082】

メッセージデータ書出部1317は、構文解釈部1312から渡されたメッセージデータを書出す。また、テンプレートデータ書出部1318は、構文解釈部1312から渡されたメッセージデータを構文解析し、メッセージ作成に再利用できるテンプレートデータを書出す。テンプレートデータ書出部1318における処理については第2の実施の形態において詳細に説明する。

## 【0083】

なお、本実施の形態においては、サーバ2から提供されたテンプレートデータを携帯電話1において処理する場合について説明するが、テンプレートデータは携帯電話1の記憶部130に記憶されているものであってもよく、その場合、図3あるいは図4に示される各部は、記憶部130から読出して取得したテンプレートデータを処理する。

## 【0084】

次に、サーバ2から携帯電話1に提供され、本実施の形態にかかる携帯電話1において処理されるテンプレートデータについて図5を用いて説明する。図5は、テンプレートデータの構造を模式的に示した図であり、具体的にメッセージデータの作成および送信を携帯電話1に実行させるテンプレートデータの構造を示している。図5を参照して、本実施の形態にかかる携帯電話1で処理されるテンプレートデータは、メッセージ領域とメッセージデータ作成補助領域とを含んで構成されることを特徴とする。

## 【0085】

メッセージ領域は、このテンプレートデータを用いてメッセージの作成および送信を行なったときに、受信者側に表示されるメッセージの内容を表わす領域である。つまり、メッセージ領域には、画像（静止画）データや、動画データや、音声データや、音楽データや、テキストデータや、アニメーションデータなどのメディアデータ（図5においては「メディアデータ」で示される）と、メディアデータ再生レイアウトまたはタイミングの記述（図5においては「メディアデータ再生レイアウトまたはタイミング部分」で示される）とが含まれる。また、メッセージ領域には、受信者側がメッセージ内容を表示中に、たとえば、WWWブラウザが起動され指定されたページが表示される、などの所定の機能を起動させるための起動機能や、そのような機能が操作できることを受信者側に示すガイダンスを表示させるための情報であるガイダンス部分が含まれてもよい（図5においては「起動機能またはガイダンス部分」で示される）。

## 【0086】

メッセージデータ作成補助領域は、このテンプレートデータを用いてメッセージの作成を行なう際に、作成者側に表示される内容を表わす領域である。通常、メッセージ作成時には、なるべく受信者側に表示されるメッセージ内容に近い、あるいは作成されるメッセージ内容が想像しやすい情報を作成装置に表示させるために、メッセージデータ作成補助領域には、画像（静止画）データや、動画データや、音声データや、音楽データや、テキストデータや、アニメーションデータなどのメディアデータ（図5においては「メディアデータ」で示される）と、メディアデータ再生レイアウトまたはタイミングの記述（図5においては「メディアデータ再生レイアウトまたはタイミング部分」で示される）とが含まれる。メッセージデータ作成補助領域に含まれるメディアデータ、およびメディアデータ再生レイアウトまたはタイミングは、メッセージ領域と共通のデータであってもよいし、異なるデータであってもよい。

## 【0087】

また、メッセージデータ作成補助領域には、メッセージ作成時に利用する起動機能や、そのような機能が操作できることを作成者に示すガイダンスを表示させるための情報であるガイダンス部分が含まれてもよい（図5においては「起動機能またはガイダンス部分」で示される）。通常は、このメッセージデータ作成補助領域に含まれる起動機能またはガイダンス部分とメッセージ領域に含まれるものとは異なる。これは、メッセージ作成時に必要な機能や情報と、受信メッセージを見るときに必要な機能や情報とが異なるからである。ただし、メッセージの作成時と受信メッセージの閲覧時とで同様の機能を利用する場

合には、共通のデータであってもよい。また、メッセージデータの所定部分のみをユーザに編集可能とする場合には、メッセージデータ作成補助領域には、さらに編集可能領域指定部分が含まれる。編集可能領域指定部分は、主に、編集可能な領域を制限することでメッセージ作成をより簡単にする目的で利用されたり、逆に、著作権保護のためなどにより編集できないところを指定する目的で利用される。

#### 【0088】

このようにテンプレートデータに、メディアデータのレイアウト情報または再生タイミング、編集可能なメディアデータの指定、メディアデータ編集のために起動する機能またはメッセージデータ作成に有効なガイダンス、および再生されるメディアデータが含まれることで、より複雑なメッセージの見え方が指定可能である。

#### 【0089】

なお、図5は、テンプレートデータの構造の具体例を示す図であるが、メッセージデータ書出部1317が書出すメッセージデータの構造も図5に示される構造と同様である。すなわち、テンプレートデータをこのようなデータ構造とすることにより、テンプレートデータは、メッセージ作成の機能を実現するテンプレートとしての役割と、メッセージ内容を表示するメッセージとしての役割とを備えることが可能になる。

#### 【0090】

なお、図6および図7に具体的なテンプレートデータの例を示して説明する。これらのテンプレートデータは、主にはSMILの形式にて記述されているが、これは一例であり、前述しているように、XML、XHTML、SMIL、SVGなど他のデータ記述言語で記述されていてもよい。また、この例では、説明の簡便のために、図5に示されるメディアデータ部分が省略されているが、実際のテンプレートデータの中には、これらの内容を示すデータは当然に含まれる。

#### 【0091】

図6を参照して、テンプレートデータのヘッダ部分（第2行～第14行）のうち、第3行ではテンプレートデータのタイトルが、第4行ではテンプレートデータの作成者が、および第5行ではこのデータがテンプレートデータであることが指定されている。

#### 【0092】

また、第6行～第8行では、編集可能領域および編集の際に起動する機能が指定されている。すなわち、第6行では、テキストデータ「FirstText.txt」が置換えられる（replace）ことを示しており、その際に起動する機能がテキストエディタ「text\_edit」であることを示している。同様に、第7行では、画像データ「SecondImage.jpg」が置換えられることを示しており、その際に起動する機能がカメラ「camera」であることを示している。同様に、第8行では、音声データ「SecondSound.mp3」が置換えられることを示しており、その際に起動する機能がマイク「mic」であることを示している。

#### 【0093】

また、第9行～第13行は、画像領域「Image」とテキスト領域「Text」とから構成されるレイアウトを表わしている。

#### 【0094】

さらに、第15行以降のBody部分には、上記各領域にどのメディアデータがどのタイミングで表示されるのかが記述されている。すなわち、第16行～第21行では同時に再生するメディアデータが定義されており、より具体的には、第17行～第19行で再生するメディアデータ（「FirstImage.mpg」、「FirstText.txt」、「FirstSound.smf」）が、第16行で再生される時間（8秒間）が指定されている。

#### 【0095】

さらに、第20行には、メッセージ作成のヒントとなるガイダンスが指定されている。第18行に、置換えられるデータであるテキストデータ「FirstText.txt」を表示することが指定されているので、該テキストデータの表示と同じタイミングで、該

テキストメッセージが置換え可能であることを示すガイダンスを表示することで、ユーザのメッセージ作成を容易にする効果が生まれる。このために、第20行で、「メッセージを入力します」とガイダンスを表示することを指定している。

#### 【0096】

なお、ここでは、ガイダンスを指定する方法の一例として<guidance>タグを利用する例が挙げられているが、その他の方法であってもよい。たとえば、第18行の<text>タグの中にガイダンス内容のデータを含めてもよい。あるいは、ガイダンス内容の記述をテンプレートデータ内に含めずに、最適なガイダンスを再生・編集エンジンプログラム131が判断するような方法であってもよい。すなわち、第6行と第18行とが、テキストデータ「FirstText.txt」が置換えられることと、テキストエディタが起動されることと、該テキストデータが表示されるタイミングとを指定しているので、たとえば図8に示すような、起動機能とそのときに表示させるガイダンスとの対応を規定するテーブルが予め携帯電話1の記憶部130に格納され、携帯電話1の制御部120は再生・編集エンジンプログラム131を実行する際に自動的に当該テーブルを読み出して、該テキストデータを表示するタイミングで、起動機能「text\_edit」に対応するガイダンス「テキスト入力」を表示するよう制御してもよい。または、起動機能の指定がなくとも、「FirstText.txt」がテキストデータであることから判断して、携帯電話1の制御部120が適切なガイダンスを表示するよう制御してもよい。

#### 【0097】

同様に、第22行～第28行にも同時に再生するメディアデータが定義されており、より具体的には、第23行～第25行で再生するメディアデータ（「SecondImage.mpg」、「SecondText.txt」、「SecondSound.mp3」）が、第22行で再生される時間（8秒間）が指定されている。また、第26行と第27行とに、メッセージ作成のヒントとなるガイダンスが指定されている。ガイダンスに関する説明は、第20行のガイダンスの説明と同様である。

#### 【0098】

さらに、図7はテンプレートデータの具体例を示す図であって、図6に示された具体例とは異なる形態のテンプレートデータの具体例を示す図である。図7は、図6に示された具体例とは異なる記述ルールで記述されたテンプレートデータの一例として挙げられたものであるが、図4に示される再生・編集エンジンプログラム131に読み込まれ、実行されるデータは同じものである。

#### 【0099】

図7を参照して、テンプレートデータのヘッダ部分（第2行～第11行）のうち第3行～第5行は、図6に示されたテンプレートデータと同様の内容である。また、第6行～第10行は、図6に示されたテンプレートデータの第9行～第13行と同様の内容である。

#### 【0100】

また、第12行以降のBody部分には、図6に示されたテンプレートデータのBody部分と同様のタグを用いて、上記各領域にどのメディアデータがどのタイミングで表示されるのかが記述されている。すなわち、第13行～第18行では同時に再生するメディアデータが定義されており、より具体的には、第14行～第16行で再生するメディアデータ（「FirstMovie.mpg」、「FirstText.txt」、「FirstSound.smf」）が、第13行で再生される時間（8秒間）が指定されている。

#### 【0101】

さらに、第15行には、id属性が定義している。第15行で定義されるid属性は、第17行の<prompt>タグ内のtargetID属性と組合わされることで、編集できるメディアデータを特定することを可能とするものである。すなわち、第17行の<prompt>タグ内のtargetID「text1」は、該targetIDに一致するid属性を持つタグ（第15行の<text>タグ）内のsrc属性が、<prompt>タグ内のcommand属性により指定されるコマンドを起動することで編集可能

であることを示している。

#### 【0102】

このように、第17行においては、起動する機能と、起動した機能により編集可能なデータとが特定される記述がなされているが、同時に、メッセージ作成のヒントとなるガイダンスも指定されている。第15行に、置換えられるデータであるテキストデータ「FirstText. txt」を表示することが指定されているので、該テキストデータの表示と同じタイミングで、該テキストメッセージが置換え可能であることを示すガイダンスを表示することで、ユーザのメッセージ作成を容易にする効果が生まれる。このために、第17行で、「メッセージを入力します」とガイダンスを表示することを指定している。

#### 【0103】

なお、ここでは、ガイダンスを指定する方法の一例としてdesc属性を利用する例が挙げられているが、その他の方法であってもよい。たとえば、第15行の<text>タグの中にガイダンス内容のデータを含めてもよい。あるいは、ガイダンス内容の記述をテンプレートデータ内に含めずに、最適なガイダンスを再生・編集エンジンプログラム131が判断するような方法であってもよい。すなわち、第15行と第17行とが、テキストデータ「FirstText. txt」が置換えられることと、テキストエディタが起動されることと、該テキストデータが表示されるタイミングとを指定しているので、たとえば図8に示すような、起動機能とそのときに表示させるガイダンスとの対応を規定するテーブルが予め携帯電話1の記憶部130に格納され、携帯電話1の制御部120は再生・編集エンジンプログラム131を実行する際に自動的に当該テーブルを讀出して、該テキストデータを表示するタイミングで、起動機能「text\_edit」に対応するガイダンス「テキスト入力」を表示するよう制御してもよい。または、起動機能の指定がなくとも、「FirstText. txt」がテキストデータであることから判断して、携帯電話1の制御部120が適切なガイダンスを表示するよう制御してもよい。

#### 【0104】

同様に、第19行～第25行にも同時に再生するメディアデータが定義されており、より具体的には、第20行～第22行で再生するメディアデータ（「SecondImage. jpg」、「SecondText. txt」、「SecondSound. mp3」）が、第19行で再生される時間（8秒間）が指定されている。また、第23行と第24行とに、第17行と同様に、起動する機能の指定と、編集可能とするタグを指定する記述と、メッセージ作成のヒントとなるガイダンスとが指定されている。これらに関する説明は、第17行の説明と同様である。

#### 【0105】

なお、本実施の形態においては、人間に可読なテキスト形式のテンプレートデータを携帯電話1において処理する場合について説明するが、テンプレートデータは人間が直接読めないバイナリ形式であってもよい。

#### 【0106】

次に、本実施の形態にかかる携帯電話1でのテンプレートデータの再生および編集処理について、図9のフローチャートを用いて説明する。図9のフローチャートに示される処理は、携帯電話1の制御部120が、図4に構成が示される再生・編集エンジンプログラム131を記憶部130から讀出して実行することによって実現される。

#### 【0107】

図9を参照して、始めに、ステップS11において初期化を実行した後、ステップS12において、通信部110で、インターネットを介してテンプレート提供サーバ2よりテンプレートデータを取得する。

#### 【0108】

次に、ステップS13において、制御部120は、再生・編集エンジンプログラム131を実行し、データ読込部1311で、取得したテンプレートデータを讀込む。

#### 【0109】

次に、ステップS14において、構文解析部1312は、テンプレートデータを構文解

析する。なお、ここでの構文解析の方法については、本発明において限定されるものでなく、利用されているデータ記述言語に応じた一般的な構文解析方法であってよい。

【0110】

ただし、本実施の形態にかかる携帯電話1で処理されるテンプレートデータは、上述のようなメッセージ領域とメッセージデータ作成補助領域とから構成されることを特徴としている。上述のように、メッセージ領域は、このテンプレートデータを用いてメッセージの作成や送信を行なったときに受信者側に表示されるメッセージの内容を表わす領域であり、メッセージデータ作成補助領域は、このテンプレートデータを用いてメッセージの作成を行なう際に作成者側に表示される内容を表わす領域である。したがって、ステップS14においては、メッセージ作成補助領域が判断される。

【0111】

なお、ここでは、再生データ書出部1316は、読込まれたテンプレートデータと同じ内容を再生データとして書出すものとして説明する。すなわち、ステップS14においてテンプレートデータは構文解釈されるが、このとき、無条件に、データ読込部1311から読込まれたデータ全体がメッセージ作成補助領域に相当すると判断されて、ステップS19において、再生データ書出部1316は、読込まれたテンプレートデータと同じ内容を書出す。ただし、これは一例であり、実際には、メディアデータ再生レイアウトまたはタイミング部は実際に作成されたメッセージがどのように表示されるのかを知るためには必要であるがメッセージ作成に必須の機能ではないため、ステップS14では、編集可能領域指定部分と、起動機能またはガイダンス部分とのみが読込されて利用されてもよい。

【0112】

さらに、ステップS14での構文解析の後、ステップS15において、時間管理部1314は、構文解析結果に基づいて図10～図12に示すようなタイムテーブルを作成する。作成されるタイムテーブルは、処理対象であるテンプレートが図6に示されるテンプレートでも図7に示されるテンプレートデータでも同様のものとなる。

【0113】

具体的には、図10は、時間管理部1314が、図6および図7に示されるテンプレートデータに基づいて作成したメディアの、再生処理を実行するタイミングを表わすメディア再生処理タイムテーブルの具体例を示す図であり、最初の8秒間で、画像データ「FirstMovie.jpg」とテキストデータ「FirstText.txt」と音声データ「FirstSound.smf」とをそれぞれ並列に再生し、次の8秒間で、画像データ「SecondImage.jpg」とテキストデータ「SecondText.txt」と音声データ「SecondSound.mp3」とをそれぞれ並列に再生することを表わしている。

【0114】

また、図11は、イベントが発生した時間に応じて起動させる起動機能のタイミングを表わす起動機能タイムテーブルの具体例を示す図である。ここでは、発生するイベントとして、ユーザによるSelectキーの操作を想定しており、最初の8秒間にSelectキーが操作されるとテキスト編集プログラム139である文字入力アプリケーションが起動し、次の8秒間の間にSelectキーが操作されると、たとえば画像撮影プログラム133である画像撮影アプリケーションと、音声データ録音プログラム136である音声入力アプリケーションとの中から1つを選択させる画面をディスプレイ144に表示させ、そこで選択されたプログラムが起動することが表わされている。

【0115】

また、図12は、ガイダンスを表示させるタイミングを表わすガイダンス表示タイムテーブルの具体例を示す図であり、最初の8秒間にSelectキーが操作されると、テキスト編集プログラム139である文字入力アプリケーションが起動することをユーザに示すために、ディスプレイ144にSelectキーの説明として「メッセージを入力します」と表示させ、次の8秒間にSelectキーが操作されると画像撮影プログラム133である画像撮影アプリケーションと、音声データ録音プログラム136である音声入力

アプリケーションとのいずれかが起動することをユーザに示すために、ディスプレイ14にSelectキーの説明として「写真をとります」、および「マイク録音します」などと表示させることが表わされている。

**【0116】**

次に、ステップS16において、実行制御部1313は、構文解析結果および図10に示されるタイムテーブルに基づいて、メディア再生処理を行なう。また、このとき、実行制御部1313は、図12に示されるガイダンス表示タイムテーブルに基づいて、UI表示プログラム132を用いて、メディア再生時間に伴って変化するUIをディスプレイ144に表示するように制御する。

**【0117】**

ステップS17において、イベント管理部1315はイベントの発生を監視する。ステップS17で発生が検出されるイベントは、タイムテーブルが終端に到達した終端到達イベントの他、ユーザが、メッセージ送信を行なうなどするために、メッセージ作成の終了を指示するための操作や、図11に示された機能を起動するためのUIとして利用される、Selectキー操作を含むキーコード入力デバイス142からのイベントなどである。そして、ステップS17においてイベントの発生が検出されると（S17でYES）、ステップS18において、実行制御部1313で、当該イベントに応じた処理を実行する。

**【0118】**

なお、ステップS16における再生処理や、ステップS18のイベントに応じた処理に含まれる再生および編集処理は、処理の途中で通話プログラムなどに割込まれたり、またユーザの都合や電池の消耗により中断されたりした場合、その時点での再生および編集時点と変更中の状態とを記憶部130に保存して処理を中断し、後に再開する際には、記憶部130から保存された再生および編集時点と変更中の状態とを読み込んで中断前の再生および編集時点から、復帰できるように構成されていることが好ましい。

**【0119】**

次に、上述のステップS18で実行されるイベントに応じた処理について、図13のフローチャートを用いて説明する。

**【0120】**

図13を参照して、上述のステップS17でイベント管理部1315からイベント発生を検出情報を受けると、ステップS21において、実行制御部1312は、実行しているタイムテーブルを一時停止する。そして、ステップS17で受取った検出情報に基づいて発生が検出されたイベントを判断し、そのイベントが当該タイムテーブルの終端まで到達したことを示すイベントである場合には（S22でYES）、処理を図9のステップS16に戻す。すなわち、再度、タイムテーブルの始端に戻す。ただし、1回あるいは所定の回数を繰返し実行した後、再生を終了する処理であってもよい。

**【0121】**

さらに、ステップS17で検出されたイベントが、メッセージ送信を行なうなどするために、メッセージ作成の終了を指示するための操作であった場合（S23でYES）、ステップS27において、再生データ書出部1316が書出したデータや、データ読込部1311から読込んだテンプレートデータを利用して、構文解釈部1312がデータの構文解析を行なって送信するためのメッセージデータをメッセージデータ書出部1317にて出処理については後述する。

**【0122】**

そして、ステップS28にて、ステップS27で書出されたメッセージが送信され、本処理が終了する。ステップS28でのメッセージ送信の処理は、通常、制御部120を通じて実行される。

**【0123】**

なお、ステップS22において発生したイベントが当該タイムテーブルの終端まで到達したことを示すイベントでも、メッセージ送信を行なうなどするためにメッセージ作成の終了を指示するための操作でもない場合（S22でNO、かつS23でNO）、ステップS24～S25で、イベントに応じて決定された処理を実行する。すなわち、図11のタイムテーブルに基づいて、イベントとしてSelectキーが操作された場合には、操作された時間に対応する起動すべきプログラムを抽出する。このとき、ステップS24において、起動すべきプログラムが複数抽出された場合には、ステップS25において、どのプログラムを起動するのかを決定するための決定処理を行なう。すなわち、実行制御部1313が、ディスプレイ144等に選択用の画面を表示して、その複数の処理の中から今から開始する処理の選択を受付ける。たとえば、再生開始より10秒後にSelectキーが操作されるイベントの発生が検出された場合であれば、図11を参照し、画像撮影アプリケーション起動か、音声入力アプリケーション起動かの複数の処理が考えられるので、ステップS25においてディスプレイ144に「画像撮影」または「音声入力」を選択させるUIを表示する。または、図12のタイムテーブルで指定されたUIである「写真をとります」「マイク録音します」を表示してもよい。このように、ステップS25において起動する機能を決定するための方法は他の方法も挙げられ、その方法自体は本発明において限定されるものではない。そして、ステップS25において決定された機能は、S26のアプリケーション実行処理にて実行される。

#### 【0124】

さらに、上述のステップS25におけるアプリケーション実行処理について、図14を用いて説明する。

#### 【0125】

図14を参照して、始めに、ステップS31において、実行制御部1313は、ステップS23～S24で指定されたアプリケーションを起動させる。次に、そのアプリケーションから所定のデータを取得する必要がある場合には（S32でYES）、ステップS33で取得する。そして、実行している当該データの書換えが必要な場合（S34でYES）、ステップS35で、再生データ書出部1316がデータの書換え処理を実行する。

#### 【0126】

ステップS31で起動されるアプリケーションは、たとえば図6に示される形態のテンプレートデータでは、第6行～第8行の、content属性に指定されている「text\_\_edit」や「camera」や「mic」などが該当する。また、図7に示される形態のテンプレートデータでは、第17行や第23行や第24行の、<prompt>タグ内のcommand属性にて指定されている。これらは主に、テキストエディタを起動してテキストを入力させて元のデータと入替える、またはカメラを起動して画像を撮影させて元のデータと入替える、またはマイクを起動してをを入力させて元のデータと入替えるような処理を想定している。よって、ステップS33で取得するデータは、取得したメディアデータのファイル名と、そのメディアデータの中身とである。つまり、ステップS35におけるデータ書換え処理では、図6に示される形態のテンプレートデータの、第6行～第8行のcontent属性内の該当するファイルパスを指定してある部分と、第18行や第24行や第25行のファイルパスを指定してある部分と、それぞれのファイルの内容とが書換えられることになる。

#### 【0127】

さらに他の処理方法として、ステップS33において、メディアデータの中身のみが取得されるてもよい。すなわち、ファイル名はそのままに、中身が異なるデータを用意すればよく、この場合は、ステップS35においてファイルパスの書換えはせずに、ステップS33で得られたデータに基づいてファイルの内容のみを書換えるだけでもよい。

#### 【0128】

なお、図14に示される処理は、図9に示されるの再生・編集処理のステップS18のイベント処理の中で起動されるアプリケーションであり、その起動したアプリケーションの実行中にデータの取得や書替処理が行なわれるものとしているが、起動されるアプリケ

ーション自体がデータの取得とデータの書替処理とを行なってもよい。すなわち、具体的には、図14に示される処理の替わりに図15に示される処理が実行されてもよい。図15はアプリケーション実行処理を説明する図であって、図14に示される処理とは異なる処理を表わすフローチャートである。

【0129】

図15を参照して、ステップS41において、実行制御部1313は、ステップS23～S24で指定されたアプリケーションを起動させ、ステップS42において、起動したアプリケーションを実行して所定のデータを取得した後、図6の第6行～第8行に示されるcontent属性内の、該当するファイルパスが指定しているファイルや、第18行や第24行や第25行のファイルパスが指定しているファイルの中身を、取得したデータに書換えてもよい。図15に示される処理が実行される場合には、図14に示される処理のように、再生・編集エンジンプログラム131を起動してデータを直接編集する必要がない。

【0130】

この他に、ステップS31またはステップS41で起動されるアプリケーションの中には、通話プログラム153を起動して電話をかけるアプリケーションや、WWWブラウザプログラム151を起動して所定のサイトにアクセスするアプリケーションなどのように、データの取得やデータの書換処理を意図しないアプリケーションが含まれてもよい。このような場合、ステップS25におけるアプリケーション実行処理後、処理を図9のステップS16の再生・編集処理に戻さず、他の処理を行なってもよい。

【0131】

また、上述の処理では、ステップS31またはステップS41で起動されるアプリケーションは、テキストエディタやカメラアプリやマイクアプリなど携帯電話1に備えられる機能であるものとしているが、携帯電話1の外部装置である、ネットワーク上の他の装置に備えられる機能であってもよい。これは、メッセージ作成を補助するためのデータや機能を提供しているサービスなどへのアクセスを行なうアプリケーションを起動することにより実行できる。具体的には、ネットワーク上の他の装置に備えられる機能にアクセスして、メディアデータを取得する、あるいは、メディアデータを加工する機能を用いてメディアデータ編集を行なうなどが挙げられる。

【0132】

上述のステップS35またはステップS42の書換処理の結果、書換えられたテンプレートデータの具体例を図16に示す。図16に示されるテンプレートデータは、図6に示されたテンプレートデータが書換えられた場合の具体例を表わしている。なお、図16においても、図6の場合と同様に、説明の簡便のためにメディアデータ部分は省略してある。

【0133】

図16に示されるテンプレートデータは、図6に示されるテンプレートデータの再生開始より0～8秒間の間にSelectキーイベントが発生した場合を想定したものである。すなわち、テンプレート再生中に該イベントが発生した場合、図11に示されたタイムテーブルにしたがって文字入力アプリケーションが起動され、ユーザにより入力されたテキストデータが取得されてテキストデータ「InputText.txt」が生成される。生成されたテキストデータは再生データのメディアデータ部分に加えられ、再生データ内のファイルパス「FirstText.txt」（第6行および第18行）が書換えられて、図16に示されるように「InputtedText.txt」となる。それと同時に、図6のテンプレートデータに含まれる再生データである「FirstText.txt」自体が削除される。

【0134】

また、図16に示されるテンプレートデータは、図6に示されるテンプレートデータの再生開始より8～16秒の間にSelectキーイベントが発生し、図11に示されたタイムテーブルにしたがって、画像撮影アプリケーションと音声入力アプリケーションとの

うち音声入力アプリケーションが選択された場合が想定されている。この場合、ユーザにより撮影された画像データが取得されて画像データ「InputtedImage.jpg」が生成される。生成された画像データは再生データのメディアデータ部分に加えられ、再生データ内のファイルパス「SecondImage.jpg」（第7行および第23行）が書換えられて、図16に示されるように「InputtedImage.jpg」となる。それと同時に、図6のテンプレートデータに含まれる再生データである「SecondImage.jpg」自体が削除される。

【0135】

さらに、図17に、図7のテンプレートデータが書換えられた場合の具体例を図17に示す。図17においても、図7の場合と同様に、説明の簡便のためにメディアデータ部分は省略してある。また、想定するユーザの操作は、図16を用いて説明された場合と同じとする。

【0136】

つまり、図7に示されるテンプレートデータの再生中にユーザにより入力されたテキストデータが取得されてテキストデータ「InputText.txt」が生成される。生成されたテキストデータは再生データのメディアデータ部分に加えられ、再生データ内のファイルパス「FirstText.txt」（第15行）が書換えられて、図17に示されるように「InputtedText.txt」となる。それと同時に、図7のテンプレートデータに含まれる再生データである「FirstText.txt」自体が削除される。

【0137】

また、さらに、図16に示されるテンプレートデータもまた、図7に示されるテンプレートデータの再生開始より8～16秒の間にSelectキーイベントが発生し、図11に示されたタイムテーブルにしたがって、画像撮影アプリケーションと音声入力アプリケーションとのうち音声入力アプリケーションが選択された場合が想定されている。この場合、ユーザにより撮影された画像データが取得されて画像データ「InputtedImage.jpg」が生成される。生成された画像データは再生データのメディアデータ部分に加えられ、再生データ内のファイルパス「SecondImage.jpg」（第20行）が書換えられて、図17に示されるように「InputtedImage.jpg」となる。それと同時に、図7のテンプレートデータに含まれる再生データである「SecondImage.jpg」自体が削除される。

【0138】

さらに、ここまで説明した処理の流れを、画面遷移の具体例を用いて説明する。

【0139】

図18は、図6あるいは図7に示されたテンプレートデータに対する読込処理が実行されているときの画面遷移の具体例を示す図である。

【0140】

図18を参照して、読込処理が開始した始めの8秒間（左図）には、上述のように画像データ「FirstMovie.mpg」、テキストデータ「FirstText.txt」、および音声データ「FirstSound.smf」が再生され、次の8秒間（右上図）には画像データ「SecondImage.jpg」、テキストデータ「SecondText.txt」、および「SecondSound.mp3」が指定されたレイアウトにそって表示されている。また、最初の8秒間では、「メッセージを入力します」ガイダンスが表示され、次の8秒間には「写真をとります」「マイク録音します」ガイダンスが表示されている。最初の8秒間に、ユーザによるSelectキーの押下などが行なわれることによりテキストエディタが起動される。また次の8秒間に、ユーザによるSelectキーの押下などが行なわれることによりカメラまたはマイクが起動されるが、その前に、どちらの機能を起動するかを選択する画面（右下図）が表示され、選択された機能が起動される。

【0141】

次に、それぞれの機能が起動され、データが編集された状態を図19に示す。図19を参照して、上述の操作によって、テンプレートデータの最初の8秒間で表示されるテキストデータが「気持ちです」に編集され（`InputtedText.txt`）、次の8秒間で表示される写真と音とがそれぞれ編集されている（`InputtedImage.jpg`、`InputtedSound.mp3`）ことが示されている。

#### 【0142】

このような変更されたテンプレートデータは、メッセージ送信を行なうなどするために、ユーザによってメッセージ作成の終了を指示するための操作が行なわれたときに、図13のステップS27のメッセージデータ書出処理にて、メッセージデータを作成するために利用される。

#### 【0143】

ステップS27でのメッセージデータ書出処理の第1の具体例としては、このように編集された図16または図17のテンプレートデータが、そのまま書出される処理が挙げられる。図20に、メディアデータ部分を含めた、第1の具体例であるメッセージデータ書出処理で書出されるメッセージデータの構成の具体例を示す。図20を参照して、書出されるメッセージデータのメディアデータ部分からは、当初のテンプレートに含まれていたテキストデータ「`FirstText.txt`」と画像データ「`SecondImage.jpg`」とが削除されて、代わりにテキストデータ「`InputtedText.txt`」と画像データ「`InputtedImage.jpg`」とが加わっている。

#### 【0144】

ステップS27でのメッセージデータ書出処理の第2の具体例としては、編集された図16または図17のテンプレートデータに、編集前のテンプレートに含まれる要素を加える処理が挙げられる。すなわち、第2の具体例であるメッセージデータ書出処理では、図21に示されるように、図20に示されたような編集されたテンプレートデータに、編集前のテンプレートデータに含まれるメディアデータ再生レイアウトまたはタイミング部と、編集可能領域指定部と、図6または図7で表わされる起動機能またはガイダンス部とを加える。また、編集前のテンプレートデータに含まれていたテキストデータ「`FirstText.txt`」と画像データ「`SecondImage.jpg`」とをメディアデータ部分に加える。

#### 【0145】

ステップS27でのメッセージデータ書出処理の第3の具体例としては、図21に示される編集後のテンプレートデータのうち、編集可能領域指定部分や、起動機能またはガイダンス部分を削除する処理が挙げられる。すなわち、図21に示される編集後のテンプレートデータのうち、図16の第6行～第8行に相当する部分と、第20行と、第26行～第27行に相当する部分とを削除する。これはすなわち、これらの部分はメッセージの作成時に利用されるものであり、メッセージとしては利用されない、という意図である。

#### 【0146】

このようにして作成されたメッセージデータは、ステップS28において送信され、処理が終了する。メッセージ送信の処理は、通常、制御部120がメールプログラム152を起動して、メールプログラムのメール送信機能を用いることで、通信部110を介して実行される。

#### 【0147】

##### 〔第2の実施の形態〕

第1の実施の形態において説明されたように送信されたメッセージデータは、図1に示されるように、公衆回線網やインターネット網または放送網などを經由して、データ通信機能を備える各種情報機器端末に送信される。そこで、第2の実施の形態として、これらのメッセージデータが受信された装置における処理を説明する。

#### 【0148】

第1の実施の形態としては、テンプレートデータが携帯電話1に読込まれ、実行される流れが説明されている。特に、図3を用いて、通信部110を介してテンプレート提供サ

サーバ2から取得したテンプレートデータを、制御部120が再生・編集エンジンプログラム131を実行させることで処理することが説明されている。

【0149】

メールプログラム152を実行することで通信部110を介して、メッセージ作成装置である他の携帯電話1から受信したメッセージデータもまた、携帯電話1において、通常、制御部120が再生・編集エンジンプログラム131を実行させることで処理される。

【0150】

そのようなメッセージデータを受信する携帯電話1における再生・編集エンジンプログラム131の構成は、図3に示された構成と同じである。ただし、この場合、構文解析部1312は、データ読込部1311から読込んだデータが、テンプレートデータであるのか、メッセージデータであるのかを区別する必要がある。構文解析部1312におけるデータ区別方法には大きく2つの方法がある。

【0151】

第1のデータ区別方法は、通信部110がどうやってデータを受信したかによって、制御部120が、テンプレートデータかメッセージデータかを判断する方法である。すなわち、制御部120が、メールプログラム152を起動させて受信したデータはメッセージデータとみなし、テンプレート提供サーバ2よりダウンロードしたデータはテンプレートデータとみなし、予め記憶部130に、テンプレートデータとして記憶されていたものであればテンプレートデータとみなす、などとして区別する方法である。なお、メールプログラム152を起動させてテンプレートデータを送信する場合も考えられるので、たとえば、メールデータに一般に付加されるメールヘッダの内容を確認して、当該データが、メッセージデータかテンプレートかを判断してもよい。

【0152】

第2のデータ区別方法は、受信したデータに含まれるテンプレートデータかメッセージデータかを示す記述に基づいて区別する方法である。すなわち、図6または図7に示されているテンプレートの具体例では、第5行のように、テンプレートであることを示す記述がなされている。このような場合、該記述を確認して、当該データがテンプレートデータかメッセージデータかを判断する。なおこの場合、上述されたメッセージ書出処理においては示されていないものの、メッセージ書出処理において、図16または図17の第5行に示されるテンプレートであることを示す記述を省略する処理が必要となる。

【0153】

第2の実施の形態においては、上述のように、携帯電話1において、取得されたデータがデータ読込部1311または構文解析部1312でテンプレートデータかメッセージデータかが判断される。

【0154】

次に、データ読込部1311で読込んだメッセージデータの処理の流れを説明する。なお以降の説明において、再生・編集エンジンプログラム131が読込んだデータをメッセージデータであると判断して動作するモードを、Viewモードと呼ぶことにする。

【0155】

まず、データ読込部1311が読み込んだメッセージデータが、上述のメッセージデータ書出処理の第1の具体例に挙げられたメッセージデータ（図20）である場合について述べる。

【0156】

この場合、構文解析部1312は、図20に示されるメッセージデータのうち、メディアデータ再生レイアウトまたはタイミング部分とメディアデータ部分とをメッセージ領域と判断し、再生データ書出部1316は、メッセージ領域と判断された部分を書出す。

【0157】

図22に、図17に示されるメッセージデータのうち、メッセージ領域と判断される部分を下線を付して示す。ここでは、<meta>タグと<prompt>タグ以外のタグとがメッセージ領域として判断される。すなわち、構文解析部1312は、メッセージデ

ータ内のタグ情報に基づいてメッセージ領域を判断する。

【0158】

さらに、構文解析部1312は、解析結果を実行制御部1313と時間管理部1314とに渡す。

【0159】

時間管理部1314は、構文解析部1312から渡された解析結果に基づいて、タイムテーブルを作成する。そして、時間管理部1314は、作成したタイムテーブルを実行制御部1313に渡す。また、イベント管理部1315は、イベントの発生を検出する。そして、イベント管理部1315は、検出結果を実行制御部1313に渡す。

【0160】

実行制御部1313は、時間管理部1314から渡されたタイムテーブルと、イベント管理部1315から渡されたイベント発生の検出結果と、構文解析部1312から渡された解析結果とに基づいて、表示・再生処理を制御する。

【0161】

実行制御部1313で制御されることで携帯電話1で実行される再生処理および編集処理の流れは、第1の実施の形態において図9に示された処理と同様である。このとき、第2の実施の形態にかかる時間管理部1314が作成したタイムテーブルの具体例を図23に示す。第2の実施の形態にかかるViewモードでは、メッセージデータに含まれる各メディアデータが、図23のタイムテーブルにそって表示される。

【0162】

また、Viewモードにおいては、図9のステップS17で発生が検出されるイベントは、タイムテーブルが終端に到達した終端到達イベントの他、ユーザがメッセージデータからテンプレートデータを作成し、該テンプレートデータに基づいてメッセージの作成を行なうなどのためにテンプレートデータの作成を指示するための操作や、図11に示された機能を起動させるためのUIとして利用されるSelectキー操作を含むキーコード入力デバイス142からのイベントなどである。

【0163】

図24に、第2の実施の形態にかかるViewモードにおける、イベント処理の流れを示す。

【0164】

上述のステップS17でイベント管理部1315からイベント発生の検出情報を受けると、ステップS51において、実行制御部1312は、実行しているタイムテーブルを一時停止する。

【0165】

そして、ステップS52において、ステップS17で発生が検出されたイベントに内容が判断される。ステップS52での判断の結果、発生が検出されたイベントが当該タイムテーブルの終端まで到達したことを示すイベントである場合には(S52でYES)、処理を図9のステップS16に戻す。すなわち、再度、処理をタイムテーブルの始端に戻す。ただし、1回あるいは所定の回数を繰返し実行した後、再生を終了する処理であってもよい。

【0166】

一方、ステップS17で発生が検出されたイベントが、メッセージデータからテンプレートデータを作成し、該テンプレートデータに基づいてメッセージの作成を行なうなどのためにテンプレートデータの作成を指示するための操作であった場合(S53でYES)、ステップS57のテンプレートデータ書出処理にて、データ読込部1311から読込んだメッセージデータを利用して、構文解析部1312がデータの構文解析を行ない、テンプレートデータ書出部1318が、メッセージ作成に再利用できるようなテンプレートデータを書出してイベント処理を終了する。なお、ステップS57で書出されたテンプレートデータは記憶部130に記憶され、再度、メッセージ作成を行なう場合に利用される。テンプレートデータを読込んで、メッセージデータを作成する処理については、第1の実

施の形態にて述べたとおりである。ステップS57における、メッセージデータからテンプレートデータを書出すテンプレートデータ書出処理は、第1の実施の形態に示されたメッセージデータ書出処理の第1～第3の具体例に応じて異なり、その詳細については後述する。

#### 【0167】

なお、発生が検出されたイベントが、当該タイムテーブルの終端まで到達したことを示すイベントでも、テンプレートデータに基づいてメッセージの作成を行なうなどのためにテンプレートデータの作成を指示するための操作でもない場合には（S52でNO、かつS53でNO）、ステップS54～S55で、決定された処理を実行する。すなわち、図11のタイムテーブルに基づいて、イベントとしてSelectキーが操作された場合には、操作された時間に対応する起動すべきプログラムを抽出する。このとき、ステップS54において、起動すべきプログラムが複数抽出された場合は、ステップS55において、どのプログラムを起動するのかを決定するための決定処理を行なう。これらの動作は、図13のステップS24～S25の動作と同じである。ただし、図22に示されるメッセージデータの具体例においては起動機能を指定する<prompt>タグが書出されてないため、起動すべき機能は発生しない。起動すべき機能が発生する例については後述する。

#### 【0168】

最後に、ステップS56において、アプリケーション実行処理で指定された機能が実行される。ステップS56におけるアプリケーション実行処理も、ステップS26と同様である。

#### 【0169】

さらに、上述のステップS57におけるテンプレートデータ書出部1318でのテンプレートデータの書出処理について説明する。この処理は、図5に示されるメッセージデータの中から、メッセージデータ作成補助領域部分を書出すという処理と同等である。

#### 【0170】

読込まれたメッセージデータが第1の実施の形態において説明されたメッセージデータ書出処理の第1の具体例で示されたメッセージデータ（図20）である場合、ステップS57において、テンプレート書出部1318は、読込まれたメッセージデータを編集せずそのままテンプレートデータとして書出だけでよい。このときの、基になったテンプレート（たとえば図6）と、作成されたメッセージデータ（たとえば図16）との異なる部分は、図16にて下線で示された部分と、メディアデータ部分とである。そこで、ステップS57でのテンプレートデータ書出処理が実行されることで、書出されたテンプレートと基となったテンプレートとはまったく同じものとはならないが、書出されたテンプレートのメディアデータ再生レイアウトまたはタイミング部分や、編集可能領域指定部分や、起動機能またはガイダンス部分は、基となったテンプレートのそれと同じものとなるために、書出されたテンプレートを、基となったテンプレートとほぼ同様の使い勝手のテンプレートデータとして再利用することができる。ただし、基となったテンプレートデータに含まれていた再生データは、図16に下線を付して示された再生データに入替わることになる。

#### 【0171】

読込まれたメッセージデータが第1の実施の形態において説明されたメッセージデータ書出処理の第2の具体例で示されたメッセージデータ（図21）である場合、ステップS57において、テンプレート書出部1318は、図21のメッセージデータのうちの2つめのSMIL部分を抽出して書出す。次に、抽出されたSMIL部分が利用しているメディアデータを、メディアデータ部分から取出して書出す。これにより、読込まれたメッセージデータから基となったテンプレートを完全に復元することができる。なお、抽出するSMIL部分については、SMIL部分の<meta>タグのrole属性に記述されていてもよいし（図6または図7の第5行）、メッセージデータ内の最後のデータはテンプレートデータである、のようにデータ内の位置に応じて予め定められていてもよい。また

、メッセージデータの中のヘッダ部分に、メッセージ内のどのデータがテンプレートデータの部分か、またはどのデータがメッセージデータの部分かが記述されていてもよい。テンプレートデータのヘッダ部にこのようなテンプレートデータ構成要素情報が含まれることで、携帯電話 1 においてはどの部分がメッセージデータ作成補助領域かを容易に判別可能であり、テンプレート作成者にとっても、意図したメッセージ作成方法を提供することが可能となる。

#### 【0 1 7 2】

また、このような、メッセージデータの各領域内容を表わす部分は、ヘッダ形式ではなく、1つのファイルとして含まれて、該ファイルを解釈することで判断できるようになっていてもよい。テンプレートデータ構成要素情報がファイル形式で含まれることで、携帯電話 1 においてはどの部分がメッセージデータ作成補助領域かを容易に判別可能であり、また、より複雑な情報を持つことも可能となる。

#### 【0 1 7 3】

読込まれたメッセージデータが第 1 の実施の形態において説明されたメッセージデータ書出処理の第 3 の具体例で示されたメッセージデータである場合もまた、上述のメッセージデータ書出処理の第 2 の具体例に対応した書出方法と同じでよい。メッセージデータ書出処理の第 3 の具体例で示されたメッセージデータと、第 2 の具体例で示されたメッセージデータとの違いは、図 1 9 に表わされる 1 つ目の S M I L 部分であり、上述の方法で取出したときに得られるテンプレートデータは、同じものとなるからである。

#### 【0 1 7 4】

このように、メッセージデータの書出処理に応じてテンプレートデータを抽出する方法が異なる場合があるため、テンプレートデータを抽出するとき、抽出方法を選択する際に、メッセージデータの書出方法を判断する必要がある。メッセージデータの書出方法およびそれに対応したテンプレートデータの抽出方法は予め定められていてもよい。つまり、送信側の端末と、受信側の端末とで、それらの方法が予め定められていてもよいし、メール送信時に、メールのヘッダに該方法が特定される情報を付加してもよいし、テンプレートデータ内に、< m e t a > タグ等により指定されていてもよい。

#### 【0 1 7 5】

図 2 5 は、図 1 9 に示された作成されたメッセージデータを携帯電話 1 で受信して表示したときの画面遷移の具体例を示す図である。図 2 5 に示される画面遷移の具体例は、上で説明した、メッセージデータ書出処理の第 1 の具体例で示されたメッセージデータ（図 2 0）を読込み表示したときの画面遷移の具体例である。

#### 【0 1 7 6】

図 2 5 を参照して、受取ったメッセージを再生する際は、ガイダンス部分が表示されない。また、機能の起動もされず、指定されたメディアデータが、指定されたレイアウトおよびタイミングで表示されるのみである。次に、受信したメッセージデータからテンプレートデータを作成し該テンプレートデータに基づいてさらなるメッセージ作成を行なうなどするために、テンプレートデータの作成を指示するための操作として O p t i o n キーが押され、さらに R e u s e が選ばれたときには、上述のようにテンプレートデータが書出され、これを読込むことで、図 2 6 のような画面が表示される。このときの処理の流れは、図 1 8 の画面遷移の具体例を用いて説明された処理の流れとほぼ同じであり、違いは、本来のテンプレートデータに含まれていたテキストデータ「F i r s t T e x t . t x t」、画像データ「S e c o n d I m a g e . j p g」、および音声データ「S e c o n d S o u n d . m p 3」に替えて入力されたテキストデータ「I n p u t t e d T e x t . t x t」、画像データ「I n p u t t e d I m a g e . j p g」、および音声データ「I n p u t t e d S o u n d . m p 3」が含まれていることであり、編集可能領域を示す情報や、起動させる機能を特定する情報や、ガイダンスといった、メッセージ作成に必要な情報は、元のテンプレートに含まれる情報と同様に利用可能である。もちろん、メッセージデータ書出処理の第 2 の具体例および第 3 の具体例で示されたメッセージデータを読込み、テンプレートデータを復元したときは、編集前の元のテンプレートデータに含まれ

るテキストデータ「FirstText.txt」、画像データ「SecondImage.jpg」、および音声データ「SecondSound.mp3」も含めて復元可能である。

#### 【0177】

ここまでの説明では、図6や図7のような形態のテンプレートデータを用いてメッセージを作成および送信し、送信されたメッセージデータを受信した後に、このメッセージデータから、テンプレートデータを復元する方法について述べた。次に、その他の形態のテンプレートを用いた場合について説明を行なう。

#### 【0178】

図27は、テンプレートデータの他の具体例を示す図であって、テンプレートを利用してメッセージ作成を行なう、第1の実施の形態に示されたタグと、メッセージデータをメッセージとして表示するときに利用するタグとが、<switch>タグにて区別できるような形態のテンプレートデータの具体例を示している。つまり、図27に具体例が示されて、「composition」が指定されており、これにより、この<switch>タグにより囲まれた第18行が該テンプレートを利用してメッセージ作成を行なうときにのみ解釈される。同様に、第25行で指定された<switch>タグに囲まれた、第26行および第27行もまた、テンプレートを利用してメッセージ作成を行なうときにのみ解釈される。

#### 【0179】

これはすなわち、図5に示した、メッセージ領域かメッセージ作成補助領域かの区別が、<switch>タグにて指定できるようになされたことを表わしている。つまり、該テンプレートデータを用いてメッセージを作成する際には、図9のステップS14およびステップS19においてメッセージ作成用のデータが書出されるが、このときには、<switch>タグがない通常のところと、<switch>タグのmode属性に「composition」が指定されている範囲内とが書出され、「composition」以外が指定されている場合には、この範囲は書出されない。つまり、携帯電話1は、メディアデータのレイアウト情報または再生タイミングまたは編集可能なメディアデータの指定をタグを利用して判別することが可能であり、テンプレートデータ内のどこがメッセージ作成補助領域かを判断することに利用可能である。また、テンプレートデータ内のメッセージ作成補助領域がタグに明確に記述されているために、携帯電話1において容易にテンプレートデータ内のメッセージ作成補助領域が判別可能であり、テンプレート作成者にとっても、意図したメッセージ作成方法を提供することが可能となる。また、作成されたメッセージデータが表示される際のメッセージ領域がタグに明確に記述されているために、携帯電話1において容易にメッセージ領域を判別可能であり、メッセージ作成者にとっても、意図したメッセージ表示方法を可能とし、テンプレート作成者にとっても、意図したメッセージ作成方法とメッセージ表示方法とを提供することが可能となる。

#### 【0180】

また、該テンプレートデータをメッセージデータとしてメッセージの表示を行なう際には、図22の編集後のメッセージデータを用いて説明した場合にはメッセージ領域を抽出する際に、<meta>タグと<prompt>タグ以外をメッセージ領域と判断するものとしたが、上記<switch>タグを利用することで、タグごとに、表示処理の際にタグを解釈するだけでよいという利点がある。

#### 【0181】

さらに、図28はテンプレートデータの他の具体例を示す図であって、第20行に示されるように、<switch>タグのmode属性に「view」が指定されている例を示す図である。この場合、第21行は、該テンプレートデータをメッセージとして表示するときのみに用いられ、該テンプレートデータに基づいてメッセージを作成する際には利

用されない。

【0182】

また、第21行は、動画データ「FirstMovie.mpg」の再生中に、Selectキーを押下するなどの何らかのユーザの操作が発生した場合に、WWWブラウザを用いたウェブサイト「hoge.com」にアクセスすることを指定している。このようなウェブサイトへの誘導などで利用される機能は該テンプレートデータを用いてメッセージを作成際には不必要であるが、該テンプレートデータをメッセージとして表示する際に利用されることがある。その場合、このような指定することが好ましい。

【0183】

なお、図28に示されるテンプレートデータは、該テンプレートデータをメッセージとして表示する際にネットワークアクセスを行なわせるテンプレートデータの具体例であるが、メッセージ作成時にネットワークアクセスを行なわせるような記述が含まれてもよい。つまり、先に述べたmode属性が「composition」である<switch>タグに囲まれた行に、ネットワークアクセスを行なわせる記載がなされてもよい。このような記載があることで、該テンプレートデータを用いてメッセージを作成する際に、メッセージ作成を補助するためのデータや機能を提供しているサービスなどへのアクセスを可能にし、そのようなデータや機能の利用を可能にする。つまり、メッセージが作成されるときに利用されたのと同じネットワーク上の機能を利用してメッセージ作成を行なうことが可能なテンプレートデータを書き出すことが可能となる。たとえば、ネットワーク上の機能にアクセスしてメディアデータを取得する、あるいは、メディアデータを加工するようなデータ構成にすることによって、上述のような処理が実行されて、該テンプレートデータが再利用されたときにメッセージ作成補助サービスへのアクセスが再び行われることになり、サービスの流通に貢献し得る。

【0184】

つまり、テンプレートをこのようなデータ構造とすることで、メッセージを作成する過程においてネットワーク上の機能を利用することが可能となり、このテンプレートを利用して作成されたメッセージを受取った受信者が、メッセージからメッセージ作成補助領域を再利用してメッセージ作成を行なうときに同じネットワーク上の機能を利用することが可能となる。これにより、ネットワーク上の機能自体を流通させることが可能となる。

【0185】

また、図29はテンプレートデータの他の具体例を示す図であって、<prompt>タグの中身を修正可能なテンプレートデータの具体例を示す図である。すなわち、テンプレート内で指定されている起動する機能を、ユーザが修正可能なテンプレートデータの具体例である。

【0186】

図29を参照して、第26行の<prompt>タグは、コマンドがファイル「url.txt」で指定されており、第31行の<prompt>タグにて、テキストエディタにより、ファイル「url.txt」が修正可能であることが指定されている。この、第31行の<prompt>タグは該テンプレートデータを用いてメッセージを作成する際にしか利用されないが、逆に、第26行の<prompt>タグは、該テンプレートデータをメッセージとして表示されるときにしか利用されない。これにより、たとえば、該テンプレートデータを用いてメッセージの作成を行なっているユーザが、自分で作ったサイトへアクセスする機能をメッセージ内に簡単に挿入することが可能となる。また、メッセージを受取った受信者が、該メッセージデータからテンプレートデータを抽出し、該テンプレートデータを用いて再びメッセージを作成するときに、アクセス先を修正することが可能となる。

【0187】

また、図30はテンプレートデータの他の具体例を示す図である。図30に示されるテンプレートデータが処理されることで、結果的には図29に示されるテンプレートデータ

が処理された場合と同じ動作を行なうものであるが、図20に示されるテンプレートデータと図30に示されるテンプレートデータとでは<switch>タグの位置が異なる。ただし、図30に示されるように、ほとんど記述全体の枠を<switch>タグで切分けることにより、該テンプレートを用いてメッセージを作成する際の表示と、該テンプレートをメッセージデータとして表示する際の表示とをまったく異ならせるテンプレートを作成することも可能になる。

#### 【0188】

これに近いテンプレートデータの他の具体例として、たとえば、メッセージデータ書出処理の第2の具体例および第3の具体例で示されたメッセージデータのようなテンプレートデータが挙げられる。つまり、メッセージ作成時に利用する部分とメッセージ表示に利用する部分とが、1つの記述の中に含まれるのではなく、各々異なる記述に含まれるテンプレートである。メッセージデータ書出処理の第3の具体例で示されたメッセージデータの具体例を用いて説明すると、この場合のテンプレートデータは、図21のテンプレートデータのうち、1つめのSMIL部分はメッセージ表示に用いられ、この部分のうち、編集可能領域指定部分と、起動機能またはガイダンス部分がないテンプレートデータである。つまり、始めから、メッセージ表示領域（1つめのSMIL部分から、編集可能領域指定部分と起動機能またはガイダンス部分を省いたもの）と、メッセージ作成補助領域（2つめのSMIL部分）とが別々に用意されたテンプレートデータであるとも考えられ、テンプレートデータ自体が、始めからこの形で用意されていてもよい。

#### 【0189】

この場合、始めに、図9のステップS14およびステップS19において、メッセージ作成を行なうためにテンプレートを読込んでメッセージ作成用データを書出すときには、2つめのSMIL部分であるメッセージ作成補助用領域を書出して実行する。また、メッセージ表示を行なうときには、上述のメッセージデータ書出処理の第2の具体例および第3の具体例で示されたメッセージデータを表示するときと同様の処理で表示すればよい。メッセージ作成用データを書出すときに利用する部分を抽出するときの方法は、メッセージデータ書出処理の第2の具体例で示されたメッセージデータからテンプレートデータを抽出するときの方法と同様である。つまり、SMIL部分の、<meta>タグの、role属性に記述されていてもよいし（図6または図7の第5行）、テンプレートデータ内の最後のデータはテンプレートデータである、のように、データ内の位置で予め決められていてもよい。または、テンプレートデータのヘッダ部分に、テンプレートデータ内のどのデータが、メッセージ作成補助領域の部分か、あるいはどのデータがメッセージ領域の部分かが記述されていてもよい。また、このような、メッセージデータの各領域内容を表わす部分は、ヘッダという形式ではなく1つのファイルになっており、ここを解釈することで判断できるようになっていてもよい。なお、上述の例では、メッセージ作成補助領域とメッセージ領域との記述言語は共にSMILであるものとしているが、これらの領域は実際には完全に分けることが可能なために、見え方が異なるようなテンプレートを作成することはもちろん可能だが、そもそも、メッセージ作成補助領域とメッセージ領域との記述言語が異なるようなテンプレートさえも作成することが可能となる。

#### 【0190】

なお、上述の実施の形態においては、テンプレートデータとしての記述、つまりメッセージ作成補助用の記述をメッセージデータ内に記述するものとしていたが、メッセージ作成補助用の記述に替えて、テンプレートデータ入手先情報として、メッセージデータ内にテンプレートを入手可能な該テンプレートを提供している装置へのアクセス情報であるURLを記述してもよい。このテンプレートデータ入手先情報は、テンプレートデータ自体に該テンプレートの提供元の情報として元々記述されており、これを利用してもよいし、あるいは、テンプレートデータを入手した際のテンプレート入手先情報を記憶しておき、携帯電話1においてメッセージ作成の際にメッセージデータ内に含めてもよい。

#### 【0191】

この場合、受取ったメッセージからテンプレートデータを作成する際に、該URLに基

づいて上記他の装置へアクセスして、必要なテンプレートデータを作成することが可能である。このように、メッセージデータ内にテンプレートデータの入手先を記述することで、メッセージ作成補助領域の内容をメッセージデータに入れなくとも、メッセージ受信者は、メッセージを作成したときに利用されたテンプレートを容易に入手可能となる。

#### 【0192】

また、上述の第2の実施の形態において、テンプレートを作成するタイミングは、ユーザが指示を行なう操作がなされた場合としたが、メッセージ受信時にテンプレートの復元が可能な場合には、メッセージ受信時に即座にテンプレート復元を行なってもよい。この場合、携帯電話1がすでに同じテンプレートを記憶している場合にはテンプレートの復元を行なわないなどとしてもよい。また、上述のように、受信したメッセージにテンプレートの入手先である他の装置へのアクセス情報であるURLが記述されている場合、メッセージ受信時に、即座にテンプレート入手するためにURLへアクセスしたり、すでに入手済みのテンプレートであればアクセスはしない、などとしてもよい。

#### 【0193】

本発明にかかるデータ処理装置に該当する本実施の形態にかかる携帯電話1において上述の処理が実行されることで、図31および図32に示されるようなメッセージデータの作成処理およびメッセージデータの閲覧・作成処理が可能になる。

#### 【0194】

すなわち、図31を参照して、メッセージデータの作成処理において、本実施の形態にかかる携帯電話1は、図31(A)に示されるような、メッセージデータ閲覧時に利用される閲覧用領域と、メッセージデータ作成時に利用される作成用領域とを備えるテンプレートデータを利用して新たなメッセージデータを作成する場合、図31(B)に示されるように、該テンプレートデータから作成用領域を抽出して利用する。該作成用領域には、メッセージデータ作成の過程において編集される編集領域が含まれるか指定されるかしている。携帯電話1では、作成用領域の内容にしたがって、図31(C)に示される編集領域が編集され、メッセージデータが作成される。このため、作成されたメッセージデータは、元となったテンプレートデータの編集領域が変更された形態である。そして、携帯電話1では作成されたデータを送信する際、図31(D)に示されるように、閲覧用領域だけでなく、作成用領域も含め送信を行なうことを特徴とする。

#### 【0195】

このように、携帯電話1ではテンプレートデータ内に含まれるメッセージデータ作成補助領域内のデータを含んだメッセージを作成するため、このメッセージを読出す受信者側で、メッセージを作成したときに利用したメッセージデータ作成補助領域を再利用することが可能となる。

#### 【0196】

さらに、メッセージデータ作成補助領域に、メディアデータのレイアウト情報または再生タイミング、編集可能なメディアデータの指定、メディアデータ編集のために起動する機能またはメッセージデータ作成に有効なガイダンス、または再生されるメディアデータを含むために、テンプレート作成者が意図的に、より複雑なメッセージを指定した機能を利用してメッセージ作成者にメッセージ作成を行なわせることが可能となる。

#### 【0197】

図32を参照して、図31に示されたメッセージデータの作成処理で作成されて送信されたテンプレートデータを受信した場合、該テンプレートデータには、図32(A)に示されるように、閲覧用領域と作成用領域とが含まれている。メッセージデータの閲覧・作成処理において、携帯電話1は図32(A)に示される該テンプレートデータを読み込み、メッセージを閲覧のためにデータを表示する際は、図32(B)に示されるように、閲覧用領域を抽出して利用する。このために、閲覧に不必要な表示や動作を行なうことがない。また、該メッセージデータが作成されたときと同じ操作でメッセージデータの作成を行なう場合には、図32(C)に示されるように、受信したテンプレートデータから作成用領域を抽出して利用する。これにより、該メッセージデータが作成されたときと同じ操作

を復元することが可能となる。

【0198】

つまり、本実施の形態にかかる携帯電話 1 が上述のテンプレートデータを利用してメッセージデータの作成処理およびメッセージデータの閲覧・作成処理を行なうことで、テンプレートデータ内の閲覧用領域と作成用領域とを抽出し、メッセージデータ閲覧時とメッセージデータ作成時とで異なる領域を利用して処理を行なうことができる。また、作成されたメッセージデータを受信した受信者も、メッセージデータが作成されたときと同じ操作を復元することをができる。

【0199】

また、メッセージデータを編集する際に、メッセージデータ作成補助領域とメッセージ領域とを同時に編集するために、メッセージデータ作成補助領域のデータと、メッセージ領域のデータとに同じメディアデータが用いられているなど関連がある場合に、メッセージ作成補助領域のデータの変更に伴った変更を、メッセージ領域内のデータに対して行なうことが容易となる。

【0200】

また、メッセージデータ作成補助領域に従ったデータの編集と、最終的なメッセージデータ作成との過程が別になるために、データ編集時のデータ操作を最低限にすることができる。

【0201】

また、メッセージデータを編集する際に、テンプレートデータ内のメッセージデータ作成補助領域部分を編集せずにそのままメッセージデータに加えるために、さらにそのメッセージを受信した受信者は、受信したメッセージ作成時に利用された、メッセージデータ作成補助領域を、そのまま再利用することが可能となる。このため、メッセージ領域内の無駄なデータが省されてメッセージデータを小さくすることが可能となる。

【0202】

なお、図 3 2 に示されるメッセージデータの閲覧・作成処理では、編集領域の内容が元となったテンプレートデータの編集領域の内容と異なっている。そのため、該メッセージデータに対して処理を行なう際、元となったテンプレートデータを作成したときと完全に同じ操作あるいは表示とはならない。完全に同じ操作とするためには、たとえば、テンプレートデータのデータ構造を、図 3 3 に示されるような作成用領域に編集領域を含まないデータ構造とする、またはメッセージデータ作成の際に作成用領域に編集領域を含まないテンプレートデータを作成して送信する、といった方法が挙げられる。

【0203】

また、いかに閲覧用領域と作成用領域との抽出を容易にするために、より単純には、図 3 4 に示すように、データ内に、別途、データ内のどこが閲覧用領域で、どこが作成用領域なのか、ということを記述してある、データ構成要素情報を含ませる方法が挙げられる。

【0204】

さらに、本実施の形態にかかる携帯電話 1 で実行される、テンプレートデータを用いたメッセージデータの作成方法およびメッセージデータの閲覧・作成方法を、プログラムとして提供することもできる。このようなプログラムは、コンピュータに付属するフレキシブルディスク、CD-ROM (Compact Disc-Read Only Memory)、ROM、RAM およびメモリカードなどのコンピュータ読取り可能な記録媒体にて記録させて、プログラム製品として提供することもできる。あるいは、コンピュータに内蔵するハードディスクなどの記録媒体にて記録させて、プログラムを提供することもできる。また、ネットワークを介したダウンロードによって、プログラムを提供することもできる。

【0205】

提供されるプログラム製品は、ハードディスクなどのプログラム格納部にインストールされて実行される。なお、プログラム製品は、プログラム自体と、プログラムが記録された記録媒体とを含む。

## 【0 2 0 6】

今回開示された実施の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上記した説明ではなくて特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

## 【図面の簡単な説明】

## 【0 2 0 7】

【図 1】 本実施の形態におけるデータ通信システムの構成を示す図である。

【図 2】 データ通信システムに含まれる再生・編集装置である携帯電話 1 のハードウェア構成の具体例を示すブロック図である。

【図 3】 携帯電話 1 の記憶部 1 3 0 に記憶される各プログラムの構成の具体例を示す図である。

【図 4】 再生・編集エンジンプログラム 1 3 1 の機能構成を示す図である。

【図 5】 テンプレートデータのデータ構造を模式的に表わす図である。

【図 6】 具体的なテンプレートデータの例を示す図である。

【図 7】 具体的なテンプレートデータの例を示す図である。

【図 8】 起動機能とそのときに表示させるガイダンスとの対応を規定するテーブルの具体例を示す図である。

【図 9】 携帯電話 1 でのテンプレートデータの再生および編集処理を示すフローチャートである。

【図 1 0】 再生処理を実行するタイミングを表わすメディア再生処理タイムテーブルの具体例を示す図である。

【図 1 1】 イベントが発生した時間に応じて起動させる起動機能のタイミングを表わす起動機能タイムテーブルの具体例を示す図である。

【図 1 2】 ガイダンスを表示させるタイミングを表わすガイダンス表示タイムテーブルの具体例を示す図である。

【図 1 3】 ステップ S 1 8 で実行されるイベントに応じた処理を示すフローチャートである。

【図 1 4】 ステップ S 2 5 におけるアプリケーション実行処理を示すフローチャートである。

【図 1 5】 ステップ S 2 5 におけるアプリケーション実行処理を示すフローチャートである。

【図 1 6】 書換えられたテンプレートデータの具体例を示す図である。

【図 1 7】 書換えられたテンプレートデータの具体例を示す図である。

【図 1 8】 テンプレートデータに対する読込処理が実行されているときの画面遷移の具体例を示す図である。

【図 1 9】 それぞれの機能が起動され、データが編集された状態の画面の具体例を示す図である。

【図 2 0】 第 1 の具体例であるメッセージデータ書出処理で書出されるメッセージデータの構成の具体例を示す図である。

【図 2 1】 第 2 の具体例であるメッセージデータ書出処理で書出されるメッセージデータの構成の具体例を示す図である。

【図 2 2】 メッセージデータのうち、メッセージ領域と判断される部分を具体的に示す図である。

【図 2 3】 第 2 の実施の形態にかかる時間管理部 1 3 1 4 が作成したタイムテーブルの具体例を示す図である。

【図 2 4】 第 2 の実施の形態にかかる View モードにおける、イベント処理の流れを示すフローチャートである。

【図 2 5】 携帯電話 1 での画面遷移の具体例を示す図である。

【図 2 6】 携帯電話 1 での画面遷移の具体例を示す図である。

【図 27】 テンプレートデータの他の具体例を示す図である。

【図 28】 テンプレートデータの他の具体例を示す図である。

【図 29】 テンプレートデータの他の具体例を示す図である。

【図 30】 テンプレートデータの他の具体例を示す図である。

【図 31】 メッセージデータの作成処理を説明する図である。

【図 32】 メッセージデータの閲覧・作成処理を説明する図である。

【図 33】 テンプレートデータのデータ構造の具体例を示す図である。

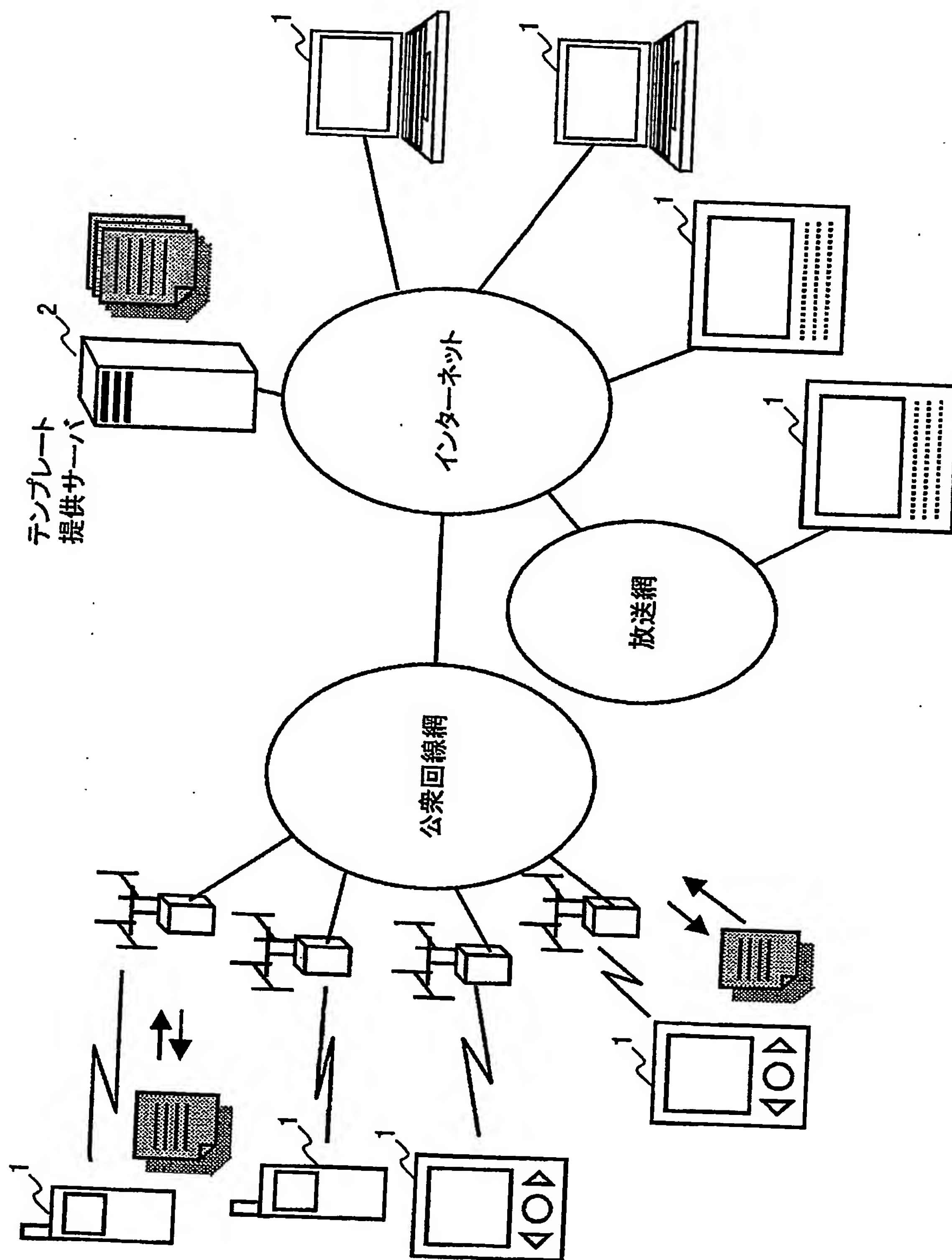
【図 34】 テンプレートデータのデータ構造の具体例を示す図である。

【符号の説明】

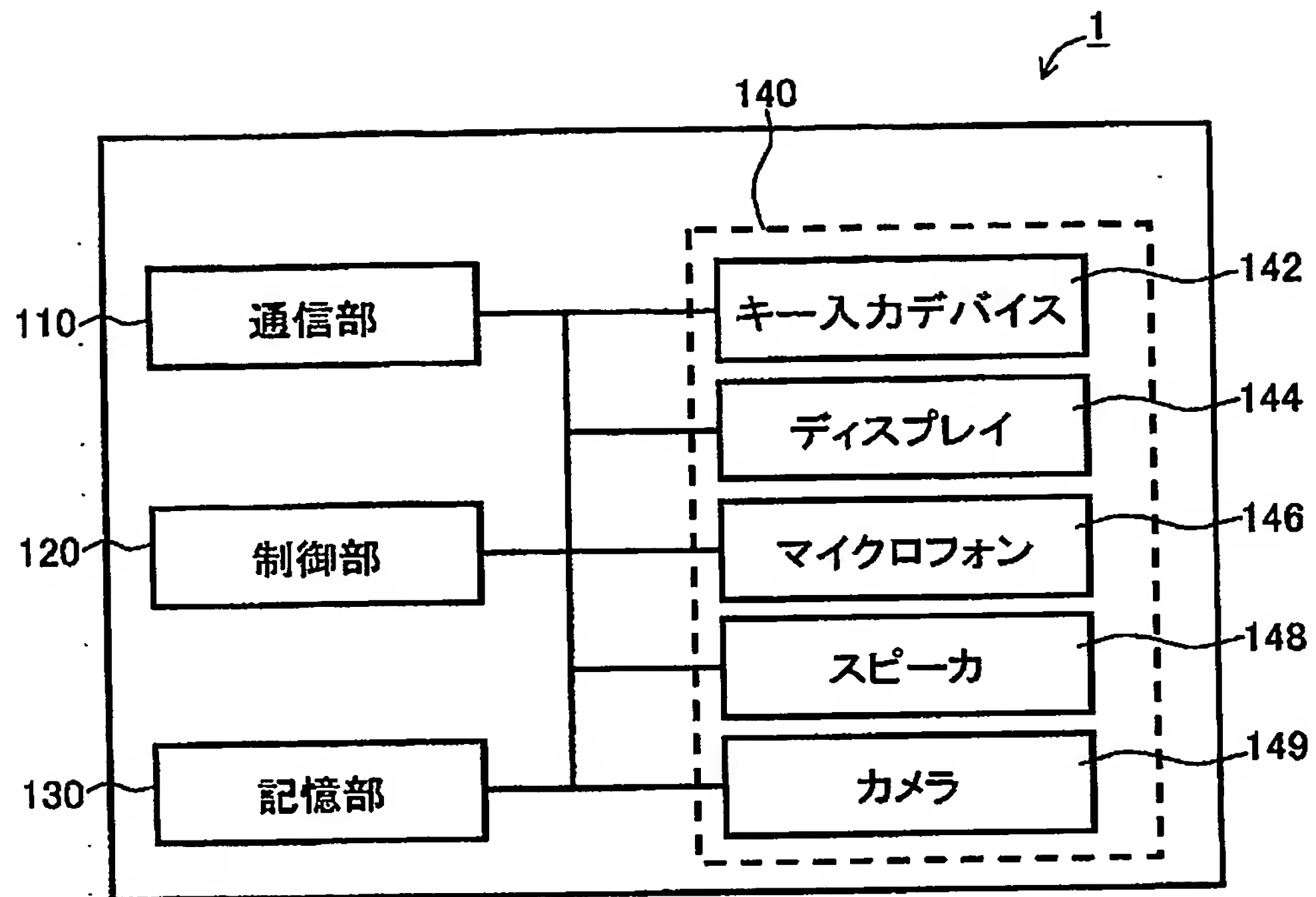
【0208】

1 携帯電話、2 テンプレート提供サーバ、110 通信部、120 制御部、130 記憶部、131 再生・編集エンジンプログラム、132 UI表示プログラム、133 画像撮影プログラム、134 画像データ表示再生プログラム、135 音データ再生プログラム、136 音声データ録音プログラム、137 動画・アニメデータ表示再生プログラム、138 テキストデータ表示再生プログラム、139 テキスト編集プログラム、140 入出力部、142 キーコード入力デバイス、144 ディスプレイ、146 マイクロフォン、148 スピーカ、149 カメラ、150 GPS、151 WWWブラウザプログラム、152 メールプログラム、153 通話プログラム、154 位置取得プログラム、155 アドレス帳プログラム、156 ファイル取得プログラム、157 各種データ記憶部、1311 データ読込部、1312 構文解析部、1313 実行制御部、1314 時間管理部、1315 イベント管理部、1316 再生データ書出部、1317 メッセージデータ書出部、1318 テンプレートデータ書出部。

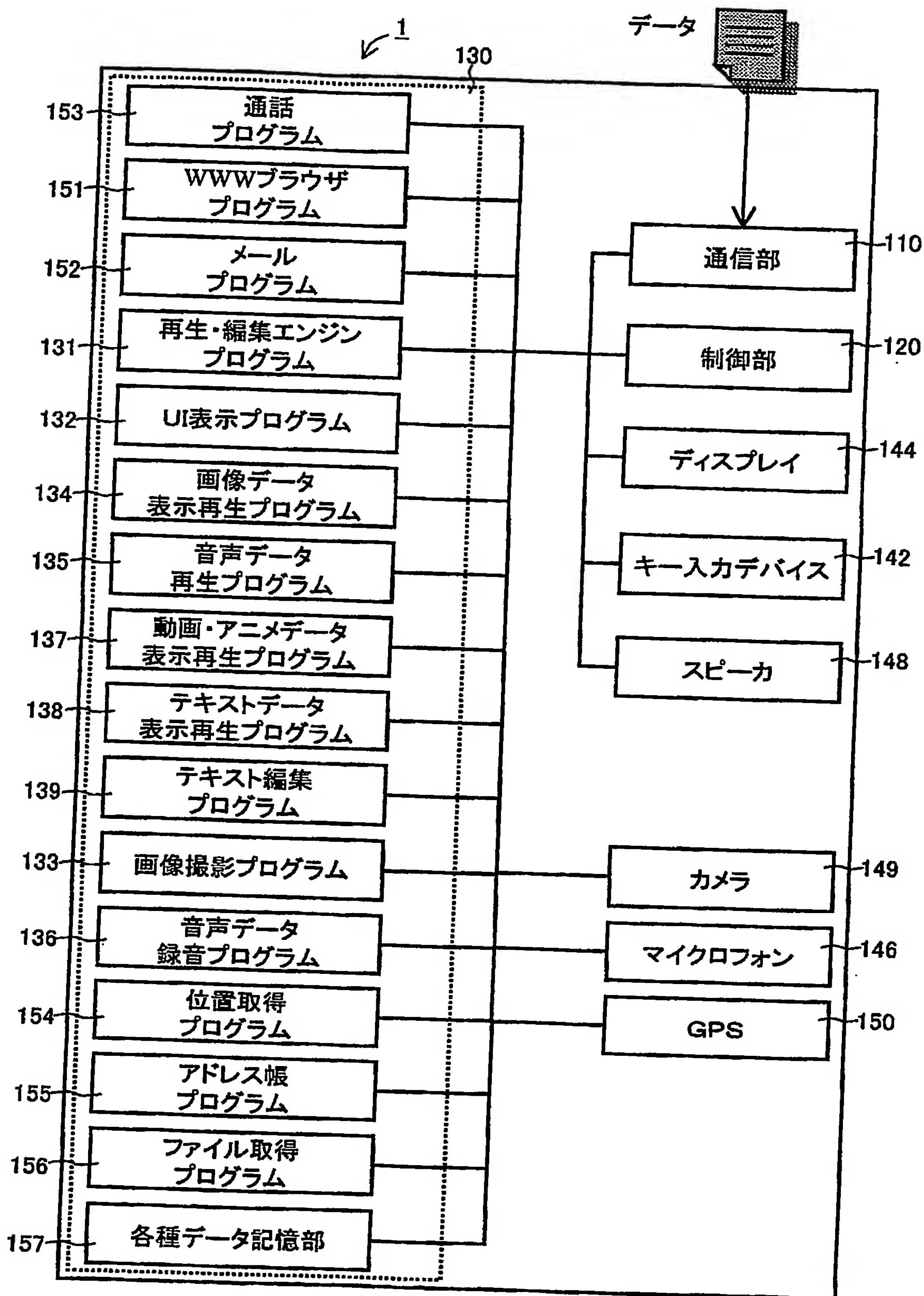
【書類名】 図面  
【図 1】



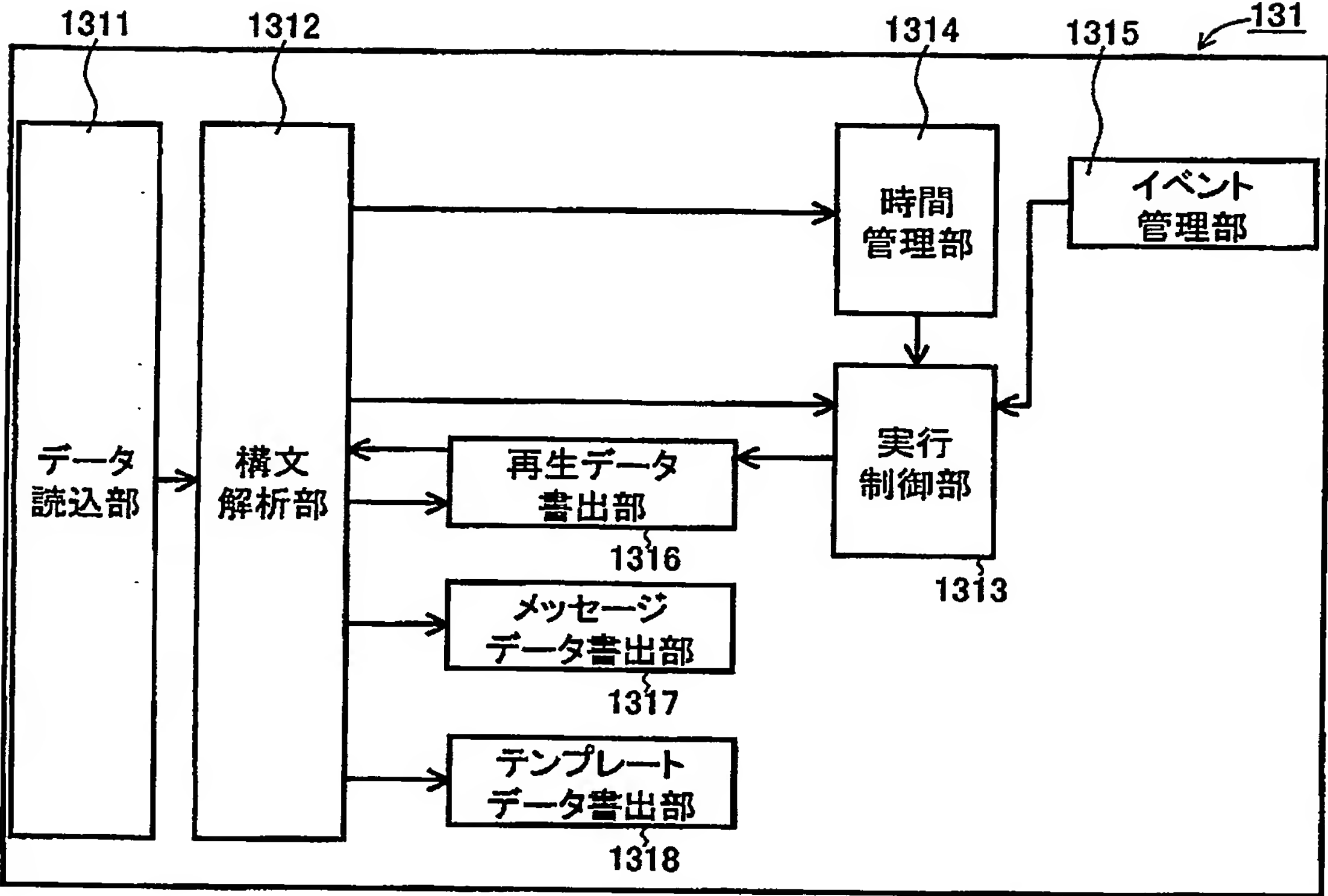
【図 2】



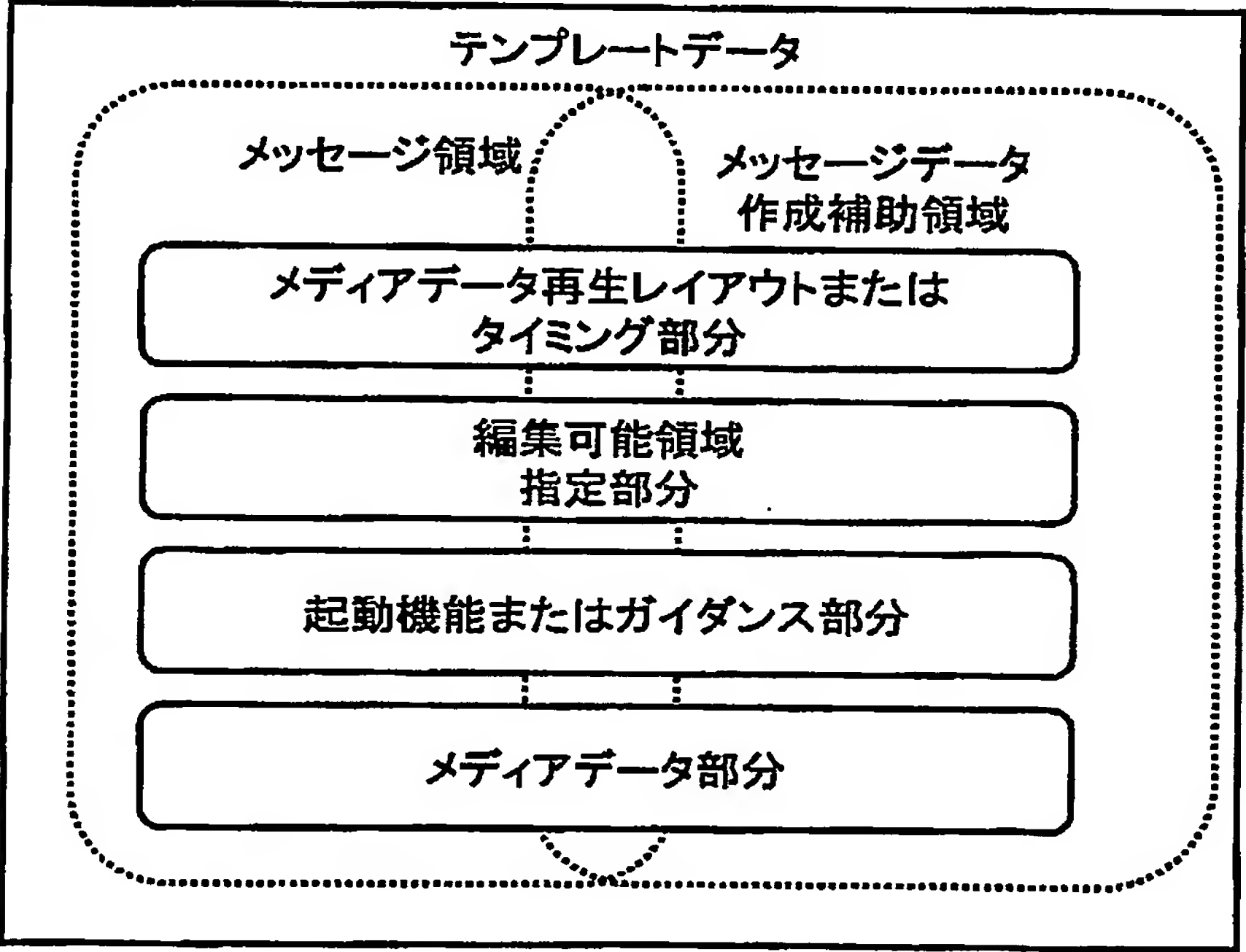
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

```
• <smil>
• <head>
•   <meta name="title" content="Happy Birthday" />
•   <meta name="author" content="Sharp" />
•   <meta name="role" content="template" />
•   <meta name="replace" content="FirstText.txt:text_edit" />
•   <meta name="replace" content="SecondImage.jpg:camera" />
•   <meta name="replace" content="SecondSound.mp3:mic" />
• <layout>
•   <root-layout width="240" height="300"/>
•   <region id="Image" width="240" height="240" left="0" top="0" />
•   <region id="Text" width="240" height="60" left="0" top="240"/>
• </layout>
• </head>
• <body>
•   <par dur="8s">
•     <video src="FirstImage.mpg" region="Image" />
•     <text id="text1" src="FirstText.txt" region="Text" />
•     <audio src="FirstSound.smf" />
•     <guidance desc="メッセージを入力します" />
•   </par>
•   <par dur="8s">
•     
•     <text src="SecondText.txt" region="Text" />
•     <audio id="audio2" src="SecondSound.mp3" />
•     <guidance desc="写真を撮ります" />
•     <guidance desc="マイク録音します" />
•   </par>
• </body>
• </smil>
```

編集可能領域指定部分  
起動機能またはガイダンス部分

メディアデータ再生レイアウトまたはタイミング部分

ガイダンス部分

ガイダンス部分

【図 7】

```

<smil>
<head>
  <meta name="title" content="Happy Birthday" />
  <meta name="author" content="Sharp" />
  <meta name="role" content="template" />
  <layout>
    <root-layout width="240" height="300"/>
    <region id="Image" width="240" height="240" left="0" top="0" />
    <region id="Text" width="240" height="60" left="0" top="240"/>
  </layout>
</head>
<body>
  <par dur="8s">
    <video src="FirstMovie.mpg" region="Image" />
    <text id="text1" src="FirstText.txt" region="Text" />
    <audio src="FirstSound.smf" />
    <prompt command="text_edit" targetId="text1" desc="メッセージを入力します" />
  </par>
  <par dur="8s">
    
    <text src="SecondText.txt" region="Text" />
    <audio id="audio2" src="SecondSound.mp3" />
    <prompt command="camera" targetId="pic2" desc="写真をとります" />
    <prompt command="mic" targetId="audio2" desc="マイク録音します" />
  </par>
</body>
</smil>

```

メディアデータ再生レイアウトまたはタイミング部分

起動機能またはガイダンス部分  
編集可能領域指定部分

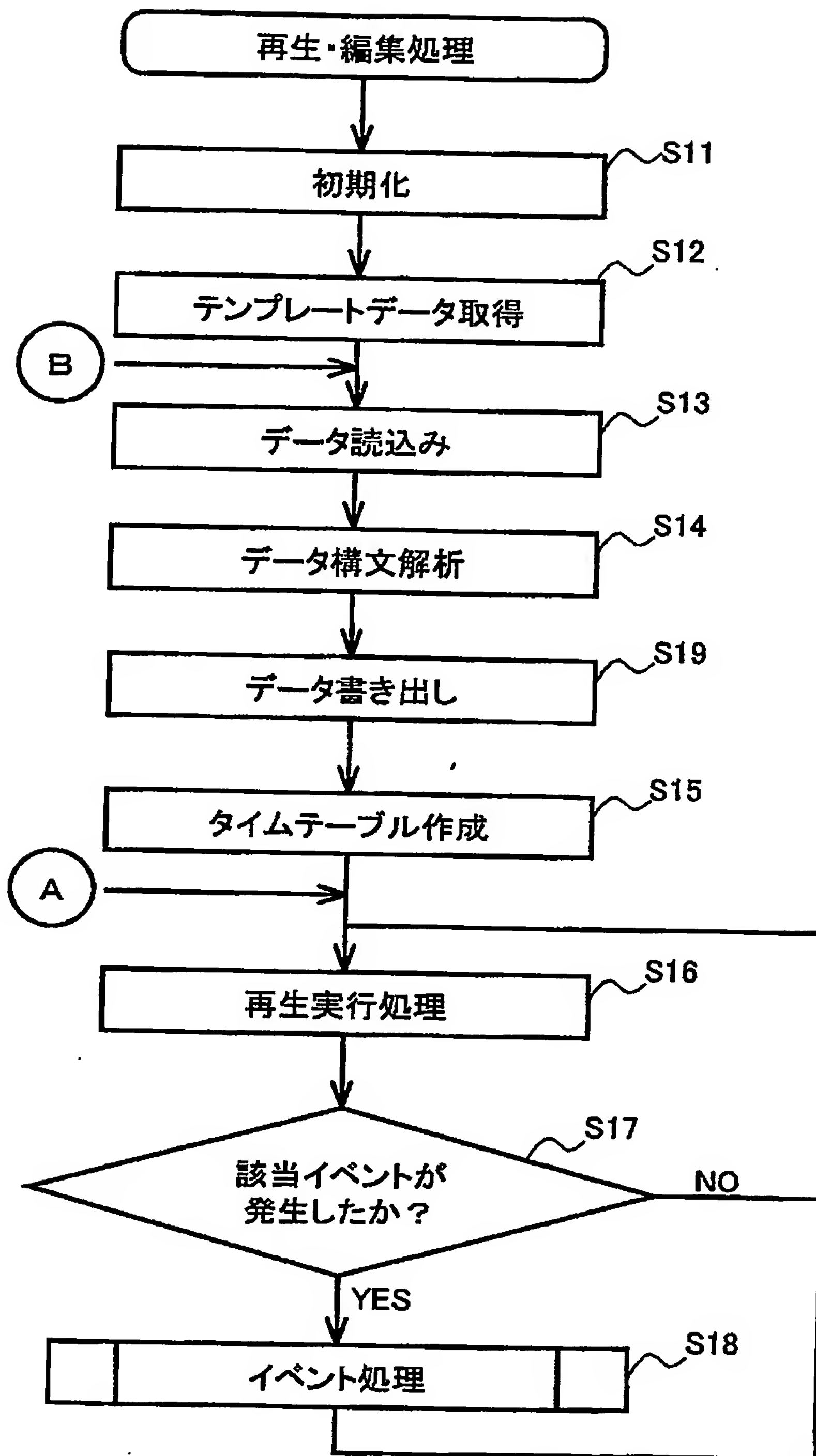
メディアデータ再生レイアウト  
またはタイミング部分

起動機能またはガイダンス部分  
編集可能領域指定部分

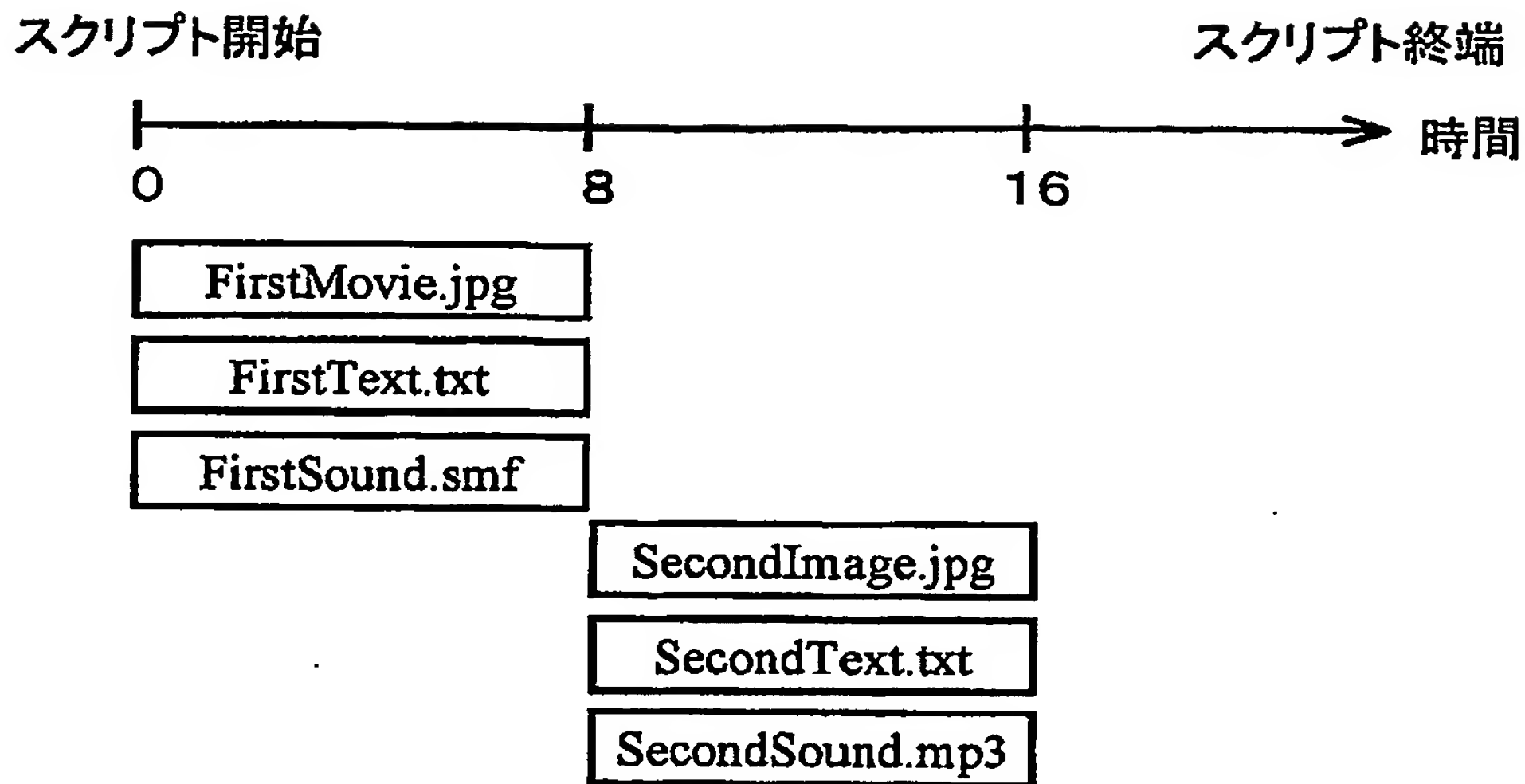
【図 8】

video	ビデオカメラ起動
camera	カメラ起動
text_edit	テキスト入力
mic	音声録音
file	ファイル選択
http	WWWブラウザ起動
phone	通話起動

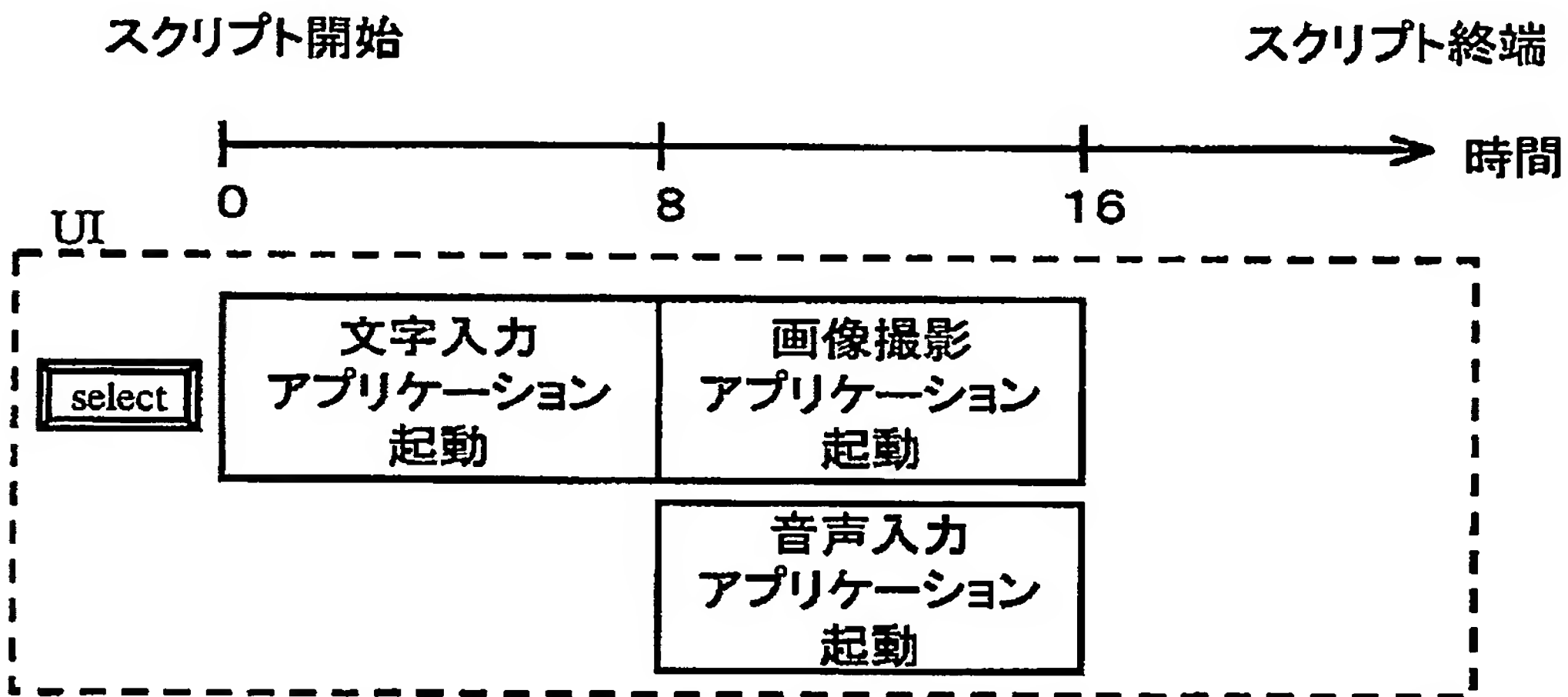
【図 9】



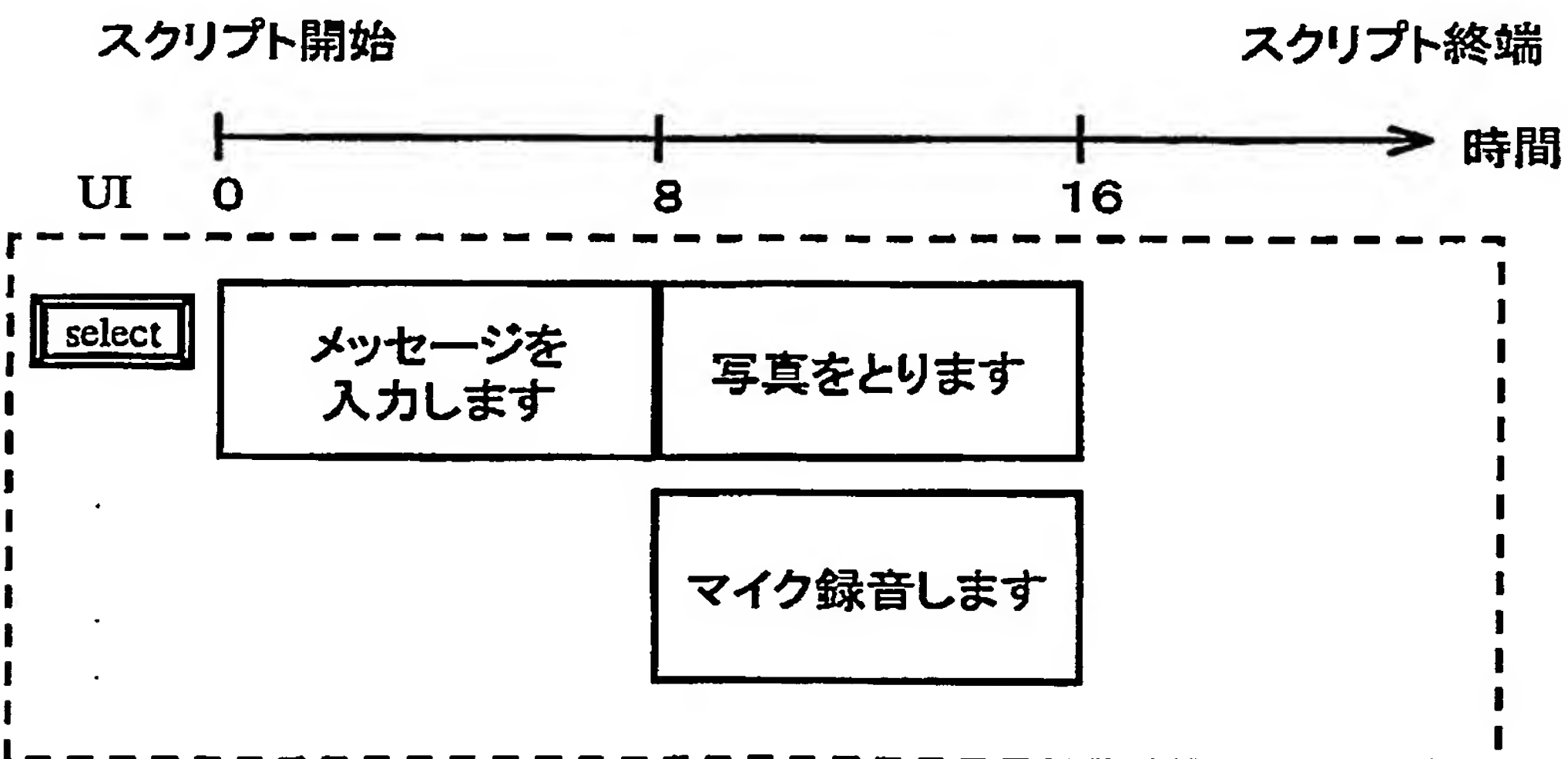
【図 10】



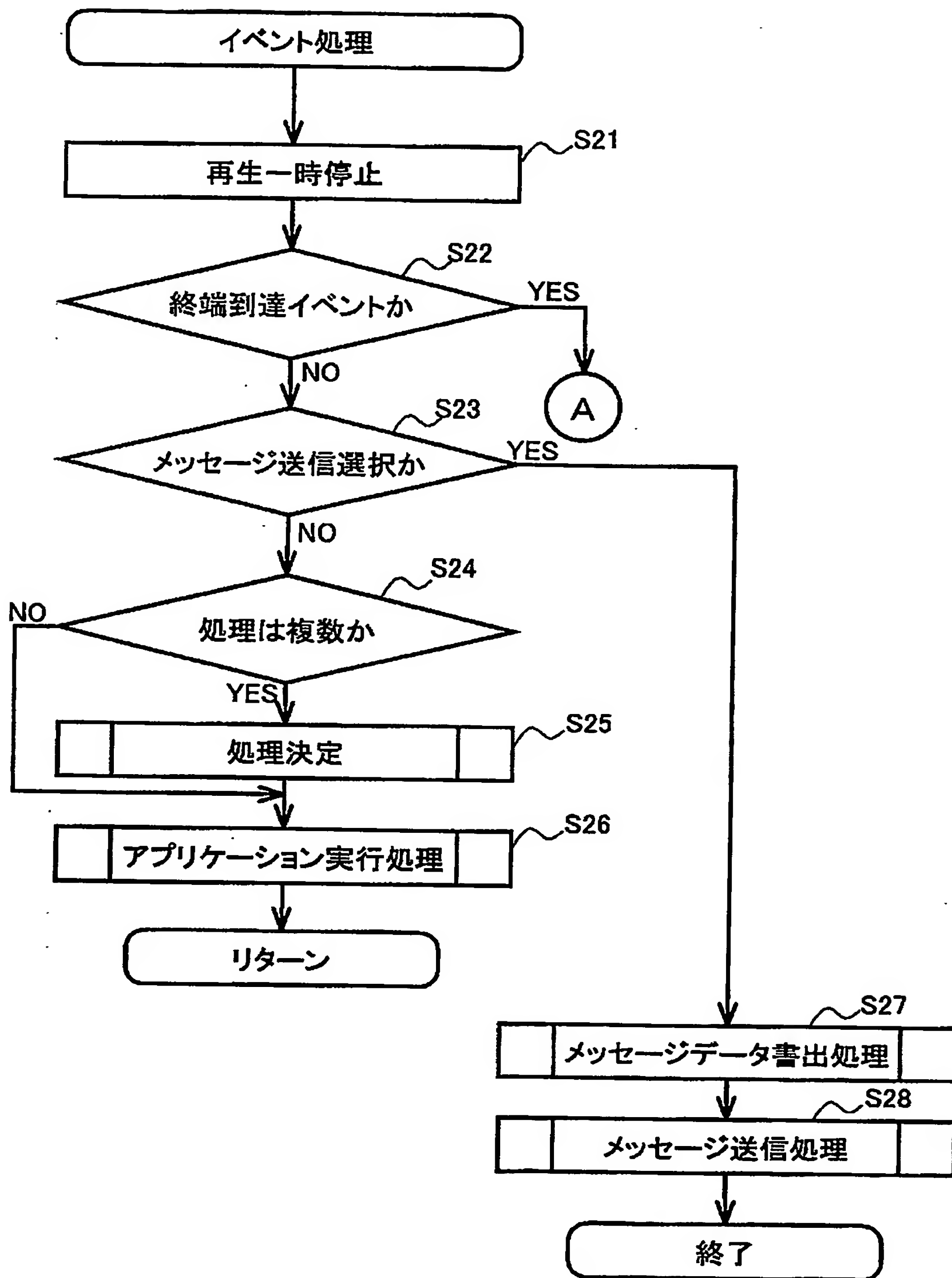
【図 11】



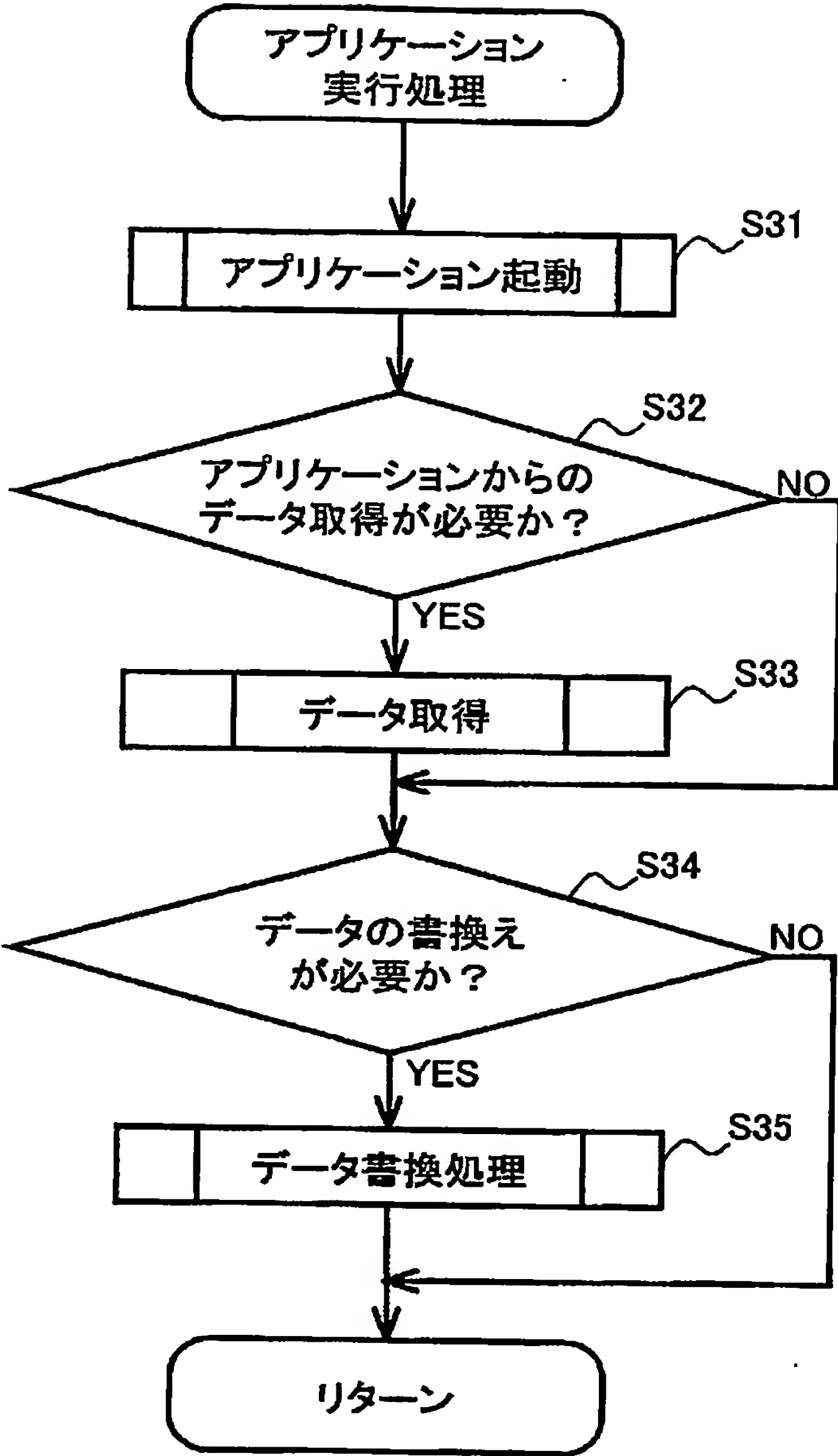
【図 12】



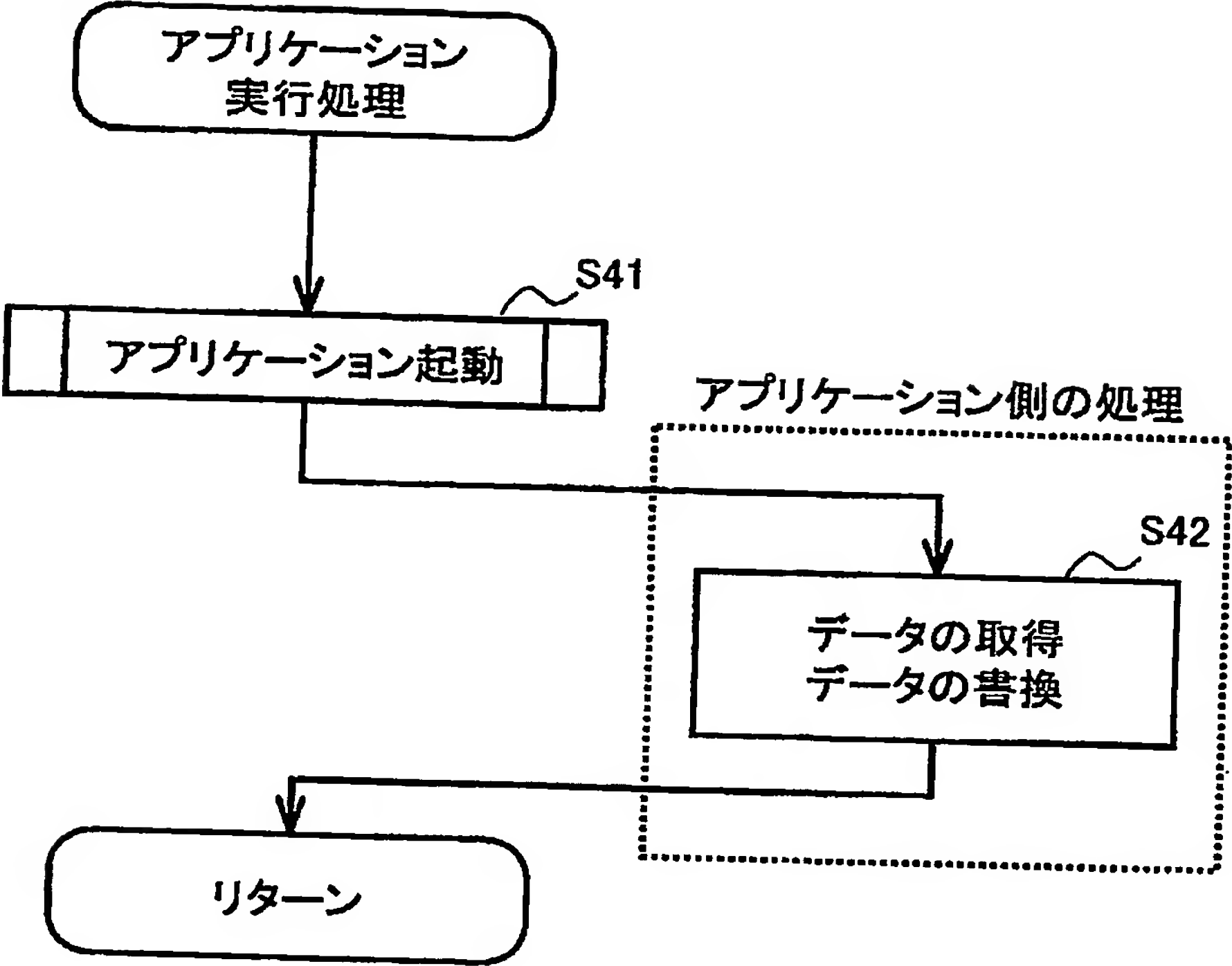
【図 13】



【図 14】



【図 15】



【図 16】

```
• <smil>
• <head>
•   <meta name="title" content="Happy Birthday" />
•   <meta name="author" content="Sharp" />
•   <meta name="role" content="template" />
•   <meta name="replace" content="InputtedText.txt:text_edit" />
•   <meta name="replace" content="InputtedImage.jpg:camera" />
•   <meta name="replace" content="SecondSound.mp3:mic" />
• </layout>
•   <root-layout width="240" height="300"/>
•   <region id="Image" width="240" height="240" left="0" top="0" />
•   <region id="Text" width="240" height="60" left="0" top="240"/>
• </layout>
• </head>
• <body>
•   <par dur="8s">
•     <video src="FirstMovie.mpg" region="Image" />
•     <text id="text1" src="InputtedText.txt" region="Text" />
•     <audio src="FirstSound.smf" />
•     <guidance desc="メッセージを入力します" />
•   </par>
•   <par dur="8s">
•     
•     <text src="SecondText.txt" region="Text" />
•     <audio id="audio2" src="SecondSound.mp3" />
•     <guidance desc="写真を撮ります" />
•     <guidance desc="マイク録音します" />
•   </par>
• </body>
• </smil>
```

書換えられた箇所

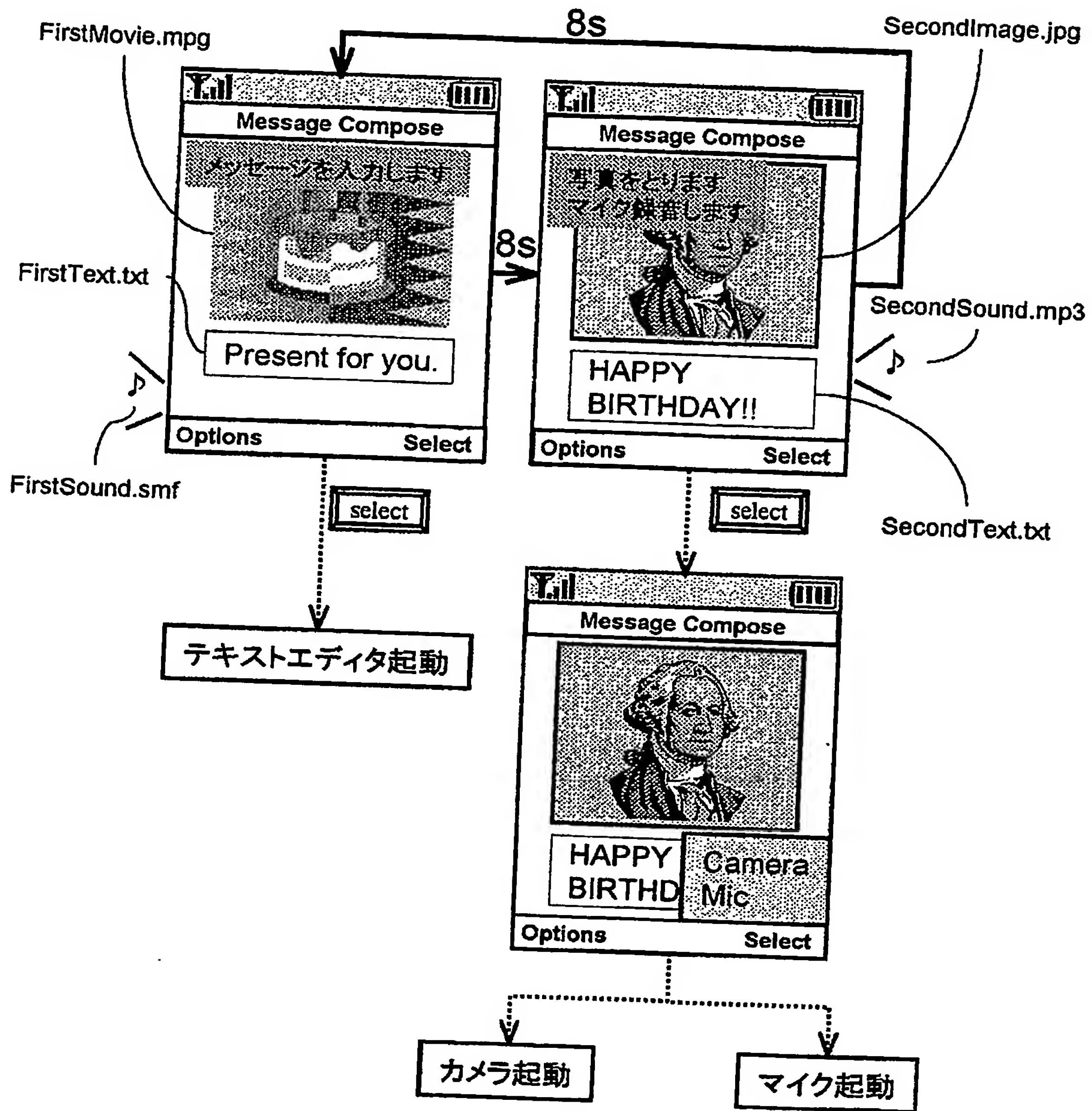
書換えられた箇所

書換えられた箇所

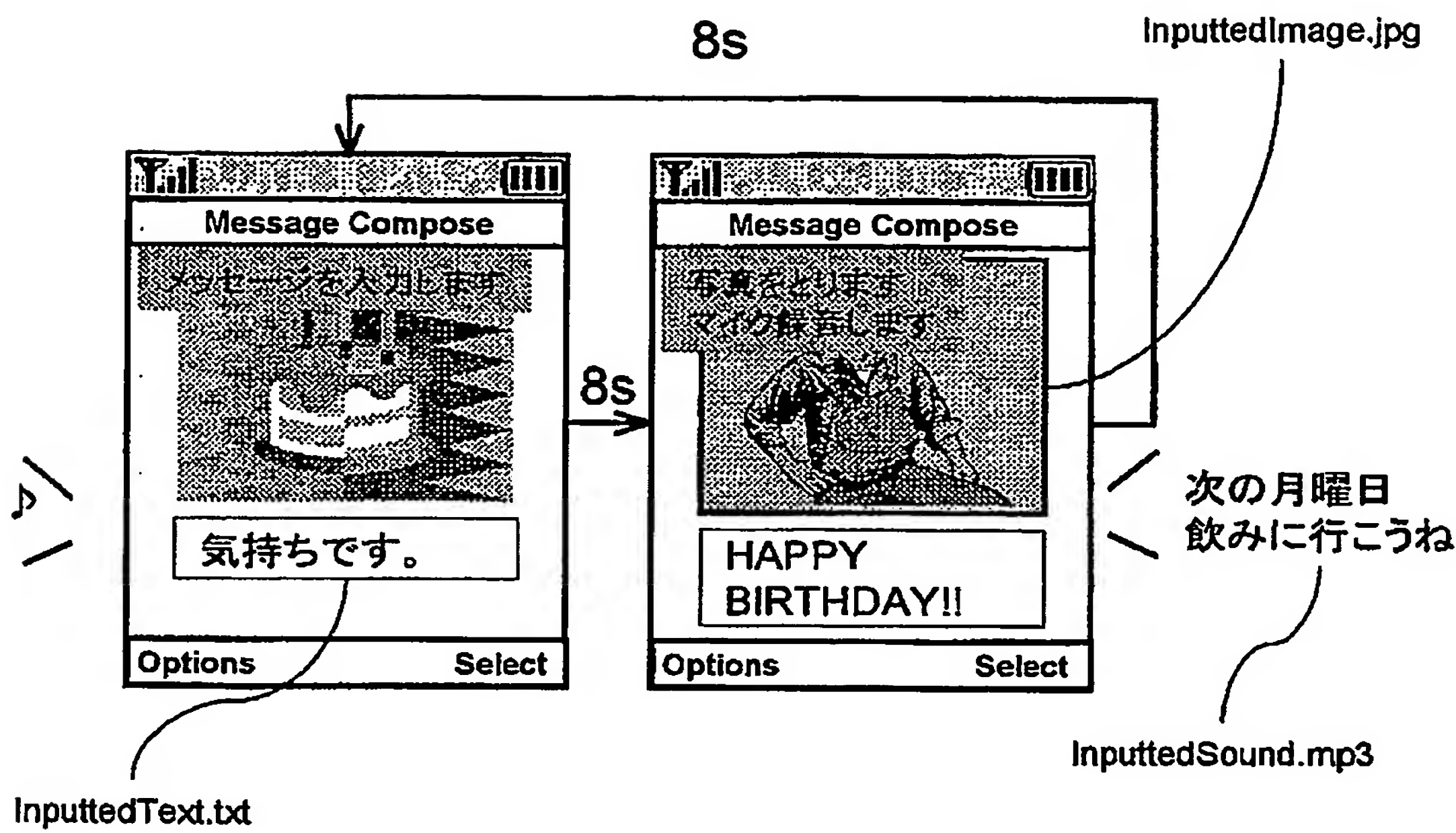
## 【図 1 7】

```
• <smil>
• <head>
•   <meta name="title" content="Happy Birthday" />
•   <meta name="author" content="Sharp" />
•   <meta name="role" content="template" />
•   <layout>
•     <root-layout width="240" height="300"/>
•     <region id="Image" width="240" height="240" left="0" top="0" />
•     <region id="Text" width="240" height="60" left="0" top="240"/>
•   </layout>
• </head>
• <body>
•   <par dur = "8s">
•     <video src = "FirstMovie.mpg" region="Image" />
•     <text id="text1" src="InputtedText.txt" region="Text" />
•     <audio src = "FirstSound.smf" />
•     <prompt command="text_edit" targetId="text1" desc="メッセージを入力します" />
•   </par>
•   <par dur = "8s">
•     <img id="pic2" src = "InputtedImage.jpg" region="Image" />
•     <text src="SecondText.txt" region="Text" />
•     <audio id="audio2" src = "SecondSound.mp3" />
•     <prompt command="camera" targetId="pic2" desc="写真を撮ります" />
•     <prompt command="mic" targetId="audio2" desc="マイク録音します" />
•   </par>
• </body>
• </smil>
```

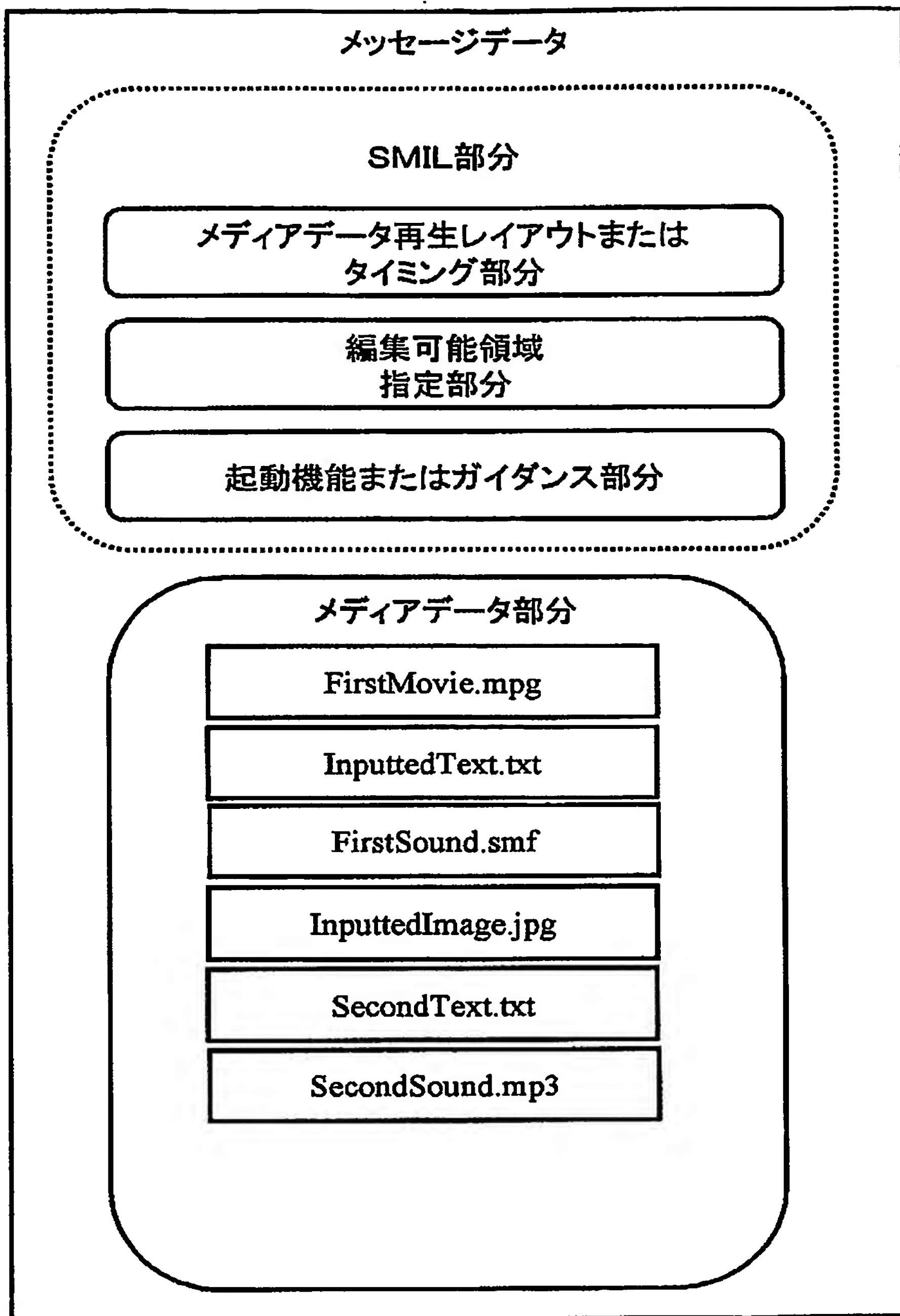
【図 18】



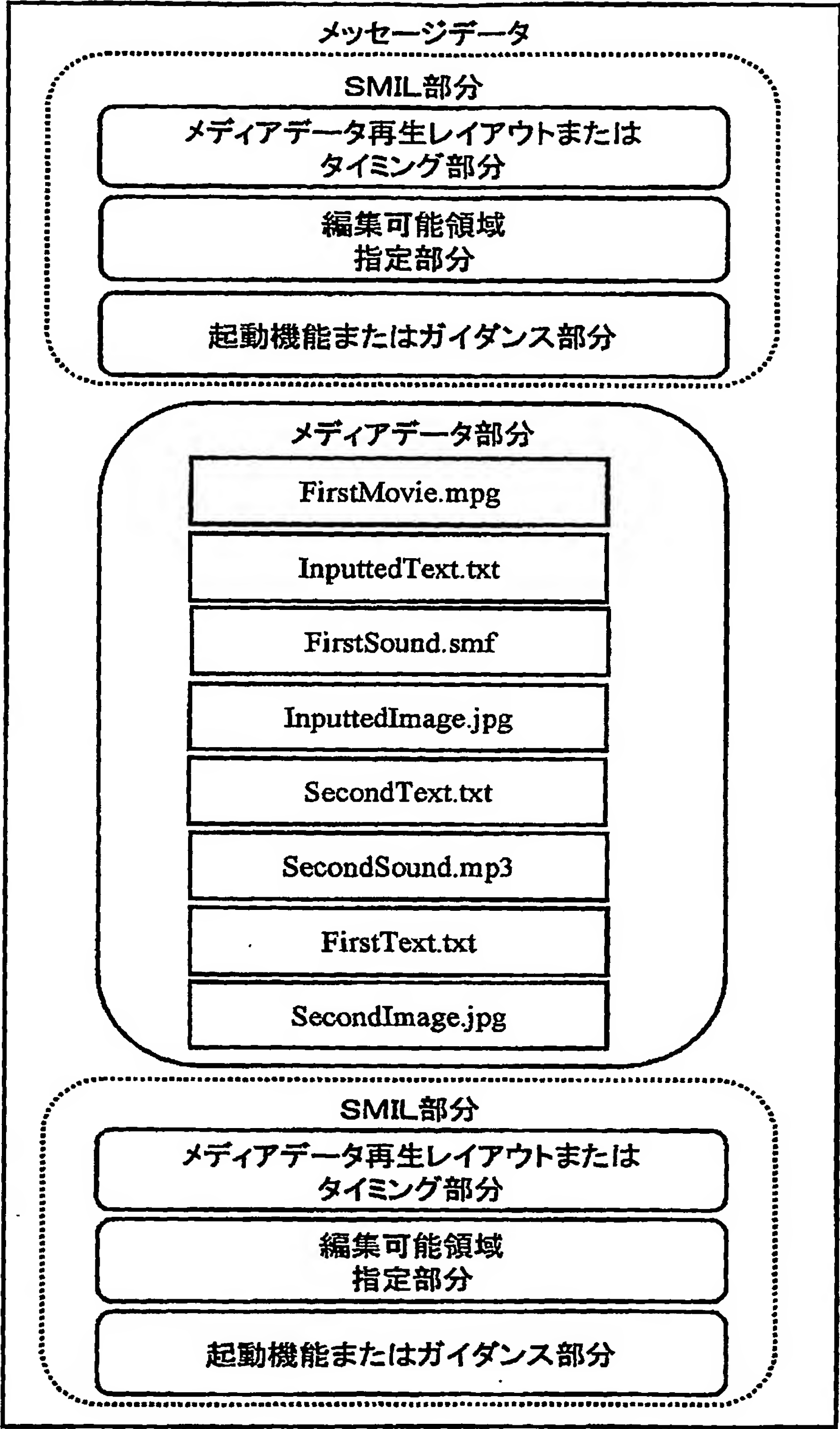
【図 19】



【図 2 0】



【図 21】



【図 2 2】

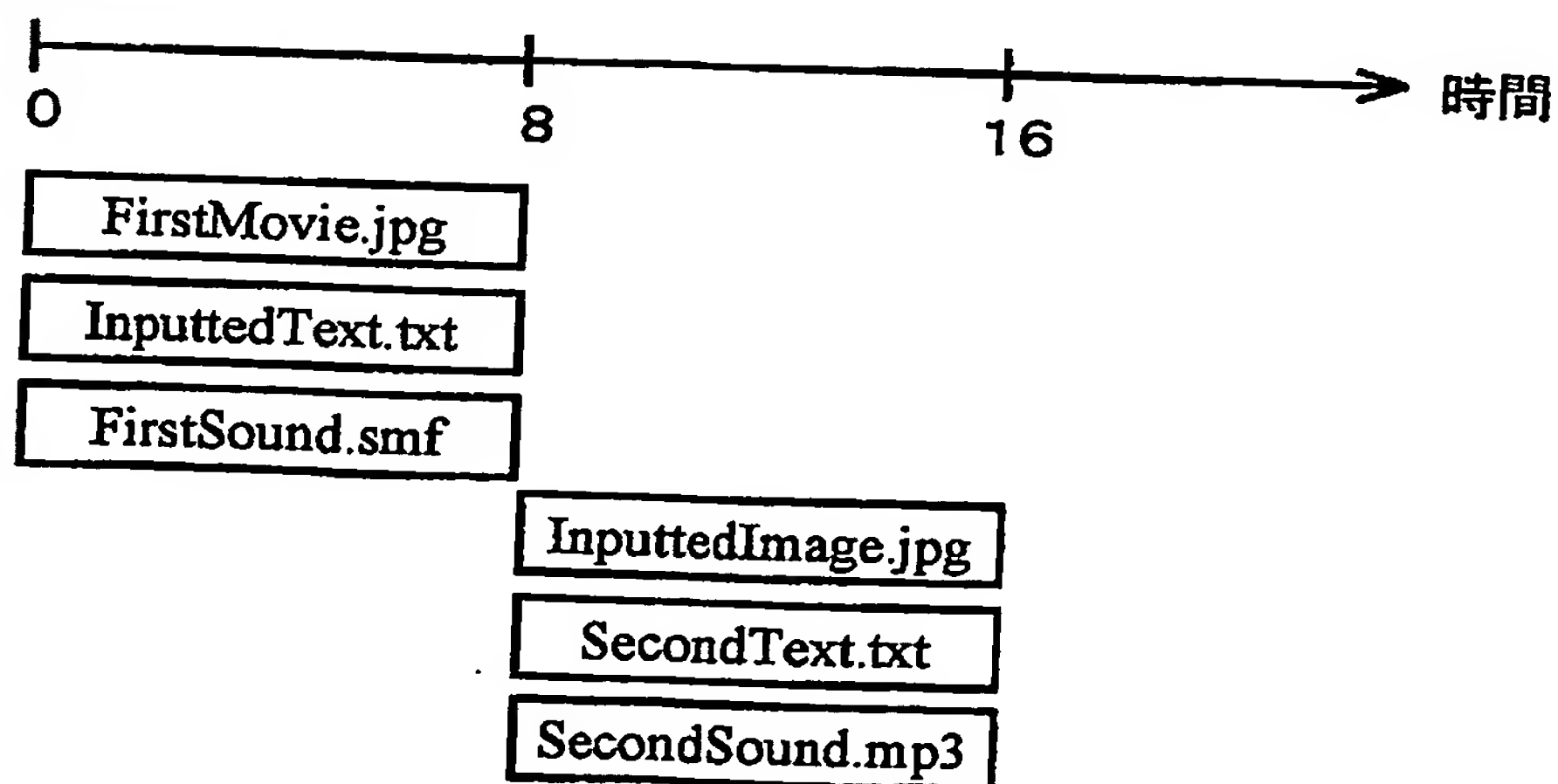
```

<smil>
<head>
  <meta name="title" content="Happy Birthday" />
  <meta name="author" content="Sharp" />
  <meta name="role" content="template" />
</head>
<layout>
  <root-layout width="240" height="300"/>
  <region id="Image" width="240" height="240" left="0" top="0" />
  <region id="Text" width="240" height="60" left="0" top="240"/>
</layout>
<body>
  <par dur="8s">
    <video src="FirstMovie.mpg" region="Image" />
    <text id="text1" src="InputtedText.txt" region="Text" />
    <audio src="FirstSound.smf" />
    <prompt command="text_edit" targetId="text1" desc="メッセージを入力します" />
  </par>
  <par dur="8s">
    
    <text src="SecondText.txt" region="Text" />
    <audio id="audio2" src="SecondSound.mp3" />
    <prompt command="camera" targetId="pic2" desc="写真を撮ります" />
    <prompt command="mic" targetId="audio2" desc="マイク録音します" />
  </par>
</body>
</smil>

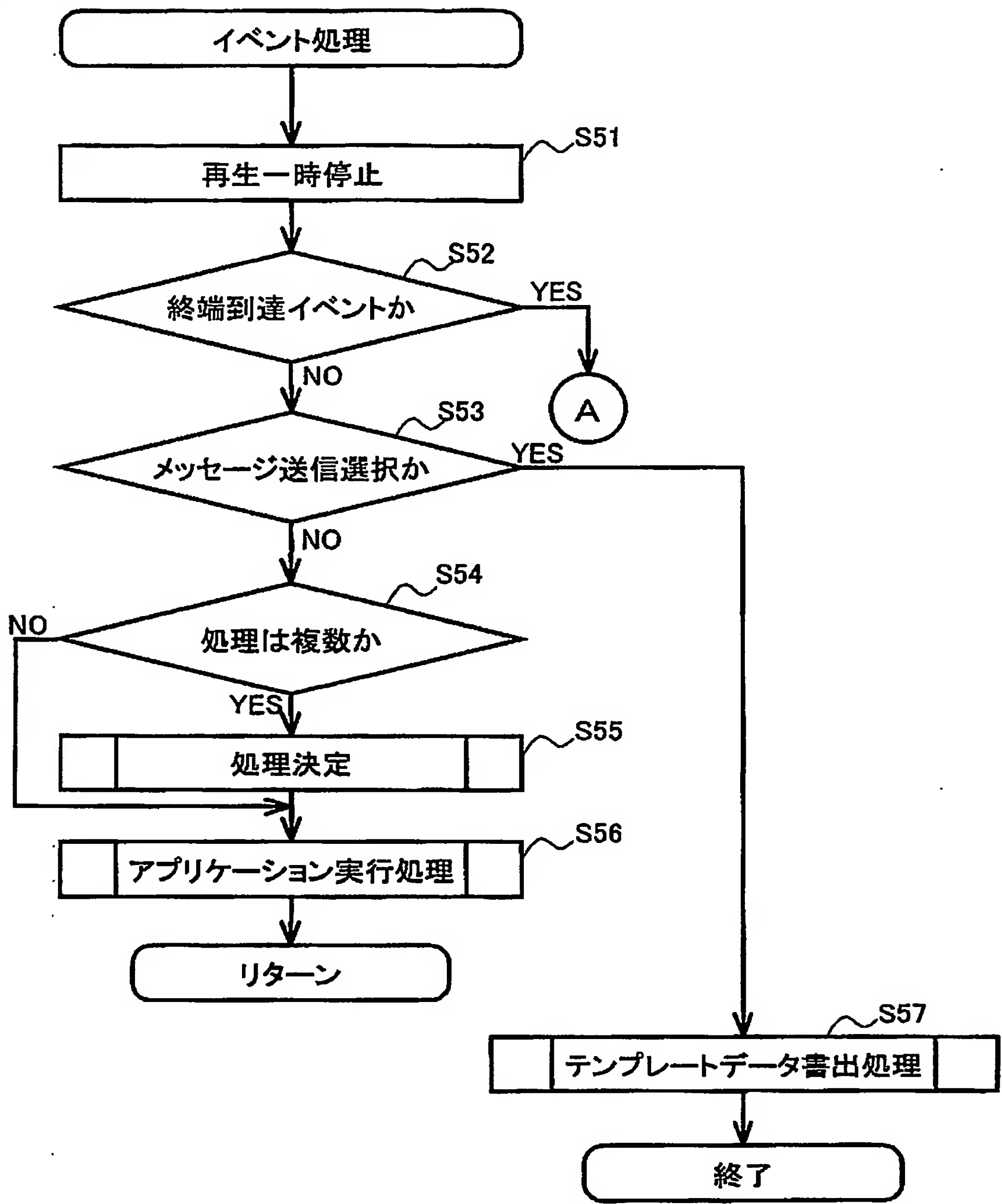
```

【図 2 3】

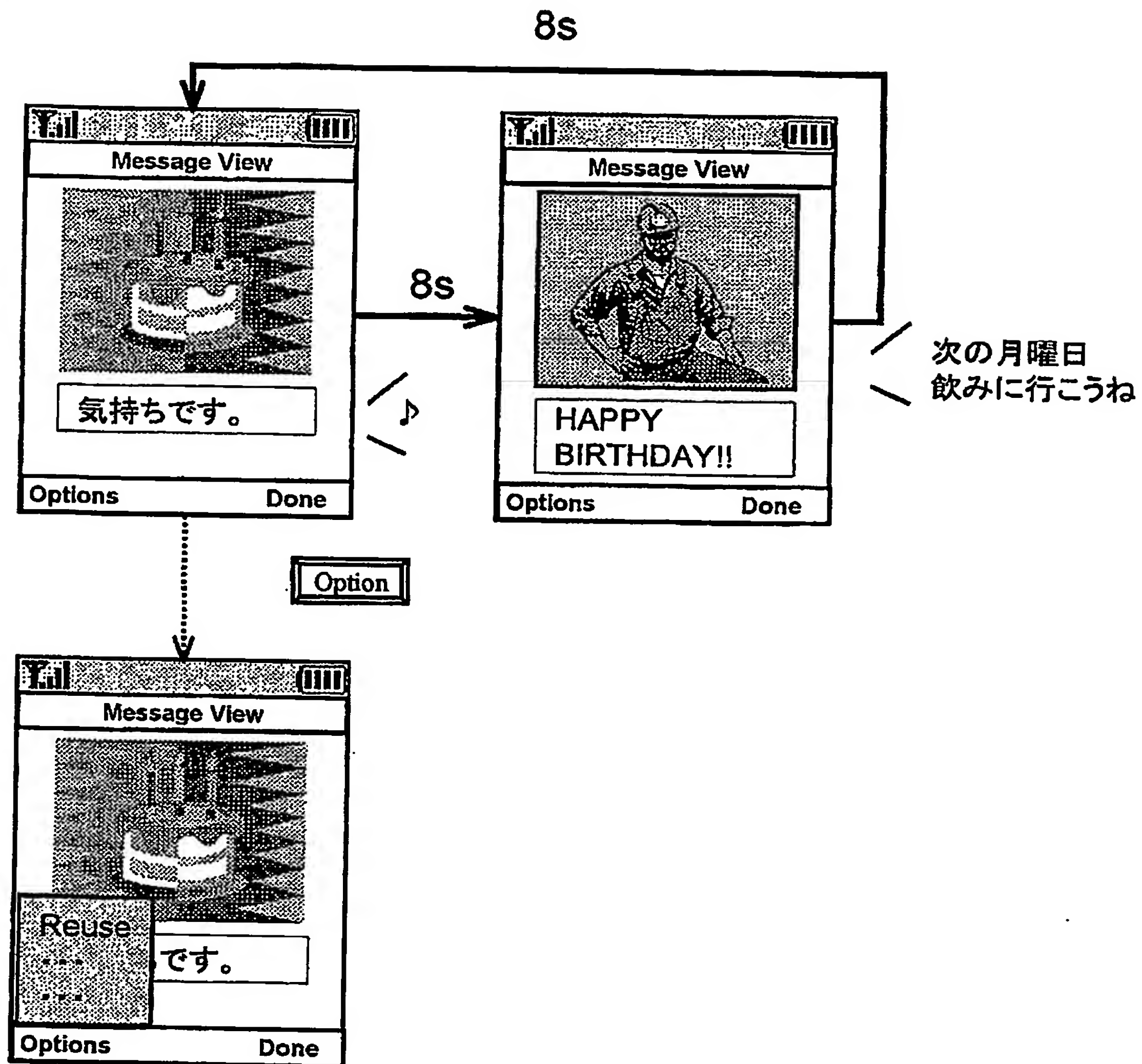
再生開始



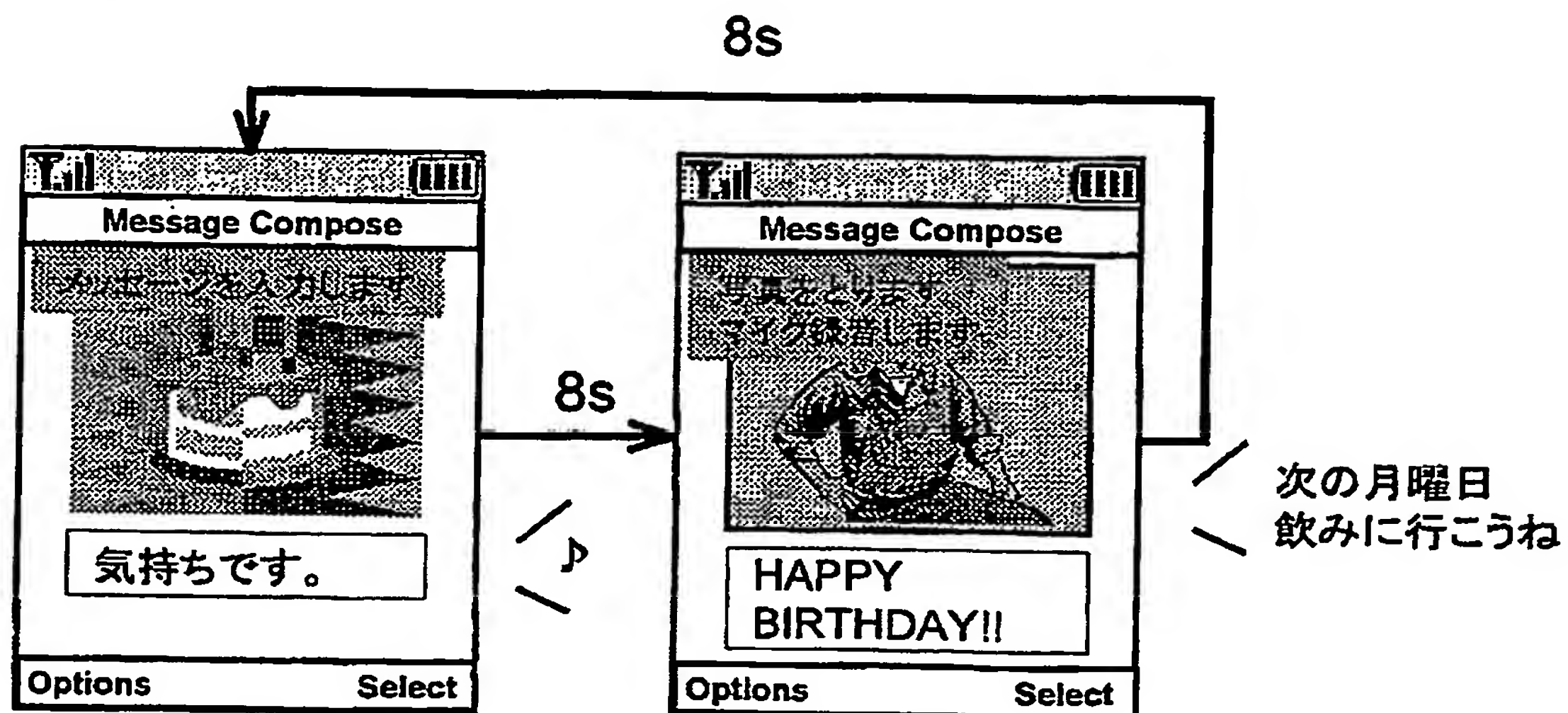
【図 24】



【図 25】



【図 26】



【図 27】

```
. <smil>
. <head>
.   <meta name="title" content="Happy Birthday" />
.   <meta name="author" content="Sharp" />
.   <meta name="role" content="template" />
.   <layout>
.     <root-layout width="240" height="300"/>
.     <region id="Image" width="240" height="240" left="0" top="0" />
.     <region id="Text" width="240" height="60" left="0" top="240"/>
.   </layout>
. </head>
. <body>
.   <par dur="8s">
.     <video src="FirstMovie.mpg" region="Image" />
.     <text id="text1" src="FirstText.txt" region="Text" />
.     <audio src="FirstSound.smf" />
.     <switch mode="composition">
.       <prompt command="text_edit" targetId="text1" desc="メッセージを入力します" />
.     </switch>
.   </par>
.   <par dur="8s">
.     
.     <text src="SecondText.txt" region="Text" />
.     <audio id="audio2" src="SecondSound.mp3" />
.     <switch mode="composition">
.       <prompt command="camera" targetId="pic2" desc="写真を撮ります" />
.       <prompt command="mic" targetId="audio2" desc="マイク録音します" />
.     </switch>
.   </par>
. </body>
. </smil>
```

解釈される範囲

【図 2 8】

```

• <smil>
• <head>
•   <meta name="title" content="Happy Birthday" />
•   <meta name="author" content="Sharp" />
•   <meta name="role" content="template" />
•   <layout>
•     <root-layout width="240" height="300"/>
•     <region id="Image" width="240" height="240" left="0" top="0" />
•     <region id="Text" width="240" height="60" left="0" top="240"/>
•   </layout>
• </head>
• <body>
•   <par dur="8s">
•     <video id="video1" src="FirstMovie.mpg" region="Image" />
•     <text id="text1" src="FirstText.txt" region="Text" />
•     <audio src="FirstSound.smf" />
•     <switch mode="composition">
•       <prompt command="text_edit" targetId="text1" desc="メッセージを入力します" />
•     </switch>
•     {
•       <switch mode="view">
•         <prompt command="http://hoge.com" targetID="video1" desc="hoge.comにアクセス!!" />
•       </switch>
•     }
•   </par>
•   <par dur="8s">
•     
•     <text src="SecondText.txt" region="Text" />
•     <audio id="audio2" src="SecondSound.mp3" />
•     <switch mode="composition">
•       <prompt command="camera" targetId="pic2" desc="写真をとります" />
•       <prompt command="mic" targetId="audio2" desc="マイク録音します" />
•     </switch>
•   </par>
• </body>
• </smil>

```

アクセス情報

## 【図 2 9】

```
. <smil>
. <head>
.   <meta name="title" content="Happy Birthday" />
.   <meta name="author" content="Sharp" />
.   <meta name="role" content="template" />
.   <layout>
.     <root-layout width="240" height="300"/>
.     <region id="Image" width="240" height="240" left="0" top="0" />
.     <region id="Text" width="240" height="60" left="0" top="240"/>
.   </layout>
. </head>
. <body>
.   <par dur = "8s">
.     <video src = "FirstMovie.mpg" region="Image" />
.     <text id="text1" src="FirstText.txt" region="Text" />
.     <audio src = "FirstSound.smf" />
.     <switch mode="composition">
.       <prompt command="text_edit" targetId="text1" desc="メッセージを入力します" />
.     </switch>
.   </par>
.   <par dur = "8s">
.     <img id="pic2" src = "SecondImage.jpg" region="Image" />
.     <text src="SecondText.txt" region="Text" />
.     <audio id="audio2" src = "SecondSound.mp3" />
.     <switch mode="view">
.       <prompt commandsrc="url.txt" targetId="url" desc="アクセスしてね！！" />
.     </switch>
.     <switch mode="composition">
.       <prompt command="camera" targetId="pic2" desc="写真をとります" />
.       <prompt command="mic" targetId="audio2" desc="マイク録音します" />
.       <prompt command="text_edit" targetId="url" desc="URLを入力" />
.     </switch>
.   </par>
. </body>
. </smil>
```

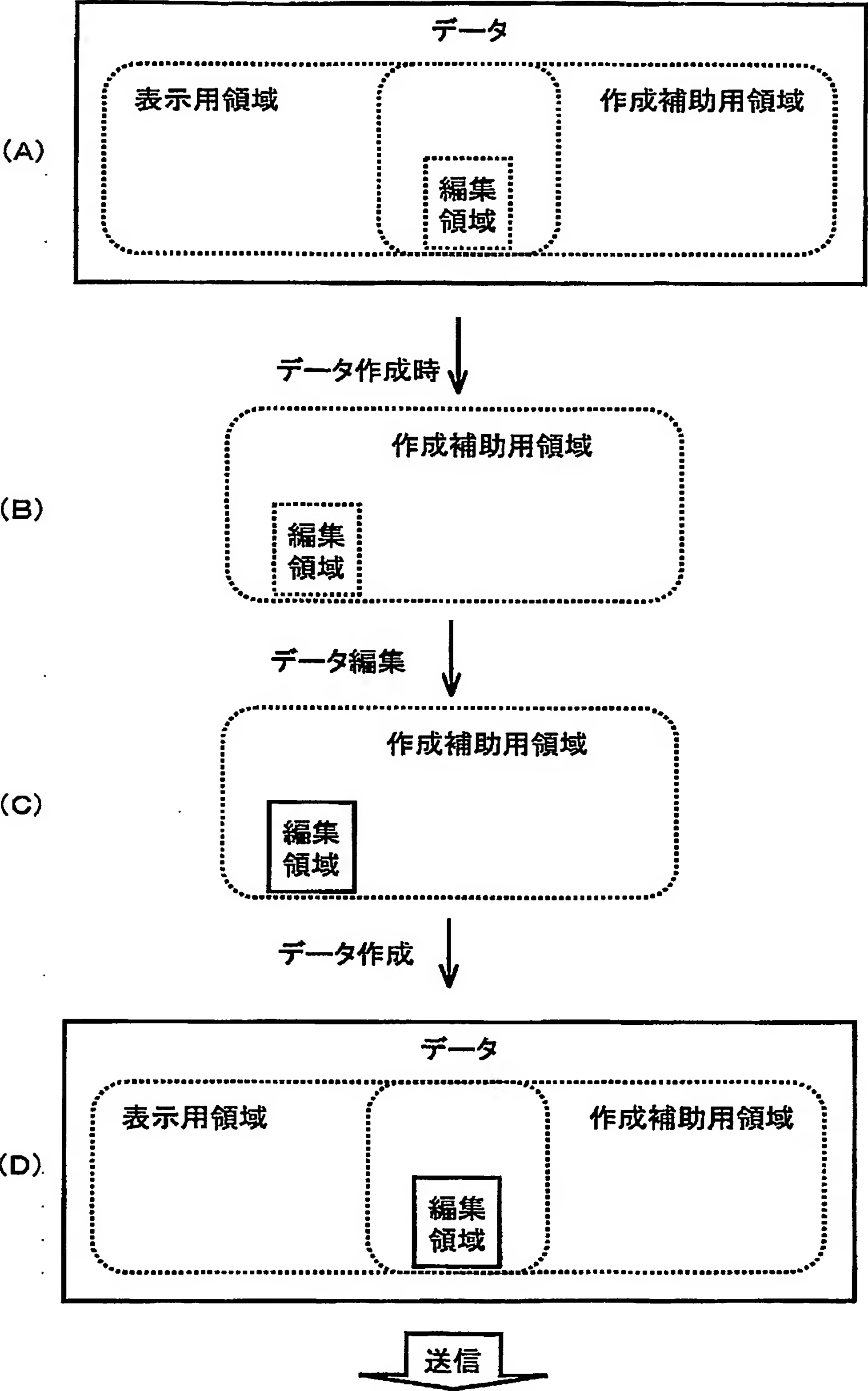
【図 3 0】

```

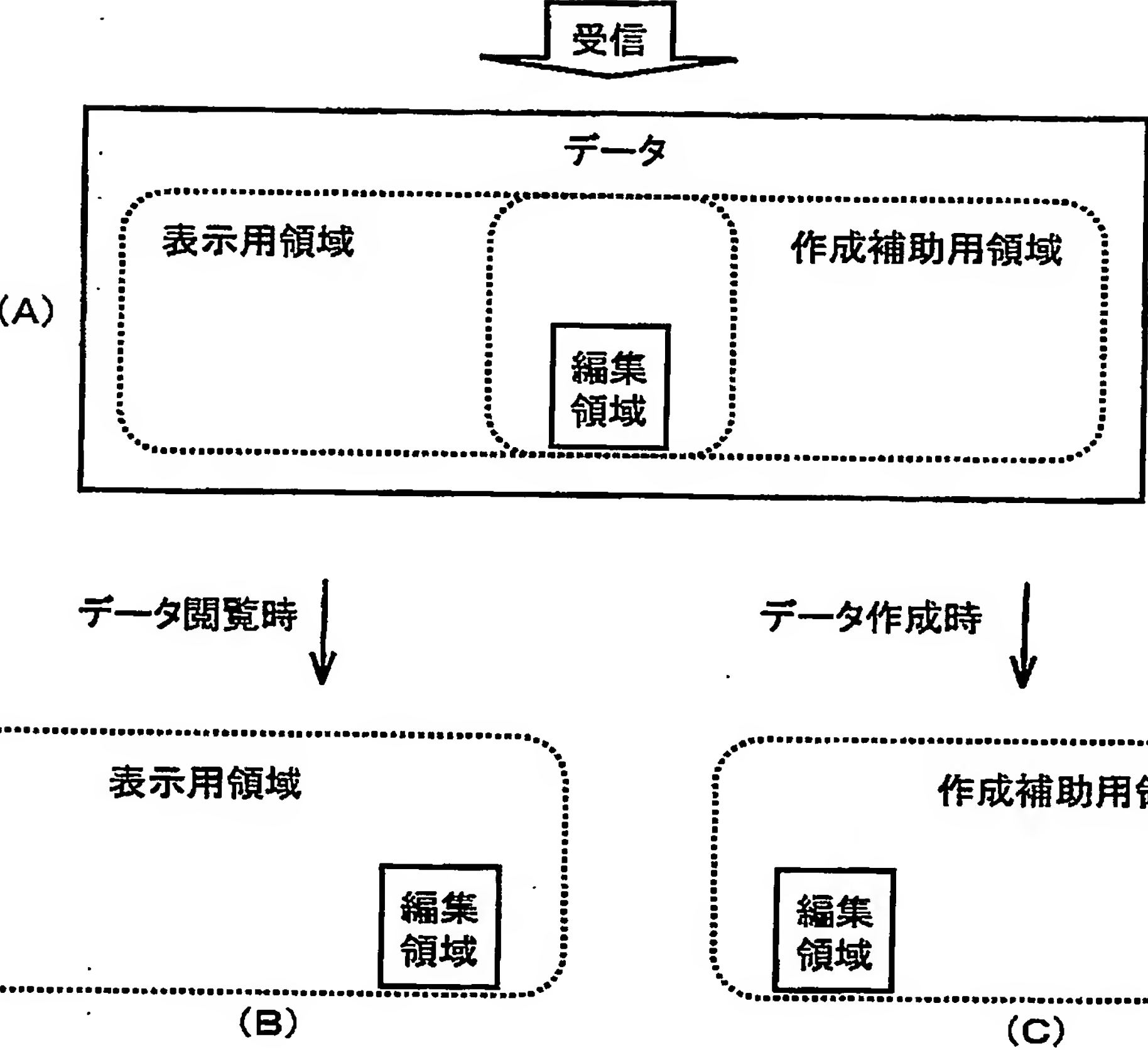
.   <smil>
.   <switch mode="composition">
.   <head>
.       <meta name="title" content="Happy Birthday" />
.       <meta name="author" content="Sharp" />
.       <meta name="role" content="template" />
.       <layout>
.           <root-layout width="240" height="300"/>
.           <region id="Image" width="240" height="240" left="0" top="0" />
.           <region id="Text" width="240" height="60" left="0" top="240"/>
.       </layout>
.   </head>
.   <body>
.       <par dur="8s">
.           <video id="video1" src="FirstMovie.mpg" region="Image" />
.           <text id="text1" src="FirstText.txt" region="Text" />
.           <audio src="FirstSound.smf" />
.           <prompt command="text_edit" targetId="text1" desc="メッセージを入力します" />
.       </par>
.       <par dur="8s">
.           
.           <text src="SecondText.txt" region="Text" />
.           <audio id="audio2" src="SecondSound.mp3" />
.           <prompt command="camera" targetId="pic2" desc="写真をとります" />
.           <prompt command="mic" targetId="audio2" desc="マイク録音します" />
.       </par>
.   </body>
. </switch>
. <switch mode="view">
.   <head>
.       <layout>
.           <root-layout width="240" height="300"/>
.           <region id="Image" width="240" height="240" left="0" top="0" />
.           <region id="Text" width="240" height="60" left="0" top="240"/>
.       </layout>
.   </head>
.   <body>
.       <par dur="8s">
.           <video id="video1" src="FirstMovie.mpg" region="Image" />
.           <text id="text1" src="FirstText.txt" region="Text" />
.           <audio src="FirstSound.smf" />
.           <prompt command="http://hoge.com" targetID="video1" desc="hoge.comにアクセス!!" />
.       </par>
.       <par dur="8s">
.           
.           <text src="SecondText.txt" region="Text" />
.           <audio id="audio2" src="SecondSound.mp3" />
.       </par>
.   </body>
. </switch>
. </smil>

```

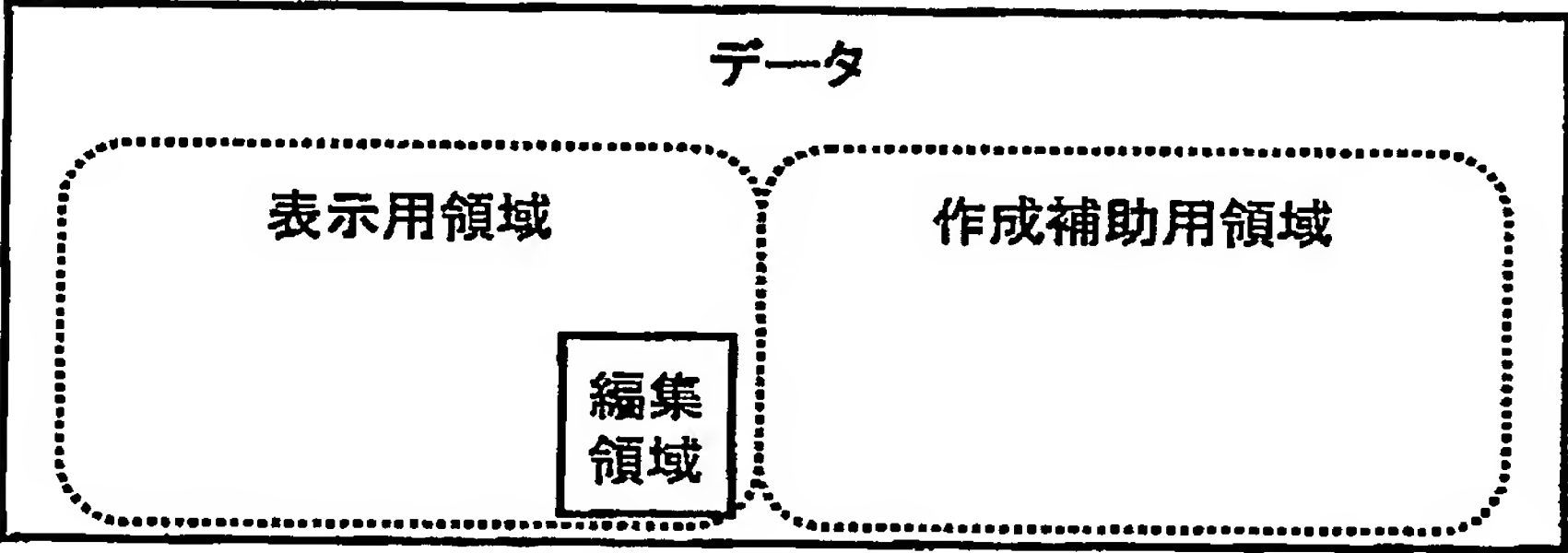
【図 3 1】



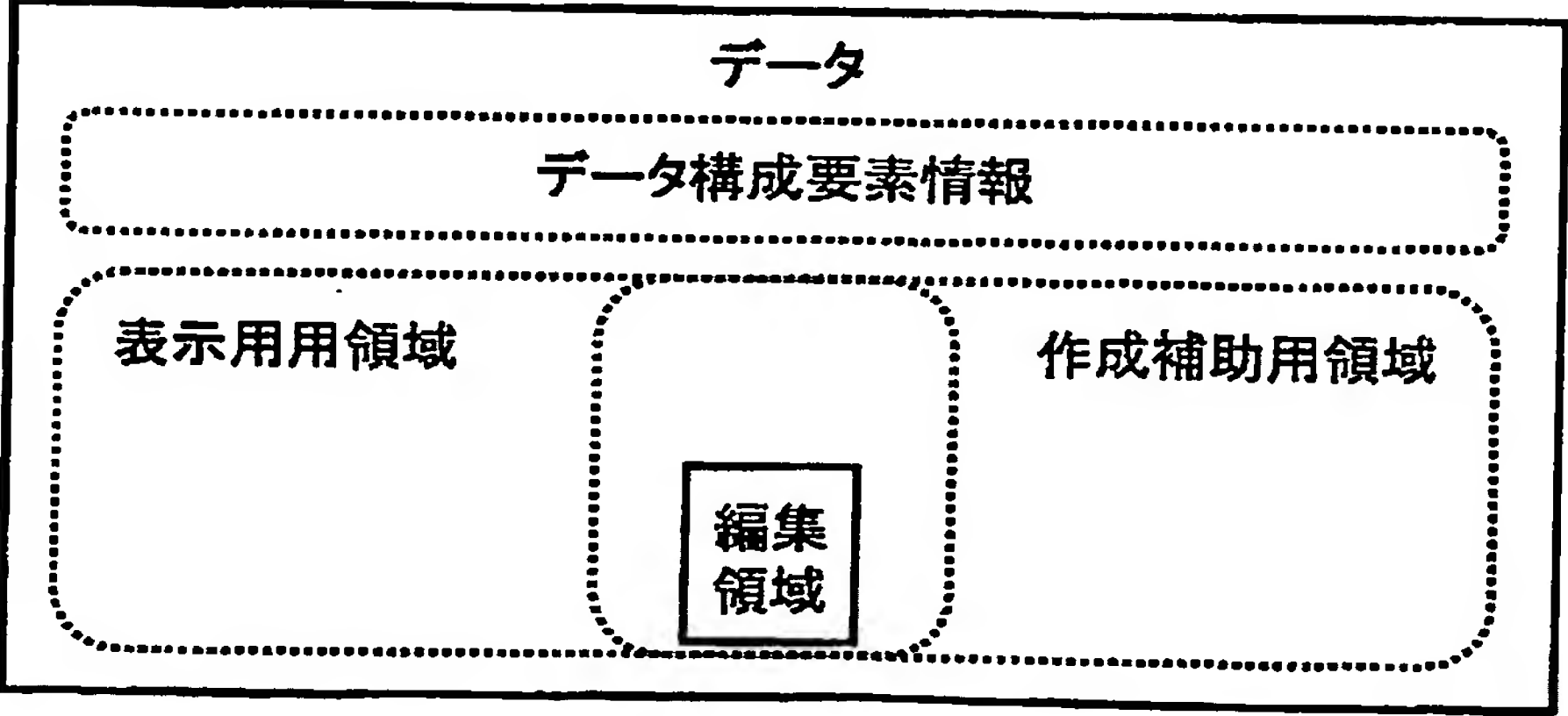
【図 3 2】



【図 3 3】



【図 3 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 受信したメッセージに基づいて、該メッセージが作成されたときと同様の手順または構成で、容易にメッセージを作成することのできるデータ処理装置を提供する。

【解決手段】 テンプレートデータ内には、表示用領域と作成用領域とが含まれ、データ処理装置において該テンプレートデータからメッセージを表示する際は表示用領域を抽出して利用し、該テンプレートデータに基づいてメッセージを作成する際は作成用領域を抽出して利用する。そして、他の装置に対して、表示用領域と作成用領域とメッセージを送信する。これにより、該メッセージの受信側でも、作業用領域を抽出して、受信したメッセージが作成されたときと同じ操作で、別のメッセージデータを作成することが容易に可能となる。

【選択図】 図 3 1

特願 2 0 0 3 - 3 7 3 2 1 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 0 0 5 0 4 9 ]

1. 変更年月日  
[変更理由]

1 9 9 0 年 8 月 2 9 日

新規登録

住 所  
氏 名

大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号  
シャープ株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☒ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☒ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☒ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☒ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☒ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☒ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**